3　華北分離工作

334　昭和10年11月13日　在満州国南大使より広田外務大臣宛(伝言)

華北諸省を国民政府から分離・自立させる工作を断行すべき旨意見具申

南※大使ヨリ廣田外務大臣ニ對スル傳言

(昭和十年十一月十三日)

對支就中對北支施策ニ關シテハ豫テ東京中央三省間ニ於テ確定樹立セラレタル方針ニ準據シ當大使館及關東軍ハ專ラ北支那駐在ノ外務官憲竝軍部ノ各種工作ニ對シ無言ノ實力的威力ヲ以テ支持支援ノ氣勢ヲ暗示シ來レリ

最近ニ到リ北支農民運動ノ勃發、從來ノ諸案件ニ對スル川越總領事ノ抗議的要求ニ對スル北支實力者ノ態度等ニ鑑ミ逐次北支自治運動ノ氣運ヲ認メタリシカ這次會々南京政府カ英國側ノ實際的支持下ニ斷行セル幣制改革ハ更ニ此種運動ニ一段ノ氣勢ヲ副ヘタルノミナラス今ヤ北支實力者ヲ驅テ單ニ經濟的ノミナラス政治的ニモ南京政權ヨリ分離セントスル氣運ヲ釀成シツツアリ

抑々今次南京政府ノ行動ハ累年ノ批(飛カ)政ノ結果財政的危機ニ瀕セル蔣介石一派及浙江財閥カ其ノ危機ヲ脱却センカタメニ四億萬民衆ノ利福ヲ無視シテ斷行セル暴擧ニシテ殊ニ其裏面ニ英國ノ辛辣ナル支援アルニ於テ其ノ結果ハ單ニ支那民衆ノ生活ノ根底ヲ脅威スルニ止マラス全支那ヲ擧ケテ英國ノ金融的支配下ニ置クモノナリ從テ之ヲナスカ儘ニ放置センカ帝國ノ國是タル日本ヲ盟主トスル東洋平和確立ノ基礎ヲ根底ヨリ破壞セラルヘキ危險アリ、換言スレハ南京政府今次ノ擧措ハ明カニ從來ノ僞裝的親日態度ヲ捨テテ再ヒ露骨ナル排日政策ニ還元セルモノナルカ故ニ帝國トシテハ此際合法的適切ナル手段ヲ講シ其實現ノ阻止ニ努力セサルヘカラス

而シテ諸情報ヲ綜合スルニ南京政路者ノ本政策實行ニ對スル決意ハ英國ノ交渉ヲ頼ミ相當鞏固ナルモノアリテ之ヲ阻止センカ爲ニハ單ニ一片ノ外交的抗議若クハ民間銀行ノ非協調的態度ノミヲ以テハ到底其ノ目的ヲ達スルコト能ハス、眞ニ今次ノ南京政府ノ政策カ帝國ノ對支政策ト兩立セサルコトヲ自覺セハ須ク徹底セル之カ阻止ノ手段ヲ講セサルヘカラス

而シテ其ノ手段ハ他ナシ北支工作ヲ此ノ機會ニ一擧ニ斷行スルコト之ナリ

北支工作ノ終局ノ目的ハ北支諸省ヲ南京政權ヨリ政治的ニモ又經濟的ニモ完全ニ分離自立セシムルニ在リ但シ領土權ヲ尊重シ之ヲ侵害セサルコトハ勿論ナリ其ノ結果ハ英國借款ノ擔保物タル關稅剩餘及鐵道收入ノ價値ヲ殆ント半減セシムルト共ニ現銀ノ集中防止ハ幣制改革ノ根底的條件ヲ破壞スルモノナルヲ以テ自ラ今次ノ南京政府ノ企圖ヲ放棄セシムルニ至ルヘク更ニ進ンテ誤レル政策ノ犧牲タラントスル四億萬民衆ヲ救濟スル好果ヲ招來スヘシ

抑々南京政府ノ本暴擧ハ明カニ我帝國ニ對スル陰險ニシテ巧妙ナル挑戰ナリ而シテ其手段カ一般特ニ北支那民衆ノ怨府トナリ今ヤ北支那自治乃至分離運動ハ之カ爲ニ更ニ拍車ヲ掛ケラレ帝國ノ抱懷スル北支工作ヲ斷行スルニ絶好ニシテ又トナキ機會ヲ現出セリ此ノ際日本トシテハ東亞百年ノ大計ノタメ、凡有障碍ヲ排除シテ北支工作ニ邁進シ之ヲ完成スルノ要特ニ切ナルモノアルヲ痛感スル次第ナリ

而シテ右ノ目的ヲ貫徹センカ爲ニハ東京中央ト出先各機關ノ上下左右渾然一躰同心協力ノ決意的努力ヲ最モ必要ト認ムル次第ナルヲ以テ中央當局ノ强力ナル指導ヲ希望ス

尙今次ノ南京側ノ暴擧ニ對シ北支實力者輩ハ曲リナリニモ對策ヲ講シツツアル外南京ニ對シ經濟的自立ノ策ヲ進メツツアリト雖之トテ眞ニ帝國カ擧國之ヲ支援シ進ンテ政治的獨立姿勢ヲ取ルヲ援助スルノ決意ヲ明示スルコトナクンハ恐ラクハ中途半端若ハ龍頭蛇尾ノ結果ニ終ラン關東軍カ今次一部ノ兵力ヲ國境ニ集結セルモ右ノ趣旨ニ由リテ北支實力者ヲシテ帝國ノ態度ニ依倚スル所アラシメ彼等ノ決意ヲ鞏クセシメテ活潑ナル施策ヲ斷行セシメントスルモノニ外ナラス素ヨリ右目的ニ鑑ミ軍ハ紊リニ關内ニ行動スルカ如キコトナシ

編　注　本文書は十一月十三日新京発、一時帰朝の在満州国谷正之大使館参事官が携行した。

335　昭和10年11月14日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛(電報)

華北分離工作推進の気運に対し政府方針の厳守を指導すべき旨意見具申

南　京　11月14日後発
本　省　11月15日前着

第一二五七號(部外秘)

累次往電ニ依リ御承知ノ通リ北支問題ニ絡ミ國民政府部内ノ對日意見俄然硬化シ來リ多少ハ共産黨其ノ他ノ不逞分子ノ策動モアルヘキカ汪兆銘狙撃事件、上海ニ於ケル諸事件等ノ發生ハ偶然ニアラサルモノト觀置クコト我方對策トシテ必要ナルヘシト存セラルル一方支那側トシテハ例ヘハ北支等ニ於テ之レ以上ノ事態ヲ生スルニ於テハ聯露派、玉碎派、歐米派等ヲ驅ソテ「デスペレーション」ニ陥ルノ危險鮮シトセス然ルニ過般本官北支出張中ノ見聞ニ依レハ先般廟議御決定ノ方針三項ヲ越エテ何等カノ事態ヲ發生スルコトナキヲ保セサル勢アリ而モ此ノ形勢ハ不幸ニモ突如發表セラレタル幣制新計畫ニ纏ハル英國側ノ對支援助ニ依リ促進セラレントスル惧充分ナリト認メラルル節アリ(數日前ヨリ我方機械化兵團山海關ニ集中セリトノ極秘聞込アリ)處置ノ如何ニ依リテハ帝國ニ取リ容易ナラサル局面トモナルヘキニ付テハ勿論既ニ御氣付ノ次第トハ存スルモ北方ニ於テモ嚴ニ廟議ニ副フ樣萬事御手配相成ル樣致度ク國民政府ノ形勢ニモ鑑ミ右電稟ス

支、天津へ轉電セリ

336　昭和10年11月16日　広田外務大臣より在中国有吉大使宛(電報)

華北工作に当り過激または過早の措置を控えるよう陸軍側係官へ注意喚起について

本　省　11月16日発

第三〇二號(極秘)

南京來電第一二五七號ニ關シ

十六日掛官ヲシテ陸海軍側掛官ト會同協議セシメタル處其ノ際陸軍側ノ説明ニ依レハ天津來電第三三二號關東軍ノ出兵ニ關シテハ同軍ヨリ右ハ幣制改革問題等ニ關聯シ宋哲元等ノ態度軟化ヲ防止センコトヲ主旨トスルモノナルカ其ノ行動ニ關シテハ充分愼重ヲ期スヘキ旨電報越シ居リ右ニ對シ中央部ヨリ萬一關内(停戰地域ヲ含ム)ニ進出スルカ如キ場合ニハ豫メ請訓スヘキ旨及本件出兵ハ時節柄北支ノ事態動搖シ自然滿洲國ニ波及スルコトアルヘキ場合ニ對スル「プレコーション」ノ措置ト云フ建前トスヘキ旨訓電濟ノ

趣ナリ尚當方係官ヲシテ北支最近ノ實情ヲ説明ノ上北支工作ハ單ニ支那ノミナラス世界全般ノ形勢ヲ考慮シツツ過激又ハ過早ノ措置ニ出テサル樣注意方肝要ナル旨説示セシメタル處右ニ意見一致シタル由ニテ陸軍側ヨリ關東軍及天津軍ニ對シ行動ヲ愼重ナラシムル樣改メテ注意ヲ與フル筈ナリト

以上貴大使極秘御含迄

南京、北平、天津ニ轉電セリ

337　昭和10年11月16日　在中国若杉大使館参事官より広田外務大臣宛(電報)

華北分離工作に対する宋哲元および商震の動静について

北　平　11月16日前発
本　省　11月16日前着

第三八六號※

平津衞戍司令部總參議陳覺生[1]カ十五日清水ニ内話スル所左ノ通

宋哲元ハ北支ニ於テ日本ト提携スルニアラサレハ其ノ率ユル第二十九軍ノ立場ヲ失フ惧アルコトヲ痛感シ居ルヲ以テ出來得ル限リ日本側ノ要望(編注)ヲ容ルル肚ヲ極メ華北ノ自治體結成ニ付テモ積極的ニ乘出シ居ル次第ナルカ差當リ河北省ニ於テ之ヲ實現スル決心ヲ固メ右運動ノ第一着手トシテ近ク在平津官民有力者ノ連名ヲ以テ「自治反共」ヲ標榜スル一宣言ヲ發シ引續キ右有力者ヲ集結シテ一機關ヲ設ケ河北省ニ於ケル財政ノ獨立(關稅、鹽稅、統稅等ノ國稅ヲ接收スル方針ナルカ其ノ具體案ニ付テハ尚研究中ナリ)ヲ始メ漸次自治權ノ確立ヲ計ル豫定ナリ右宣言ハ日本軍側ハ速ニ之ヲ發スル樣要望シアルモ支那側トシテハ五全大會開會中之ヲ爲スコトハ種々ノ障碍ニ逢着スル惧アルヲ以テ大會閉會後適當ノ機會ヲ選ヒ度キ希望ニテ目下詮議中ナリ右自治運動ニ商震カ加入スルヤ否ヤハ未定ニシテ同人カ昨今[2]ノ重要ナル時期ニ際シ(目下當地ニハ土肥原少將、大迫大佐、花谷中佐等滯在シ居リ王揖唐、曹汝霖モ十四日天津ヨリ來平セリ)地方巡視ト稱シテ北平ヲ離レ居ルハ右運動ニ逃ケヲ張リタルモノナラント想像スル者アリ又南京政府ハ商震ヲ使嗾シテ暫ク愚圖々々セシメ置キ其ノ間ニ何等牽制手段ヲ施サントスルノ魂(膽)ナリトモ噂セラレ居リ其

ノ眞相ハ判明セサルモ結局日本側ノ出様如何ニ依リ同人ノ向背ハ決定セラルルコトト察セラル宋哲元今後ノ地位ニ付過日熊斌來平ノ際南京政府ニ於テハ冀察綏靖主任ニ任命シ度キ意嚮ナル旨ヲ傳ヘ來レルカ宋ハ此ノ際餘リ中央ノ恩ヲ着ルコトハ今後面白カラスト爲シ右就任方折角考慮中ナリ兎ニ角宋ハ右ノ如キ確乎タル決心ヲ以テ日本軍側ノ希望ヲ實現スル様努力シツツアルヲ以テ日本側ニ於テモ前記自治宣言發生ノ時期並ニ其ノ後着手スヘキ自治體結成ノ具體案等ニ付テハ成ルヘク支那側ノ裁量ニ委セ且ツ支那側ノ面子ヲ立テ日本側ハ蔭ヨリ之ヲ監視鞭撻スル程度ニテ滿足スルノ雅量ヲ示サルル様希望スル次第ナリ

編　注　原文では「ヲ失フ」以下「要望」までが二度繰返されているが、筆写の際の誤りと思われるため削除した。

338　昭和10年11月16日　在中国若杉大使館参事官より広田外務大臣宛(電報)

華北分離計画に関する土肥原特務機関長の腹案について

北　平　11月16日前発
本　省　11月16日前着

※第三八七號

本官[1]上海ヨリ歸任ノ途次九日天津ニ於テ多田司令官ト又十三日當地ニ於テ土肥原少將トノ會見ノ際聞キタル所並ニ十四日松井大將ヨリ得タル情報ヲ綜合スルニ當方面ノ情勢ハ今回ノ幣制改革ニ依リ暴露セラレタル英支提携及北支各省、市何レモ現銀ノ現地保管ニ努ムルニ至レル形勢ニ刺戟セラレ從來計畫中ナリシ北支自治ノ運動俄ニ促進セラレ支那側要人間ニモ頻リニ北支自治ニ關スル政治的機構及財政獨立等ノ協議行ハレ又時々關東軍方面ヨリ土肥原、大迫、花谷等來平頻リニ宋哲元一派ト折衝シ居ル模様ナルカ土肥原ノ本官ニ内話セル腹案ニ依レハ此ノ際成ルヘク支那側要人カ北支那民衆ノ希望ニ依リ自發的ニ事實上自治ヲ行フ建前ト爲シ其ノ政治機構トシテハ不取敢宋哲元及商震ヲシテ河北省ノ反共自治委員會ヲ組織セシメ民意ニ依リ北支事情ニ基キ國民政府ヨリノ制御ヲ蒙ラサル自治行政ヲ行フ旨ヲ聲明シ財政上ハ成ルヘク國際關係ヲ紛糾セシメサル様關税ノ如キハ後廻シトシ鹽税、統税、其ノ他ノ課税ヲ北支ニ抑留シテ地方行政費ニ充テ右委員ニハ宋哲元、商震、韓復榘等ノ各省主席ノ外成ルヘク吳佩孚、曹錕、曹汝霖等ヲモ參加セシムヘク山西省閻錫山ハ最近蔣介石ニ買收セラレ居ルモ一應之ニ參加ヲ求メ其ノ態度如何ニ依リ山西ニ對スル對策ヲ決定スヘク斯テ小口ニ河北省ヨリ自治ニ着手シ漸次北支全体ニ及ホサントスルモノニシテ其ノ目標トスル所ハ要スルニ北支ヲシテ西南又ハ張作霖時代ノ滿洲ト類似ノ地位ニ置カントスルモノナルカ右運動ニ對シ蔣介石ニ於テ萬一武力干渉ヲ行フ場合ニハ停戰協定及北支事件解決ノ精神(中央軍ヲ北支ニ入レサルノ意)ニ反スルヲ以テ蔣自ラ挑戰ヲ爲スノ責ヲ負フコトトナルヘク又目下山東及江蘇ノ水害其ノ他ノ情勢ニ照シ中央軍カ山東ヲ突破シテ北進スルコトハ到底不可能ナルヲ以テ此ノ點ハ意トスルニ足ラスト云フニアリ

尚[2]宋哲元及商震等ノ合作ノ可能性ニ付テハ支那側要人ハ勿論武官中ニモ尚疑念ヲ懷クモノアルモ土肥原ハ頗ル樂觀シ居リ又本官ヨリ右ノ如キ内面的工作ニ依ル支那側ノ自治運動成功ノ見込アリトセハ別ニ獨立宣言ニ類スル自治聲明ノ如キハ成ルヘク避クル方得策ナル旨力説セル處土肥原ハ何等カノ形式ニ於テ民意ニ依リ前記ノ措置ヲ講スル次第ヲ表明スルニアラサレハ單ニ地方軍閥等ノ策動ナルカ如ク疑ハレ功ヲ奏シ得難カルヘシトノ意見ナルカ右聲明又ハ宣言ノ時期ニ關シテハ軍側ニ於テ即時發表ヲ主張スルモノアルニ對シ宋哲元側ニ於テハ五全大會後ニ於テセンコトヲ希望シ目下交渉中ナル由ナルカ支那側要人間ニハ本月二十日前後ニハ或ハ自治聲明發セラルルヤノ噂アル趣ナリ

尚今回ノ幣制改革ニ現ハレタル歐米派ノ擡頭ニ依リ日本出身ノ要人等ハ總退却ノ破目ニ陷ルヘキヲ悲觀シ居リ王克敏及殷同等モ急遽南京ニ赴キタルカ殷同ハ近々北寧鐵路局長ヲ辭シ青島ニ引籠ル積リナル旨本官ニ内話セリ

本電絶對ニ外部ニ洩レサル様特ニ御配慮ヲ請フ

339　昭和10年11月17日　在中国若杉大使館参事官より広田外務大臣宛(電報)

宋哲元の自治宣言発表予定に関する情報について

北　平　11月17日後発
本　省　11月17日後着

第三八九號(至急、部外極秘)

往電第三八六號ニ關シ
本官ノ聞込ニ依レハ其ノ後軍側ノ北支自治工作ハ著シク切迫シ來リ先ツ宋哲元及商震ノ合作ニ依リ河北省ノ自治ヲ企テタルモ商震ノ向背未タ決セサルモノアルヲ以テ不取敢宋哲元ヲ押立テ之ヲ斷行セシメントスルモノノ如ク關東軍ハ既ニ一混成旅團ヲ山海關ニ集結シ更ニ十七日古北口ニ一混成旅團ヲ集結スルコトトナリ居ル樣子ナルカ海軍武官ノ本官ニ內話スル所ニ依レハ關東軍ハ海軍ニ對シテモ軍艦ノ北支出動及青島(脫?)ヲ得ムコトヲ要求セル趣ニテ萬一ノ場合察哈爾方面ニ於テモ李守信軍ヲ利用シテ威壓ヲ加フルノ必要ヲモ顧念シ張家口ヨリ松井大佐モ來平シ協議ニ加ハリ居ル處宋哲元側ニ於テハ大体自治運動ニハ異存ナキ模樣ナルモ自治宣言ヲ五全大會中ニ行ハンコトヲ迫ラレ頗ル當惑シ居ル趣ナルカ結局同會終了ノ翌日卽チ二十日之ヲ發表スルコトトナレル模樣ニテ同宣言案文ハ既ニ宋哲元側ヨリ提出シ目下某參謀之ヲ携行シテ天津軍ト打合セヲ爲シ居ル趣ナリ
尙北寧鐵路局長殷同ハ近々辭職ノ筈ナルヲ以テ軍側ニ於テハ此ノ際北寧鐵路及平綏鐵路ヲ北支自治委員會ニ接收セシメントスル意嚮ナルヤノ噂アリ
右ハ當方ニ於テハ軍側ヨリ正式通知ナキモ過般御來訓ノ三省協議ノ次第モアルニ付不取敢御參考迄
支、南京、天津、青島、濟南、漢口、廣東ヘ轉電セリ

340　昭和10年11月17日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛(電報)

国民政府の対日態度硬化にも鑑み我が方現地軍の性急なる華北工作は重大な結果を招く虞れがある旨意見具申

南京　11月17日後発
本省　11月17日後着

第一二七七號(極秘、部外秘)
往電[1]第一二五七號ニ關シ
一、累次電報ノ通リ五全大會ニ際シ特ニ國民政府ノ對日感情硬化シ來レリト見ルヘキ節多ク特ニ
(一)馮玉祥、西南派迄參集シ擧國一致國難ニ當ラントスル聲高マリ
(二)中央委員選擧ニ當リ汪兆銘派ハ孫科派(中立)ト合スル

モ尙三割ニ滿タザル狀況ナル爲陳公博、顧孟餘等ノ部長級ハ當選スヘキモ唐有壬、曾仲鳴級ニ至リテハ全然未定ナリトサヘ傳ヘラルル狀況ナリ(十五日張操來談)
(三)幣制改革ニ關連シ宋子文、孔祥熙一派ハ英國トノ聯携ヲ口ニシ自然日本トノ合作話ハ持出シ得ラレサル現狀トナリ
(四)支那ノ對露關係ハ最近何等カ新タナル發(展)アリシヲ思ハシムルモノアリ特ニ鄧武官新疆視察歸來後從來ノ南京側對盛世才ノ確執緩和セラレタルヤノ風アリ又五全大會中剿匪ニ關スル記事一切新聞紙面ヲ去リ居ル事實アリ
(五)最近頻發セル上海ニ於ケル抗日的事件ハ單ナル突發事件ト見ラレサル節アリ
要スルニ航空聯絡交涉決裂以來懸案解決ニ對スル支那側ノ態度ハ目ニ見エテ不熱心トナリ蔣介石以下多數國民黨中央委員カ北支問題ニ對スル我方出方ニ依リテハ飽迄抗爭セントスル氣配濃厚ナルモノアル次第ナリ[2]
二、一方蔣介石ハ自家勢力ヲ維持シ且ツ從來ノ行懸リニ全ク隔タラサル狀態ヲ達成シ得ルニ於テハ北支問題モ何トカ穩便ニ片付クルコト絕對必要ナル立場ニアリ自然河北事件ノ際ノ如ク人知レサル苦心ヲ北支問題ノ平和解決ニ注キ居ルコト亦事實ニシテ熊斌カ北方ヨリ歸來閻錫山、何應欽、張學良等ト懇談ヲ遂ケ大體次ノ如キ方針ニ依リ北支ヲ收拾スルコトニ決定セントシ居ルモ之モ實ハ蔣介石ノ意ニ基クモノト觀測セラル而シテ右案ハ軍事分會ヲ撤廢シ約千人ニ餘ル舊東北軍元老院トモ云フヘキ同分會所屬ノヤクザノ將士中正規ノ敎育アルモノハ之ヲ中央軍各部隊ニ配屬シ其ノ他ハ屯墾兵トシテ處分シ同分會ニ於テ使用シ來レル月額約四百萬元ハ
(一)綏遠、山西ノ綏靖主任タルヘキ閻錫山
(二)察哈爾、北平市ノ綏靖主任タルヘキ宋哲元
(三)北平市以外ノ河北省綏靖主任タルヘキ商震
(四)山東綏靖主任タルヘキ韓復榘
ノ間ニ適宜分配セントスルモノニシテ
十八日頃迄ニハ介石ノ決裁ヲ經テ卽時發表セラルル手筈ナルカ(行政院黃濬(濬カ)ノ內話)右ハ介石カ中央ノ面子ヲ損セスシテ最大限度迄日本ノ要望ニ應セントスル苦心ニ出テタルモノト見ラル[3]

三、我方申入ニモ從ヒ外交部等ニ於テ日支開戰等ノ謠言取締ニ付テハ相當手配中ナリシモ十二日以來十四日迄ノ五全大會ニ於ケル空氣ハ餘程險惡ニテ許崇智ノ談話(往電第一二七二號)ニモ窺ハルルカ如キ形勢ナリシカ政府ハ此ノ間緩和ニ奔命シ何トカ纏マリヲ着ケタル結果十五日ノ何應欽ノ談話トナリ(往電第一二七三號)更ニ十六日介石ハ五全大會秘密會ニ於テ長時間ニ亘リ謠言ヲ信スヘカラサルハ勿論之ヲ放ツニ至リテハ支那ヲ求メテ危地ニ導クモノニシテ政府ノ對日方針ハ何等變(更)無ク輕擧妄動ハ愼ムヘキ旨ノ大局論ヲ述ヘ八分通ハ拍手シテ之ニ和シタル事實アリ(黃濤(濤カ)ノ極秘內話)又更ニ二十一日頃介石ハ改選セラルヘキ新中央委員ニ對シ改メテ同樣ノ趣旨ヲ繰返ス積リナルカ結局右等ノ事情ハ十五日蔣作賓カ本官ニ對シ何レ介石カ二十四、二十五日頃有吉大使ト面會ノ上ハ誤解モ去ルヘク北支問題ニ付テモ的確ナル決定ヲ申上ケ得ヘシト內話セル所ト符合シ彼カ抗日ヲ看板トスル連中ヲ操ル細心ノ注意ヲ窺フコトヲ得ヘシ

(4) 以上ニ依リ國民政府最高幹部ハ最近高マリ來レル潛行的抗日氣分ヲ抑ヘツツ北支問題ノ突發ヲ避クル爲百方力ヲ用ヒツツアルコト明カナル處若シ此ノ努力酬ヒラレスシテ北支ニ日本ノ使嗾ニナルカ如キ目立チタル事件突發センカ反撥的ニ或ハ意外ノ抵抗ヲ見ルニ至ルヤモ知レサル事情今日ニ於テモ明カニ觀取セラレ介石ノ細微ノ注意ハ寧ロイザト云フトキノ爲擧國一致ノ氣勢ヲ作リツツ支那全局ノ爲、今ハ之ヲ抑ヘ居ルモノト見ルヲ妥當トスヘシ

五、飜テ外國側ニ付之ヲ見レハ英國ハ「パブロウスキー」ノ談ニ依ルモ(往電第一二七一號)將又「ジヨンソン」トノ會談ニ依ルモ當初ヨリ列國ヲ出拔キ支那ト密接ナル關係ヲ着ケントシ居ルコト明カニシテ今次英國ノ策動ハ實ハ此ノ上日本ノ支那ニ對スル發動アラハ在支英國勢力根底ヨリ覆サルルニ至ルヘキヲ惧レ自己防衛ノ爲支那及友邦ヲ招カントセル一流ノ苦肉策ニ出テタルモノナリ左レハコソ「ジヨンソン」ノ如キモ甚シク英國ノ遣口ニ憤慨シ居ル實情ナルカ(往電第一二五八號)十六日本官ヲ來訪ノ際「ジヨ」ハ日本カ北ニ於テ事ヲ起スカ如キコトハ有ル間敷キカ若シアラハ僕モ亦英國ノ爲ス所ニ倣フコトモアルヘシト笑ニ紛ラシツツ述ヘタルハ注意ノ要アリ

(5) 一方露ノ對支野望ニ至リテハ累次報告ノ通ニモアリ日本

ノ執ルコトアルヘキ北支ニ於ケル行動ニ對スル國際情勢ハ油斷ナラスト云フヘク列國ノ中ニ大ナル不安ヲ有シ且ツ我方ノ機敏ナル行動ニ目ヲ廻シタル滿洲事變當時ノ形勢ト大差アルハ見逃スヘカラス

六、勿論北支ノ形勢ハ日本ノ思フ樣ニスル爲手心ヲ加フヘシトノ點ハ既ニ本官北支ヨリ歸寧以來支那側ニ對シ機會アル毎ニ說得シ來レル次第ナルカ右ハ時ヲ掛ケ目立タサル間ニ達成スルコトコソ必要且ツ有效ニシテ前述ノ如キ內外ノ形勢ニ於テ今之カ達成ヲ焦ルコトノ禁物ナルヘキハ夙ニ政府ニ於テモ充分御承知ナルヘキカ事實ハ忌憚ナク言ヘハ北支出先軍部ニ於テハ支那中央軍カ河北省ニ居ルコトナカルヘキヤヲ氣ニシ居ル程(右照會電報往復アリ)切迫シ居リ場合ニ依リテハ我方實力ヲ行使スルモ速急ニ宋哲元ヲ中心トスル自治運動ヲ結成セシメントシ居ルモノアル事態ナル處如上ノ形勢ニ鑑ミ斯テハ退ツ引ナラサル困難ヲモ招來スル惧アルニ付テハ今直ニ行動ニ出ツル點ニ付速急嚴格ナル御措置相成ル樣致度ク再應實狀ト共ニ茲ニ電稟ス

支、北平、在支各總領事、厦門、香港ヘ轉電セリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

341　昭和10年11月18日　広田外務大臣より在中国有吉大使宛(電報)

華北工作は南京における外交交渉と呼応して慎重に行うよう陸軍側に説示について

本　省　11月18日後3時15分発

第三〇四號(極秘)

北平來電第三八七號ニ關シ

往電第三〇二號會同ノ際係官ニ於テ右往電說明ノ外北支工作ハ現地ニ於テ適宜工作スルト共ニ他方南京側ニ對シ同政權ニシテ速ニ北支ノ現狀ニ「ミート」スルカ如キ適當ノ措置ヲ執ラサルニ於テハ事態ハ益々惡化スルノ虞アリトノ趣旨ヲ說示シ以テ南京側ヲシテ北支ノ現狀ニ「ミート」スルノ態度ニ出ツル樣仕向ケテ目的ノ達成ヲ期スルコト可然又斯ノ如キ方法カ北支工作ヲ進捗セシムルト同時ニ中南支ニ於ケル我方ノ地步ヲ固ムル所以ナリ而シテ此レカ爲ニハ北支ニ於ケル工作ハ南京側ニ對スル工作ト呼應シテ相當ノ時ヲ掛ケツ、愼重ニ行フコト肝要ナルヘク此ノ際一氣呵成ニ

北支ノ獨立又ハ強度ノ自治ヲ斷行セシムルカ如キハ南京ニ對シ前記工作ヲ施スノ餘地ナカラシムルモノナルノミナラス同政權ヲ「デスパレート」ナラシムル虞モアリ全面的ニ極メテ厄介ナル事態ヲ惹起スヘシトノ趣旨ヲ說示シタル處海軍側ハ元ヨリ陸軍側掛官(喜多及影佐)モ右ニ全然同感ナル旨答ヘ居タル趣ナリ

右會同後接到セル北平發本大臣宛電報第三八六號及第三八七號ノ次第モアリ引續キ軍部ト協議ノ筈ナルモ往電第三〇二號補足旁不取敢

北平、南京、天津ニ轉電セリ

342 昭和10年11月18日 広田外務大臣より 在中国有吉大使宛(電報)

国民政府に対し華北情勢に即応した措置をとり武力解決を避けるよう申入れ方訓令

本省 11月18日発

第三〇五號(至急、極秘)

往電第三〇四號ノ末尾ニ關シ

一、貴大使ハ至急赴寧ノ上(一)南京側ニ於テ速ニ北支ノ現狀ニ「ミート」スルカ如キ措置ヲ執ラサルニ於テハ事態ハ益々惡化スルノ虞アル趣旨ヲ告ケ其ノ深甚ナル考慮ヲ求メ且(二)目下支那側ハ山東、河北ノ南境ニ中央軍ヲ集中シ居ル趣ナル處同軍ヲ北支ニ進入セシメ武力ヲ以テ事態ノ解決ヲ計ルカ如キコトアラムカ由々シキ事態ヲ招來スヘキ旨警告セラレ度

二、(以下貴官限リ極秘含ミ)本電ト併行シ陸軍側ニテハ出先ニ對シ(イ)自治宣言ノ時期ハ前記一申入ノ結果ヲ見タル上トセシムヘキコト又中央軍部トシテハ本月末位ニ延期セシムルコトヲ適當ト認メ居ルコト(ロ)自治ノ內容ハ當初ハ輕度(鐵道接收及海關ノ全般的接收ノ如キハ不可)ノモノトシ漸ヲ追フテ進マシムル樣工作スヘキコトヲ訓令セリ

本電軍部ト打合スミ

南京、北平、天津、濟南、青島、漢口、福州、廣東、厦門、滿ニ轉電セリ

343 昭和10年11月18日 広田外務大臣より 在中国有吉大使宛(電報)

華北自治宣言の発表時期および自治内容に関する外陸海三省係官の協議結果について

本省 11月18日発

第三〇六號(極秘、至急)

往電第三〇五號ニ關シ

十八日外務陸海軍係官打合會ヲ行ヒタルカ其ノ經過左ノ通ナリシ趣ナリ

一、外務ヨリ(一)北支自治宣言ハ二十日ニ發セラルヘキ模樣ナルコト及(二)自治ノ內容ハ鐵道ノ接收等相當强度ノモノトナル虞アルコト(陸軍側ニハ此等ノ點ニ付出先ヨリ情報ナキ由)等ヲ說明ノ上(イ)政治的ニ「エキサイト」シ居ル五全大會中又ハ其ノ直後ノ空氣ニ於テ本件宣言ヲ發スルニ於テハ南京側ヲシテ面目上中央軍ヲ北上セシムル等(陸軍側ニテモ右ノ如キ事態ノ發生ヲ極力避ケ度意向ニテ其ノ結果往電第三〇五號一ノ(二)ノ申入方ヲ希望セル次第ナリ)「デスパレート」ノ措置ニ出テシムル虞アルコト(ロ)此ノ際自治ノ內容ヲ强度ノモノタラシムルコトモ前項同樣ノ理由ニ依リ不可ナルコトヲ主張シ(A)宣言發布ノ時期ヲ遲ラスコト(B)自治ノ內容ハ此ノ際輕度ノモノトスルコト出先ニ訓令方ヲ要求シ海軍側ハ右要求ヲ强硬ニ支持セリ

二、陸軍側ニテハ右(ロ)ニハ全然同感ノ意ヲ表シ從テ(B)ノ件訓令方ニハ反對セス又(イ)ニ付テハ首肯セルモノノ如キモ出先ニ對スル氣兼ニ依ルモノカ(A)ノ件電報方ニ同意セサリシカ種々懇談ノ末外務出先ニ對シ冒頭往電ノ一ノ如ク訓令スルト共ニ陸軍出先ニ對シ同電二ノ如ク訓令スルコトニ話合ヒタリ

本電貴官限リ極秘含ニ止メラレ度

南京、北平、天津ニ轉電セリ

344 昭和10年11月19日 広田外務大臣より 在中国有吉大使、在満州国南大使、在中国若杉大使館参事官他宛(電報)

華北政治体制は同地方中国人の自由意思により決定すべき旨重光次官より中国側に申入れについて

本省 11月19日発

合第八七一號(極秘)

次官ヨリ日支親善交渉ニ對シ障害ヲ與フルカ如キコトニ對シテ双方共注意ヲ拂ヒ之カ除去ニ努ムルハ素ヨリ當然ノコ

トニテ日本側ニ於テモ異存ナキ次第ナルカ北支方面ノコトニ關シ特ニ支那側ノ注意ヲ喚起シ度シ

其ノ第一點ハ北支ニ於ケル地方人ハ歴史的傳統ニ顧ミ特殊ノ政治的經濟的要望ヲ有スヘシ貴方ハ或ハ其ノ裏面ニ日本ノ策動アリト見ラルルカ如キ處日本人中アルモノハ此種ノ策動ヲナシ居ルモノアルヘキモ斯ル外部ヨリノ策動ハ決シテ決定的ノ原因ヲナシ得ルモノニ非ス大勢ハ貴國ニ於ケル貴國人ノ意向ニ依リ決スルモノナリ此自然ノ要望ハ單ニ斷壓ノミヲ以テ臨ム時ハ思ハサル結果ニ發展スルノ危險アリ故ニ自然ノ方向ニ善導スルヲ要スヘシ

第二點ハ北支ハ滿洲國ト長ク國境ヲ接シ且日本ノ神經ノ最モ集中セル所ナリ日本軍ハ國境近クニ駐屯シ貴國ハ滿洲國ノ存立ニ對シ今尚事實上ノ承認ヲモ與ヘ居ラサル狀況ナリ北方ノ發展ニ善處セラルル爲ニハ飽ク迄日滿支三國ノ感情ノ融和及利害ノ調和ニ向ツテ進マサルヘカラス然ラサレハ北方ニ於ケル神經ハ益々イラ立チ不安ハ募リ治安維持ニ貢獻スル所以ニアラス

以上ノ二點ニ關シテハ特ニ南京政府ノ注意ヲ要望セサルヲ得スト述ヘタルニ

丁代理大使ハ南京ニ報告スヘシト答ヘ南京政府ノ日支親善交渉ノ誠意ヲ繰返シ南京政府カ日本對抗ノ爲ニ兵力ヲ隴海線ニ集中セリトノ新聞報道ヲ强ク否定シ居タル趣ナリ

編　注　本電は同日発広田外務大臣より在中国有吉大使他宛合第八七〇号(第65文書)の別電。

345　昭和10年11月19日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛(電報)

華北分離工作に対する宋哲元動静および蔣介石措置振りに関し唐有壬内話について

南　京　11月19日後発
本　省　11月19日後着

第※一二八七號

時局ニ關シ十九日唐有壬ノ内話及黄濬(溶カ)ノ内報ヲ綜合シ得タル所左ノ通

一、宋哲元ハ仲々シタタカ者ニテ土肥原等カ宋ヲ壓迫シ且韓復榘ヲモ殆ト强制的ニ自治宣言案ニ贊成セシメタル景況ヲ逐一蔣介石ニ報告越シ居リ萬事筒抜ニ分リ居ル樣子ニ

テ支那側ニ於テサヘ宋ノ如キハ驚クヘキ喰ハセ者ナリト呆レ居ル趣ナリ

二、蔣介石ハ北支問題ヲ何トカ平和的ニ片付ケ度ク(往電第一二七七號ノ二)百方手ヲ盡シ居ルモノノ如ク例ヘハ殷同カ辭意ヲ固メテ十五日來寧直ニ蔣介石ニ對シ逐一報告セルニ對シテモ蔣ハ殷カ土肥原ト好キニモ鑑ミ兎モ角今一應歸北シ更ニ今後ノ事情ヲ報告スル共ニ自分(蔣)ノ意ヲ傳フヘシトテ支那側ノ出方ヲ今暫ク見ラルル樣申入方命令シタル經緯アル處是等ノ手段ニシテ盡クルニ於テハ蔣モ何トカ手ヲ打タサルヲ得サル破目トナル次第ナルカ最近支那側カ外國ヨリ輸入ノ新武器ヲ杭州ヨリ陸揚シ居ル事實モアリ又宜興ノ大洞窟ハ數日前ヨリ立入ヲ禁止シ武器貯藏等ニ利用セントシ居ル事實モアル處右ハ强チ大演習ノ爲トノミ思ハレサル節モアリ注目ニ値スルモノト認メラル

346　昭和10年11月20日　在天津川越総領事より広田外務大臣宛(電報)

華北自治宣言案の骨子について

天　津　11月20日後発
本　省　11月20日後着

第※三四九號

貴電第一七一號ノ二ニ關シ

自治宣言ハ宋哲元ニ於テ韓復榘ニ來平又ハ來津ヲ求メ兩人間ニ直接面談接洽ヲ遂ケタル後各團體ノ請願ト相呼應シテ華北(或ハ北方)防共自治委員會ノ名ニ於テ發セラルルコトニナリ居ル模樣ニテ宣言文ノ骨子ハ「赤化ノ漸進ヲ此ノ儘ニ放置スレハ北支モ外蒙、新疆ノ轍ヲ履ム惧アリ防衛ノ爲協力シテ其ノ堅實ヲ圖ランカ爲ニ自治ヲ布キ睦隣ノ趣旨ニ基キ地方ノ開發ヲ勸ム」トノ趣旨ニテ委員ノ顔振ハ宋哲元、蕭振瀛、秦德純、張自忠、韓復榘、程克、萬福麟、沈鴻烈、殷汝耕ニシテ自治ノ範圍ハ五省三市二區(察東及非戰區域)ノ豫定ナル趣ナリ

申ス迄モ無キコト乍ラ當方ト當地軍側トノ關係ヲモ御考慮ノ上此ノ種情報ノ事前發表ハ絶對差控ヘ相成ルハ勿論中央軍部ニ對スル御通報ニ付テモ相當御裁量相成度ク爲念

347　昭和10年11月20日　在済南西田(畊一)総領事より広田外務大臣宛(電報)

華北分離工作に対する韓復榘山東省主席の動静について

第※二〇六號　　済南　11月20日後発
往電第一九二號ニ關シ　　本省　11月20日後着

其ノ後韓ハ既電ノ通リ銀ノ中央輸送ニ對スル反對的措置、五全大會ニ宛テ政權開放通電ヲ發スル等漸次其ノ旗色ヲ明ニシ來リ一方平津方面ニ於テ宋哲元、商震等ヲ中心ニ河北省自治運動具體化スルニ連レ前後數回ニ亙リ使者ヲ派シ適宜聯絡ヲ遂ケ居ル次第ナルカ最近韓、商、宋等ニ於テ防共自治委員會(共產黨防衛ヲ表面的目的トスル北支聯省自治機關)樹立ニ關スル宣言ヲ發セントノ運動アリ韓ハ其ノ趣旨ニハ異存ナク寧ロ初メヨリ强硬ナル決意ヲ有セル處該宣言ノ如キハ五全大會後ニ行ヒ少クトモ華北五省ノ一致結束ヲ必要トスト說キ且ツ山西側ノ向背如何ハ兎モ角トシ宋哲元、商震兩者間ニ於テスラ對立的傾向アルヲ不可トシ右兩者間ノ結束ヲ絕對必要トスト力說シ居レリ更ニ宋、商間ノ感情融和ヲ圖リ旁防共委員會設立後ノ人事問題等豫メ協議ノ爲二十日頃ニハ是非共韓ヲシテ平津方面ニ出馬セシメント勸ムル向アル處韓ハ現下機微ナル政局ニ際シ現地ヲ動クコト種々ナル點ヨリ不可ナリトシ(中央ニ於テハ馮玉祥ヲ總司令等ノ名義ニテ華北ニ派シ今後ノ政局ニ處セシメントノ說モアリ目下南京ニハ馮及鹿鐘麟、石敬亭等ノ西北軍系ノモノ滯在シ居ル關係ヨリ韓ハ同人平津行キノ虛ニ乘シ蔣介石派又ハ馮一派ニ依ル韓復榘軍內部ノ切崩シ策動等ヲ懸念シ居レリ)未タ其ノ期ニアラサル旨ヲ說キ特ニ十九日代表者ヲ平津ニ派シ折角宋商間ノ結束ヲ計ラシメツツ專ラ機ノ熟スルヲ待チツツアル狀態ナリ尤モ中央及馮玉祥等ヨリハ種々ナル手段ニ依リ韓ヲ脅カシ或ハ聯絡ヲ計リ新政權運動ヲ鈍ラサント畫策シツツアルモ同人ノ決意頗ル强硬ナリ御參考迄

348　昭和10年11月21日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛(電報)

華北情勢に関する有吉・蔣介石会談について

第※一二九〇號　　南京　11月21日後発
有吉[1]大使ヨリ　　本省　11月21日後着
貴電第三〇五號ニ關シ

本使二十日來寧同日午後蔣介石ト會見セリ(當方ハ堀內、須磨、有野先方ハ張群、唐有壬同席ス)

一、本使ヨリ先ツ北支最近ノ情勢及之ニ關スル堀內、須磨視察報告ノ結果ニ基キ適宜說明シタル上此ノ際中央カ北支ノ特殊事態ヲ切實ニ認識シ徒ニ民衆ヲ壓迫スルカ如キ行動ニ出テス現實ニ卽シタル措置ニ出テンコトヲ要望スル旨述ヘタルニ蔣ハ北支ノ情勢ニ付テハ每日現地官憲ヨリ詳細報告ヲ受ケ居ルカ決シテ心配スル程ノモノニアラサルニ付安心セラレ度シト述ヘタルカ

二、[2]本使ヨリ最近ノ北支ニ於ケル自治運動ハ其ノ內容等充分承知シ居ラサルモ此ノ種ノ運動ハ元々中央カ北支ノ特殊事態及今日迄ノ歷史ヲ充分認識セス既定約定ニ基ク各種案件ノ解決ニ對シ遷延策ヲ取リタルカ爲發生シタルモノニシテ中央ニ於テ萬一之ヲ壓迫シ又ハ武力ヲ以テ彈壓スルカ如キコトアルニ於テハ事態ノ紛糾治安ノ破壞ヲ來シ延イテ同地方ニ密接ナル關係ヲ有スル日本及滿洲國ニ多大ノ影響ヲ及ホス惧アリ殊ニ滿洲國ノ保全ヲ擔當スル關東軍トシテハ之ヲ默視シ得サルヘク此ノ點特ニ貴方ノ注意ヲ喚起セサルヲ得スト述ヘタルニ(我方ノ有スル情報ニ依レハ中央軍ノ一部ハ既ニ山東及河北省南境ニ集中セラレ居ル趣ニテ此ノ點ハ特ニ重要視セサルヲ得スト說明セリ)

三、[3]蔣ハ御趣旨ハ一應了解セルモ支那トシテハ國家ノ完全ナル主權ニ反シ行政ノ統一ニ支障ヲ來ス如キ自治制度ハ到底許容スルヲ得ス尤モ北支ノ當局者及各團體等ヨリノ連日ノ報告ニ依レハ一人トシテ自治又ハ獨立ヲ希望スルモノナク決シテ心配スルカ如キ事態ニアラストテ至極自信アルカ如キ口吻ヲ示シ更ニ假令多少ノ動搖ヲ來スカ如キ考ナク又現地ノ軍人モ自分(蔣)ノ命令ニハ服從スル自信アルニ付安心セラレ度シト答ヘ(事實蔣ハ中央軍ノ北上又ハ之ニ依ル彈壓等考ヘ居ラサル樣見受ケラレタリ)更ニ語ヲ次テ實ハ本日貴大使トノ會見ニ於テ日支ノ國交改善問

題ニ付御相談致度シト考ヘ居タルニ内政問題ニ屬スル北支ノ自治運動等ニ付先ツ御話ヲ受クルハ遺憾ナリト述ヘタリ

四、(4) 依テ本使ハ自治運動ハ素ヨリ内政問題ニ屬スルモ之カ對策如何ニ依リテハ北支ノ治安破壞サレ延イテ外交問題ヲ惹起スル惧アリ特殊ノ關係ヲ有スル我方トシテ無關心ナル能ハサルコト及右自治ノ具體的内容ハ承知セサルモ所謂支那ノ統一等ヲ破壞スルモノトハ認メサル次第ヲ說示シ尙本使モ今日兩國ノ國交改善問題ニ付意見ノ交換ヲ爲シ度キ豫定ナルカ北支ノ事態カ相當逼迫シ居ルコトハ其ノ成行如何ニ依リ直ニ全體ノ國交問題打合セモ無意味ニ終ル惧アル爲緊急事項トシテ先ツ北支問題ヲ持出シタル次第ヲ告ケ尙同席ノ須磨ヨリ北支要人等トノ會談ノ結果ヲ綜合シ自治ニ對スル彼等ノ希望ノ點等然ルヘク說明ヲ爲シ本運動カ民意ニアラスト云フハ認識ノ不足ニ依ルモノナル旨ヲ說明シタルニ

五、(5) 其ノ際張群ハ傍ヨリ有體ニ言ヘハ日本カ土肥原少將ヲ召喚シ多田司令官ノ濟南行等ヲ阻止セラルレハ立所ニ自治運動ハ熄ムヘシ昨日北支ヨリ歸來セルモノノ報告ニ依レハ北支當局ハ土肥原氏ヨリ華北協同防赤委員會章程ノ原稿ヲ受ケ同時ニ同氏ノ最高顧問タルコトノ提案ヲ受ケタル由ナリト述ヘタルニ付本使ヨリ自治運動ニ付現地ノ日本人ニシテ之ニ同情シ或ハ贊意ヲ表スルモノアルヘキハ免レサル所ナルヘキモ此ノ種ノ運動カ眞ノ民意ニアラスシテ他ニ外力ニ依リ行ハルルカ如キハアリ得ヘキコトニアラストテ支那側ノ事態ニ對スル認識及善處ノ必要ナル次第ヲ繰返シ說明シタルニ

六、(6) 蔣ハ特殊事態ニ對シテハ自分モ特ニ認識シ居リ二週間前既ニ之ニ應スル辨法ヲ内定シ居レルモ目下五全大會中多忙ナル爲メ之カ實施ノ運ニ至ラサル次第ナルカ近ク軍事分會ヲ廢止シ別ニ日本側ト責任ヲ以テ應酬シ得ル大官ヲ派遣シ事態調整ノ途ヲ圖ラシムルコトニ決心シ居レリト述ヘタルカ本使ハ和平ノ手段ヲ以テ調整收拾ノ途ヲ講スルハ素ヨリ結構ナルカ現在ノ事態ノ見方貴方ト我方ト相違ノ點アリ本使ニ於テハ事態相當急迫シ居リ成行如何ニ依リテハ兩國國交ニ大ナル影響ヲ來スノ惧アルモノト憂慮シ特ニ支那側ノ注意ヲ喚起スル次第ナリト念ヲ押シタルニ蔣ハ了承ノ旨ヲ答ヘ同時ニ張群ヨリ日本側ニ於テモ

出先ニ於テ强力ヲ以テ强制セサル樣特別ノ手配ヲ請フ旨附言シ更ニ蔣ヨリ前記北支收拾ニ關スル支那側ノ辨法ヲ本國政府ニ取次方再三申出テタルニ付本使ニ於テ一應取次クヘキモ時期既ニ遲カルヘシト思惟スル旨應酬シ置キタリ

349　昭和10年11月22日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛（電報）

華北分離は実現を急がず蔣介石の収拾策による和平的解決をまつべき旨有吉大使意見具申

南京　11月22日前発
本省　11月22日前着

第一二九五號（至急、極秘）

有吉大使ヨリ(1)

往電第一二九〇號ニ關シ

一、二十一日唐有壬本使ヲ來訪シ同電蔣介石ノ談話ヲ敷衍シ北支事態ハ主トシテ日本側ノ强制使嗾ニ因ルモノニテ北支民衆全般ニ於テ之ヲ要望シ居ラサルハ素ヨリ要路者ニ於テモ宋哲元、商震、韓復榘等ハ何レモ死ヲ誓テ自治ニ反對ナル旨中央ニ聲明シ來リ居リ蕭振瀛ヨリハ土肥原少將ノ强制ニ依リ已ムヲ得ス贊成ノ態度ヲ持シ居ルモ決シテ之ヲ實行セサル旨ヲ申出テ來リ居ル趣ヲ說明シ（右ニ對シ本使ヨリ是等要人ハ同時ニ日本側ニ對シ南京側カ從來事毎ニ日本側ノ希望容認ニ反對シ來リタル爲北支ノ事態ヲ惡化セシメタルモノナレハ之ヲ避ケ北支ノ福祉ヲ增進スル爲ニハ北支政權ニ於テ日本側ノ要望ヲ容レ得ルカ如キ機構ヲ必要トスル旨ヲ說明シ居ル實情ヲ充分考慮ニ容レル要アル趣ヲ說示シ置ケリ）タル上

二、(2) 日本側ノ强制無クハ自治運動カ起ルコト無カルヘシト信シ居ルニ付日本側ニ於テモ實力ヲ以テ自治ヲ强制セラレサランコトヲ切望スト述ヘタルニ付本使ヨリ日本トシテ自治强制ノ爲實力ヲ行使スルカ如キコト無キハ當然ノ儀ナル旨ヲ指摘シタル上前記括弧内ノ事項ニ依リ自治運動カ自然的ニ擡頭シ來ル場合ニハ支那中央ニ於テ實力ニ依リ之ヲ彈壓スルカ如キコト無キ樣前述蔣ニ對スル說明ヲ繰返シ置キタリ

三、今回ノ自治運動カ自然的ニ發展スル場合ニハ問題小ナルモ然ラサル場合我方ニ於テ實力ヲ以テ之ヲ强制又ハ促進

スルカ如キコトアラハ支那國民一般ノ反對ヲ惹起シ之カ爲蔣介石ニ於テモ必スシモ其ノ言明ノ如ク之ヲ默視スルヲ得サルニ至ルヘク延イテ全面的兩國關係ノ惡化ハ之ヲ避ケ難キコト勿論ナルニ付政府ニ於テハ右ノ點ニ付豫メ充分ノ注意ヲ拂ハルルコト極メテ肝要ノ儀ト存セラル

三、[3]而シテ我方ノ實力ニ依ル强制壓迫ナキ場合今回ノ自治運動カ果シテ自然的ニ發展シ得ルモノナリヤ或ハ支那側ノ言フカ如ク成立ノ餘地ナキモノナルヤハ當方ノ有スル情報ニ依リテハ的確ニ之ヲ豫測シ得サル次第ニシテ前者ノ場合ニハ漸進的ニ之ヲ進メテ可ナルモ後者ノ場合ナリトセハ國策ノ全局ヨリ考ヘ之カ進行ニ付適當ノ手加減ヲ加フルコト必要ナルヘク總ユル無理ヲ冒シテ迄此ノ際急速ニ之ヲ强行セントスルカ如キハ嚴ニ之ヲ避クヘキ儀ト思考セラル

四、而シテ冒頭往電蔣介石ノ企圖スル北支收拾案ニ付テハ廿一日唐本使來訪ノ節右ハ中央派遣ノ大官ニ於テ充分ノ權限ヲ有シテ北支自體(事態カ)ノ圓滿解決(唐ハ從來ノ懸案ノ外今回呈示ノ三原則ニ含マルル事項ヲモ解決スル考ナルカ如キ口吻ヲ洩ラシ居タリ)ヲ計ルヘク

特[4]ニ軍側ノ主張スル所謂財政獨立ニ付テハ北支收入ノ一部ヲ償還基金トスル公債(內債又ハ日支兩國ノ公債)ヲ募集シ之ヲ以テ北支開發ヲ行フ積リナリト補足的ニ說明シ居タルカ本使トシテハ今日ノ事態ニ鑑ミ右ニ對シテハ冒頭往電蔣ニ對スルト同樣右ノ案ヲ以テ時局ヲ收拾シ得ルハ時期遲キニ過クル旨ヲ說示スルニ止メ置キタル次第ナルカ自治運動ノ前途ニ付前記ノ如ク悲觀的觀測ヲ有スルモノナリトセハ此ノ際暫ク之カ促進ニ手加減ヲ加フルト共ニ更ニ支那側ヲシテ提案ノ內容ヲ明確ニセシメ且ツ之カ實行ニ對スル先方決意ノ程度ヲモ檢討シタル上我方ニ滿足スヘキモノナルニ於テハ之ヲ採用シ依テ以テ北支事態ノ和平的解決ヲ計ルト共ニ往電第一二九一號蔣ノ言明ヲ基礎トシ兩國關係ノ全面的改善ヲ急速ニ進行セシムルコト寧ロ得策ナルヘク右結果カ我方ニ不滿足ナル場合更メテ自治ヲ促進スルモ遲カラスト存ス

右ニ付テハ北方ノ事情ノ漸次判明ト共ニ閣下ニ於テモ既ニ御攻究中ノコトト存セラルルモ敢テ卑見具申ス何分ノ儀御回電ヲ請フ

支、北平、天津ヘ轉電セリ

350　昭和10年11月22日　広田外務大臣より在中国有吉大使宛(電報)

蔣介石の華北收拾策への応酬振り訓令

本　省　11月22日発

第三一三號(至急、極秘)

南京發本大臣宛電報第一二九五號ニ關シ

一、同電二及三末尾ノ次第ニ付テハ當方ニ於テ充分考慮ニ入レ軍側トモ連絡ヲ保チ居ル次第ナルカ

二、蔣介石ノ北支收拾策ナルモノカ果シテ誠意アルモノナリヤ卽チ蔣介石ニ於テハ右方法ニ依リ一時ヲ糊塗セントスル魂膽ニ非サルヤ懸念セラレ又假ニ蔣介石ニ誠意アリトスルモ斯ノ如キ方法ハ北支ノ事態ヲ益々複雜化シ却テ紛糾ヲ增ス懸念モアルニ付今後ノ成行ヲ嚴重監視スルヲ要ス

三、一方北支ニ於ケル自治運動ハ我方ノ工作ナクトモ自然ニ發展スルモノナリヤ否ヤハ別問題トシ我方トシテハ(緩急ハ暫ク措キ)今後トモ同地方ニ於ケル政治上ノ動向ニ或程度ノ「インフルエンス」ヲ及ホシ行クコトハ必要ナルヘキ處何レノ途此ノ際該運動カ立消トナルコトハ北支ノ現狀ニ「ミート」スル外致方ナシトスル蔣介石ノ氣持(假ニ現在蔣カ右樣ノ氣持ニナリ居ルモノトシテ)ヲ鈍ラスコトトナル虞モアルニ付北支ニ於ケル我方工作ハ今後モ南京側ノ態度等ヲ見ツツ或ハ急ニ或ハ又緩ニ之ヲ進メ行クコト肝要ナルヘキノミナラス前記ノ如ク蔣介石不誠意ノ場合ヲモ豫見シ且萬一ニモ宋哲元等ヲシテ全ク腰挫ケトナラシメサル爲ニモ此ノ際或ル程度既成事實ヲ作リ置クコト得策ト存ス仍テ陸海軍ト打合ノ上陸軍側ヨリ出先ニ對シ前記各般ノ事情考量ノ上適當ノ時期ヲ見定メ宋哲元邊リヲシテ輕度ノ自治宣言ヲ發セシメ差支ナシ但自治ノ程度ハ差當リ西南ノ現狀以上ニ出テシムヘカラサル旨電訓セリ

四、就テハ南京側ニ對シテハ貴大使ニ於テ既ニ應酬セラレタルカ如ク「蔣介石ノ案ヲ以テ時局ヲ收拾シ得ル時期遲キニ過クルヤニ認メラレ又該案ハ北支ノ事態ヲ益々複雜化シ却ツテ紛糾ヲ增ス懸念モアルモ(例ヘハ中央ヨリ大官ヲ派遣スルヨリハ寧ロ現地ノ實權者ニ或程度委ス方可ナルニ非スヤ)我方トシテハ北支ノ平安カ保タレ且同地方ニ於ケル日滿支關係カ圓滿ニ行クコトニ重キヲ置ク次第

ナリ」トノ趣旨ニテ應酬シ置キ蔣介石ノ北支收拾策ノ内容ニ付テハ我方トシテ此ノ上深入リスルコトナク今後ノ成行ヲ見ルコトト致度シ（支那側ニテハ我方三大原則ニ付話合ヲ進ムヘシトノ名目ニテ其ノ實北支收拾策ニ關スル話合ニ我方ヲ引スリ込マントノ魂膽ニ出テ居ルモノトモ思ハルルニ付右様ノ懸引ニ乘セラレサル様充分御注意アリ度御氣付ノコトトハ存スルモ念ノ爲）

五、一方南京來電第一二九一號ニ依レハ蔣ニ於テ我方三大原則ニ同意ナル旨言明セル處日支關係打開ニ關スル支那側誠意ヲ確ムル意味合ニ於テモ此ノ際右三大原則ニ關シ一層具体的ニ話合ヲ進捗セシムル様致度御如才ナキコトト存スルモ右此ノ上共御配慮相成度シ

本電陸海軍ト打合濟

南京、北平、天津、滿ニ轉電セリ

351　昭和10年11月23日　在中国有吉大使より広田外務大臣宛（電報）

華北自治宣言の発表は実力による圧迫を厳に避け中国側対応を見定めた上実行方意見具申

上　海　11月23日後発
本　省　11月23日夜着

第九九五號（至急、極秘）

貴[1]電第三一三號ニ關シ（北支獨立運動ニ關スル回訓）

一、同電三ノ貴見一應尤モナリト存セラルル處軍側出先ヲシテ宋哲元邊ヲシテ輕度ノ自治宣言ヲ發セシムルコトハ第一ニ右宣言發出カ單ニ我方ノ勸告位ニテ之ヲ實行セシメ得ルナラハ兎ニ角若シ實力ニ依ル壓迫ヲ加ヘサル限リ實現シ難キモノナルニ於テハ（當方トシテハ略斯ノ如ク觀測シ居レリ）之ヲ强行スル結果却テ蔣介石ヲシテ北支ノ現狀ニ「ミート」スルカ如キ措置ニ出ツルコト不可能ナリトノ態度ヲ執ラシムルハ勿論一般關係改善ノ爲ニスル三大原則ノ實行ニ付テモ亦同様ノ態度ニ出テシムルコト南京發往電第一二九一號ノ二ノ如クナルヘク當方面ニ於ケル交渉ハ一時停頓ノ外ナキニ立至ルヘシ

二、之ニ加フルニ我方ニ於テ一度强力ヲ以テ自治ヲ宣言セシムルモ引續キ各種ノ無理（編注）ナル壓力ヲ加ヘサル限リ之ヲ進行成立セシムルコトハ到底不可能ニシテ結局龍頭蛇尾ニ終ルヘキ懸念鮮カラサル處

果シテ然リトセハ一度自治ノ宣言ヲ發セシムル以上斯ノ如キ不結果ヲ避クルカ爲我方ニ於テ各種ノ實力的壓迫ヲ加フル必要アルヘク此ノ場合ニハ支那全國ノ輿論ヲ沸騰シ兩國ノ全面的關係ヲ惡化セシメ蔣介石ハ素ヨリ何人モ之ヲ收拾シ難キ事情ニ立至ラシムル惧甚大ナルノミナラス（其ノ結果蔣ニ於テ對日强硬政策ノ口實ヲ得ルコトトナリ爲ニ却テ其ノ地位ヲ强化スルコトトナルヘシト考ヘラル）延イテ國際關係ノ全局ニ對シ寒心スヘキ影響ヲ與フルコトヲ覺悟セサルヘカラスト思考ス

三、右ノ如キ事情ニ鑑ミ貴電三ノ訓令ニ依リ自治ノ宣言ヲ發出スル時期ハ南京發往電第一二九五號更ニ蔣介石ノ態度ヲ見定メタル後トスルコト必要ナリト思考シ居ル次第ナルニ付軍側出先ニ於テ右訓令ニ基キ行動スル場合ニハ第一ニ右ノ趣旨ニ依リ其ノ時期ニ付當方ニ於ケル蔣介石等トノ折衝ニ支障ヲ來サシメサル様適當ノ考量ヲ加フルコト及之カ實行ノ爲强力ヲ行使スルコトハ嚴ニ之ヲ避クル様併セテ明白ニ指示セラルル必要アリト存セラル右ニ付然ルヘク御配慮ノ上結果何分ノ儀御回訓ヲ請フ（打合セノ結果陸海軍武官ニ於テモ本電ノ趣旨ニ贊成ナリ）

北平、南京、天津ヘ轉電セリ

編注　「無理ナル」は訂正電報で「無謀ナル」と訂正された。

352　昭和10年11月[23]日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛（電報）

華北収拾策をめぐり唐有壬と意見交換について

上　海　11月23日後発
本　省　11月24日前着

第一三〇〇號（極秘）

往[1]電第一二九〇號ニ關シ

二、唐ハ二十一日夜商震ヨリ接到セル電報ニ依レハ同日午前十一時天津軍中井參謀、平井通譯ヲ帶同病院ニ商ヲ來訪シ自治問題ハ陸軍ノミナラス外務モ一致シテ達成ヲ計リ居ル現狀ナレハ宋哲元ノ第二十九軍モ必ス呼應スヘキニ付先ツ商ノ第三十二軍カ起ツテ自治ヲ標榜方慫慂セル由ニテ又二十二日朝北平程錫庚ヨリモ山海關ニハ日本軍約五千、「タンク」五十臺、飛行機二十五機、野砲五十門

等集中シ居ルモ今ノ所關内侵入ノ模様ナキカ二十一日土肥原天津ニ於テ宋哲元ニ對シ韓復榘、商震カ同時ニ起ソテ呼應スルコトナシトスルモ宋ニ於テ約ニ從ヒ單獨蹶起方頻リト慫慂アリシモ宋ハ之ヲ斷然謝絶シタルニ付テハ土肥原ノ北支退去ニ依リ事態ハ悪化スルニ至ルヘキ旨來電アリタルカ外務省ニ於テハ果シテ自治問題ニ付軍部ト協同シ居ル次第ナリヤ

又[2]然ルニ於テハ其ノ原因如何ト尋ネタルニ付本官ヨリ北方ノ特殊事態ニ卽スル制度ノ速ニ決定セラルヘキハ自然ノ大勢ニシテ外務モ軍部モ勿論此ノ大勢ニ着眼シ夙ニ一致ノ方針ヲ樹立シ居ル次第ナルカ特ニ右ノ形勢ハ本官等北方ノ實情視察後益々判明スルニ至レリ過般來日本政府カ一体トシテ決意シ居ル次第ハ二十日有吉大使ヨリ蔣介石ニ申入レタル所ニ依リテモ明カナルヘク事茲ニ至リタルハ自然ノ大勢ニ出テタルハ勿論ナルカ中央政府ノ爲ス所ハ兎角一時ヲ糊塗スルニ急ニシテ日支ノ大局ヲ無視スル點多ク此ノ儘ニテハ北支ハ勿論支那全般ニ對シ餘程ノ決心ヲ必要トスト詳細說示シタル處

二、唐ヨリ更ニ蔣介石ノ北支事態ニ對スル觀測カ只今御說明ノ次第ト著シク異ルハ意外ナルカ問題ハ若シ關東軍カ支那側情報ノ通リ實力ニ依リテモ自治ヲ達成セントスル積リナラハ恐ラク同軍ト宋哲元軍ノ衝突ヲ來スヘク自然宋等ヨリ中央軍ニ對シ援助ヲ求メ來ルコトモアルヘク其ノ際ニ對スル措置ハ二十日ノ會見ニ於ケル蔣介石ノ言明ニ含マレ居ラサル點ニアリ

[3]形勢實ハ樂觀ヲ許サス一方蔣ハ三原則ニ基キ事態ヲ收拾センコトヲ企テ先般言明ノ通リ軍事分會ヲ廢止シ中央ヨリ大官(馮玉祥等ニハアラス結局何應欽ノ外無カルヘシ)ヲ派遣シ其ノ主宰スル機關ヲシテ通空問題、北寧線貨車聯絡問題等ヲ處理セシメ進ンテ北支開發ノ爲中央ニ歸屬スヘキ河北省關係稅收ヲ擔保トシテ一億乃至一億五千萬元ノ內債ヲ起シ之ヲ以テ諸般ノ建設事業ヲ行フヘク目論ミ居リ右事業中ニハ私見ニ依レハ滄石鐵道或ハ山東延長線ノ建設ノ如キヲモ含マセ得ヘク右ハ結局蔣カ有吉大使トノ會見ニ於テ大官ヲ派シ軍政及行政ヲ統轄セシメ日支關係ノ調整ヲ計ラントスト述ヘタル意味ヲ敷衍シタルニ過キサル次第ナルカ此ノ種ノ解決方法ヲ眼中ニ入レ是非トモ大局上ノ收拾ヲ遂ケラレ度シト述ヘタリ

三、[4]右ニ對シ本官ヨリ假ニ蔣ニ於テ以上ノ決心アリトスルモ實ハ右ハ當面ノ北支自治問題ヲ揉消サントスル魂膽ヨリ出テ居ルモノト見ラルル節無キニアラス又假ニ蔣自身ハ其ノ覺悟ナリトスルモ彼ヲ繞ル取捲連ニハ未タ未タ此ノ大勢ヲ理解セサル者アリ從テ差向ノ案トシテハ北支ノ自治運動ハ中央ニ於テ決然之ヲ許可スルノ度量ニ出テサルニ於テハ右ハ大勢ヲ無視スルモノニシテ結局總テノ「打壞シ」ヲ自ラ招來スルモノト云フノ外無シト應酬シ置キタルカ唐ハ繰返シ蔣ハ事實言明モシ又右ノ如キ決心ヲ爲シ居ル次第ニシテ無理解ニ攻擊スルハ結局取捲連ヲ蔓ラシムル所以ニシテ支那人心理ヲ無視スルモノナリト述ヘ前記ノ如キ「ライン」ニ依ル解決ヲ蔣トノ間ニ遂クル樣繰返シ懇談セリ

支、北平、天津ヘ轉電セリ

353　昭和10年11月24日　在天津川越総領事より　広田外務大臣宛(電報)

冀東防共自治委員会の設立計画を殷汝耕内報について

天　津　11月24日後発
本　省　11月24日夜着

第※三五四號

二十四日殷汝耕永井ヲ來訪愈二十四日通州ニ赴キ同地ニ於テ戰區十八縣竝ニ之ニ香河、寧河、寶坻、昌平ノ四縣ヲ加ヘ冀東區防共自治委員會ヲ創設シ同人委員長トナリ明日右委員長ノ名ニ於テ中央離脫、防共、睦隣ヲ趣旨トセル宣言ヲ發シ爾今右委員會ニ於テ該地區間ニ於ケル行政、軍事、治安、外交等ヲ處理シ秦皇島海關竝ニ關係鹽務機關等ハ後廻シトシ該地區間ニ於ケル一切ノ課稅(開灤ノ鑛業稅及唐山ノ「セメント」公司ノ課稅ヲ含ム)ハ之ヲ接收管理スヘシ尙韓復榘ハ不明ナルモ宋哲元ハ之ト呼應シ二、三日中ニ右ト同樣ノ趣旨ノ宣言ヲ發スルコトニ確定シ居レリト內話セル趣

354　昭和10年11月25日　広田外務大臣より　在中国有吉大使宛(電報)

中国側華北収拾策への応酬振り再度訓令

付　記　十一月二十五日起草、広田外務大臣より在中

国有吉大使宛電報案

我が方出先軍の工作抑止は極めて困難な実情について

本　省　11月25日後6時発

第三一四號(至急、極秘)

貴電第九九五號ニ關シ

貴見ノ次第ハ當方ニ於テモ充分考慮セル所ニシテ又陸海軍ト打合ノ際ニモ往電第三一三號三ノ考方ト併行シ種々ノ意見出テタル趣ナルカ考量ノ末右往電ノ通決定セル義ナリ尤モ北支ニ於ケル工作カ貴方ニ於ケル蔣介石等トノ折衝ニ支障ヲ來ササル樣留意スヘキハ勿論ノ義ニシテ要ハ貴方ト北支ト呼應シ我カ目的ノ達成ヲ期スルニ在リ此ノ點ニ付テハ陸軍側ニテモ此ノ上トモ必要ノ手配ヲナス筈ナリ(川越總領事ニ於テモ敍上ノ趣旨ニ依リ天津軍側ト密接ニ聯絡アリ度)將又濫リニ强力ヲ使用スルカ如キコトナカラシムル件ニ付テハ陸軍側ニテモ充分留意シ居ル次第ナリ(此ノ點貴官限リ絶對極秘含ニ止メラレ度)就テハ右御諒承ノ上往電第三一三號先方ト交渉ヲ進メラルル樣致度シ

本電陸海軍ト打合スミ

訓令トシテ天津ニ、參考トシテ北平、南京、滿ニ轉電セリ

(付　記)

往電第三一四號ニ關シ

桑島ヨリ

一、自治運動ニ關シ陸軍出先ニ於テ宋哲元等ニ對シ相當强制的態度ヲ執リ居ルコトハ貴電第九九一號等ニ依ルモ推察ニ難カラサル所ナルモ陸軍統制ノ現狀ニ顧ミ斯種策動ヲ全然停止セシムルコトハ事實上殆ト不可能ナルヘキノミナラス右等策動ヲ中央ヨリ余リ制スルコトハ却テ反對ノ結果ヲ誘致スル危險アル次第ナリ

二、尙貴方ニ於テハ關東軍カ万一ニモ國策ニ反シ長城線ヨリ越境シ平津地方ニ進出スルカ如キコトナキヤ又山東出兵等ノコトナキヤヲ憂慮セラレ居ルニ非スヤトモ思ハルル處此ノ點ハ陸軍中央ニ於テモ充分注意シ居ルモノト認メラレ又政府ニ於テモ斯ノ如キ事態ノ發生ニ對シテハ斷乎タル決心ヲ有セラルル模樣ナリ(海軍側モ右樣事態ノ發生ニ對シテハ最モ强硬ニ反對スル樣子ナリ)

以上貴大使限リ絶對極秘御含迄

御裁量ニ依リ須磨總領事ニモ内示セラレ度

編　注　右電報案は発電されなかった。

355　昭和10年11月25日　在中国有吉大使より広田外務大臣宛(電報)

高官派遣による華北収拾策の概要を唐有壬説明について

上　海　11月25日後発

本　省　11月25日夜着

第九九六號(極秘)

南京發往電第一二九五號ニ關シ[1]

一、二十四日唐有壬來訪シ蔣介石ハ五全大會モ既ニ終了(二十三日)シタルニ付先日貴大使ニ言明シタル華北問題ニ付速ニ日本側ト交渉ヲ開キ度ク右ニ對スル日本側ノ意響及華北ニ對スル日本側ノ具体的希望事項ヲ知リ度シト考ヘ居レリト述ヘタルニ付本使ハ貴電第三一三號ノ三及四ノ點ヲモ含ミ蔣ハ華北ノ軍事分會ヲ廢止シ更ニ大官ヲ派遣シテ日本側ト折衝セシムトノ意見ナリシカ支那側カ若シ單ニ軍事分會ヲ廢止シ代フルニ中央ヨリ大官ヲ派シ問題毎ニ中央ニ請訓シテ事件ノ處理ヲ爲サントスル意響ナラハ從來ト何等異ル所無ク其ノ結果ハ依然華北ノ特殊事態ヲ無視シタル中央本位ノ交渉トナリ事態ヲ更ニ紛糾セシムル惧アルヘク

又[2]自治運動ノ如キ蔣ハ支那人ハ一人トシテ之ヲ希望シ居ラサルカ如キ考ヲ持チ居ル樣子ナルモ華北ノ要人ヤ民衆カ中央ト日本側及滿洲國トノ間ニ介在シテ其ノ複雜ナル事態ニ卽シタル特殊ノ政治機構ヲ要望シ居ルハ動カスヘカラサル事實ニシテ卽チ蔣介石ノ案ニ依リ北支時局ヲ收拾スルハ時機遲キニ過クルノミナラス蔣ニ於テ未タ北支ノ特殊性ヲ認識シ居ラサルモノト云ハサルヲ得スト述ヘタルニ

二、唐ハ蔣モ既往ノ經驗ニ依リ華北ノ特殊性ニ付テハ相當認識シ居レリ

又[3]前顯具體的方法ニ付テハ蔣ヨリ未タ明言セサルモ大體ノ意響ハ

(一)中央派遣ノ大官(何應欽カ有力ナル候補者ナリト附言ス)ニ各種問題ノ處理ニ對スル相當ノ權限ヲ與ヘ華北

ノ事態ニ應スル施設及措置ヲ講セシム

㈡交渉ノ相手方トシテ日本側ヨリモ權限アル責任者ヲ指定セラレ度ク

㈢廣田外相提案ノ三原則中第二、第三項ハ主トシテ華北關係ノ問題ナルニ付右兩國華北ノ責任者ニ於テ相談シ同時ニ南方ニ於テモ之ト並行シテ三原則全體ニ亘リ協議ヲ進ムルコト

トシ度キ考ナルカ如シト答ヘ

三、(4)更ニ唐ハ日本側ハ華北ノ自治ヲ希望シ居ル模様ナルモ自治其ノモノハ一種ノ手段ニシテ日本側ノ希望ハ例ヘハ航空問題、貨車直通問題等諸懸案ノ解決、滄石鐵道ノ敷設、膠濟鐵道ノ延長、棉花ノ栽培等經濟提携問題ノ促進、共同防共等政治問題ノ合作等ナルヘシト認メラルルカ是等事項ヲ列擧主義ニ依リ派遣大官ニ交渉權限ヲ與フルカ又ハ總括的ニ交渉ノ權限ヲ與フルカノ點ハ未タ具体的ニ決定シ居ラス(唐ハ日本側ノ註文ヲ聽キ列擧主義ニ依ル方良カルヘシト附言ス)ト述ヘタルニ付

四、(5)本使ハ右貴方ノ意嚮ハ一應政府ニ報告シ置クヘシト述ヘタルニ唐ハ蔣ハ日本側ノ意嚮判明シタル上ハ更ニ具体的相談ヲ爲ス爲貴大使ニ會見シ度キ意嚮ナリト述ヘ尚本使ノ問ニ對シ蔣ノ意嚮ハ確メ居ラサルモ五全大會附屬ノ一中全會カ十二月一日ヨリ五、六日間開催セラルル筈ニ付蔣モ其ノ間ハ相違ナク南京ニ滞在スル見込ナリト答ヘタリ

北平、天津、南京ヘ轉電セリ

356　昭和10年11月26日　広田外務大臣より在満州国南大使宛(伝言)

華北工作が対中三原則交渉に好結果を及ぼすよう外務・軍部間の連絡・統制方要望について

廣田大臣ヨリ南大使ニ對スル傳言

(昭和十年十一月二十六日)

本月十三日附貴大使御傳言ノ趣閲悉、日滿支三國關係ニ關シ種々御配慮ノ段感佩ニ堪ヘス。支那ノ幣制改革ニ關聯セル英國借款ノ成立阻止ニ就テハ御承知ノ通リ當方ニ於テモ種々苦心努力ノ結果關係各方面ノ熱心ナル協力ト相俟チ英國側モ我方ノ反對ヲ押シ切リテ迄强行スルノ非ヲ漸次與リ(覺カ)來レルヤノ情勢ニアリ、尤モ英國等カ今後モ相當執拗ニ帝

國ノ對支勢力伸張ニ對抗セントシ又ハ支那側ノ以夷制夷策ヲ刺戟スルカ如キ策動ニ出テ來ルコトハ豫想シ置カサルヘカラサル處右ニ對シ我方ハ東亞ノ盟主タル信念ヲ堅持スルト共ニ世界全局ノ情勢ヲ參酌シ緩急宜シキヲ制シツツ飽ク迄根强ク我方ノ地歩ヲ固メ行クコト肝要ナリト思考シ居レリ

一方現下支那ノ幣制改革ハ銀國有カ一片ノ法令ノミニテハ如何トモシ難キ現狀ニ顧ミ外國借款ノ見込無クナレハ其ノ前途ハ益々見込薄トナルノミナラス其ノ破端(綻カ)瓦解ハ時日ノ問題ニ過キサルヤニ認メラル

北支問題ニ關シテハ同地方ニ於ケル日滿支ノ特殊ノ關係ニ適應スル狀態ヲ誘致スルノ要アル次第ニシテ右ニ關シテハ本年十月成立ノ三大臣諒解事項ノ趣旨ニ基キ外務軍部連絡シ種々工作シ居ルコト御承知ノ通ナリ。唯タ北支問題ノ解決ニ關シテハ成ル可ク南京側ヲモ我方ニ追隨スルノ不得已ニ至ラシメ北支ニ於テ前記ノ如キ狀態ヲ現出セシメントスル我方ノ要望ヲ達成スルト共ニ中支及南支ニ於ケル我方ノ立場ヲモ失墜スルコトナク或ハ又更ニ進ンテ之カ伸張ヲ期スルコトニ意ヲ用フルノ要アリ、前記三大臣諒解事項ノ趣旨モ茲ニ存スル次第ナリ。右ハ固ヨリ相當困難ノ事業ナルモ外務軍部其ノ他ノ關係方面協力シテ倦マス弛マス適宜工作シ行ケハ必スヤ其ノ目的ヲ達シ得ヘキコトヲ信ス

然ルニ最近北支ニ於ケル我方工作ノ結果南京政府當局モ我威壓ヲ痛感シ蔣介石ハ過日有吉大使トノ會見ニ於テ我方提示ノ三原則ニ同意ナル旨ヲ表示シ且右三原則ノ趣旨ニ依リ話合ヲ進メ度旨申出テ來レル次第アル處蔣介石申出ノ眞意ニ付テハ充分戒心ノ要アルコト申ス迄モナキモ此ノ際我方トシテハ右言質ヲ盾トシテ蔣介石ニ對シ日滿支關係ノ打開ニ付誠意ヲ示スヘキコトヲ迫リ右ニ對スル蔣介石ノ出方其ノ他南京側ノ態度ヲ見ツツ緩急事宜ニ應シ我方ノ北支工作ヲ進メ以テ三大臣諒解事項所期ノ目的達成ニ向ツテ進ムコト得策ト認メラル。右見解ニ基キ當方ニ於テ軍部ト密接ナル連絡ヲ保チ種々措置シ居ル次第ニ付テハ累次ノ電報ニ依リ御承知アルヘキ通ナルカ特ニ出先ニ於ケル外務側及軍部側工作ノ連絡統制ニ付テハ貴大使等此ノ上ノ御盡力希望ニ堪ヘス。

尚委細谷參事官ニ傳言シ置キタルニ付同官ヨリ御聽取相成度

編　注　本文書は十二月五日東京発、同八日帰任の在満州国谷大使館参事官が携行した。

357　昭和10年11月26日　重光外務次官 在本邦丁中国臨時代理大使 会談

華北情勢および中国側収拾策につき意見交換

重光次官丁代理大使會談録

（昭和十年十一月二十六日於次官室）

丁代理大使

二十三日朝外交部ヨリ訓令ニ接シタリ內容ハ外交部ニ於テ有吉大使ニ申入レタルト同様ノモノナリ卽左ノ如シ今月十一日（二十一日ノ誤リト思ハル）ニ天津駐屯軍參謀中井氏飛行機ニテ保定ニ至リ商震省長ニ面會ヲ要求セリ商震氏ハ病氣入院中ニテ秘書官聽（應カ）接セシモ强イテ面語（晤カ）ヲ需メラレ止ムヲ得ス病院內ニテ面會ス中井氏ハ河北省自治問題ハ日本ノ陸軍及外務省兩省ノ意見ニテ自治ヲ希望スルモノニシテ決シテ少數ノモノノ考ニアラス今日ハ韓復榘氏平津衛戍司令宋氏モ皆之ニ贊成ス故ニ貴下モ北平ニ出テ會議ニ參列セラレ度シ若シ三四日ニ病氣全快ヲ見サレハ代理ヲ出サレ度シ第二十九軍ハ已ニ問題ナシ第三十三軍モ大丈夫ニテ右ハ日本軍隊カ保障ス

右中井氏ノ言明ハ商震氏ヨリ南京外交部ニ電報シ來リタリ外交部ノ訓電ニ依レハ有吉大使カ蔣介石氏ニ會見ノ時ニ蔣氏ハ河北ニ於ケル問題ニ關シ處置スル方法ハ已ニ定メタリ又廣田大臣ト相談セシ日本側ノ三點ニハ贊成ナルニ付之カ實現ヲ促進スル様盡力スヘシト述ヘタリ斯ル狀態ナルニ付我國（支那）政府ハ勿論國民モ亦十二分ノ誠意ヲ以テ兩國ノ親善ヲ實現スルノ決心アリ之ヨリ愈々事務的ニ具体的交渉ヲ進メ行クヲ以テ貴國ノ出先軍人カ北方ニ於ケル自治問題ニ關シ策動セラレサル様願ヒ度ク貴國政府ニテ斯ル出先軍人ノ言動ヲ有效ニ制止セラレンコトヲ切望ス

以上ニ付外務當局ノ返答ヲ得テ報告スヘシトノ訓電ヲ受ケタリ

重光次官

本件ニ關シテハ有吉大使ヨリ報告ニ接シ居レリ。然シ出先ヨリハ軍部ニ於テモ何等報告ニ接シ居ラサル模様ニテ別ニ重要ナル出來事ト思ヒ居ラサル様ナリ。責任ナキ軍人ノ無責任ナル言動ハ價値アルモノニアラス一々是正スルコトモ果シテ必要アルヘキヤ、其價値ナキコトハ外務省迄モ我策動ノ引合ヒニ出シ居ルニ依リテモ明ナリ。

日本ニ關係深キ地方ニテ幾多ノ人々カ種々ノ言動ヲナスコトハアリ得ル處ニシテ强ヒテ之ヲ取上クル程ノコトニアラサルヘシ。又商震氏ハ責任アル省長ニアラスヤ同氏ハ病氣モサルコトナカラ速ニ病院生活ヲ止メテ時局收拾ノ爲メニ北平天津ニ行キテ可ナルニアラスヤ然ルニ日本ノ一將校ノ言論ヲ直ニ外交部ニ電報スルカ如キハ全ク卑屈ナル宣傳ヲ行ヒ居ルト認メラル。一体商震氏ノ如キハ他ノ人人モ同様ナルカ日本側ニ對シテハ北支ノ自治獨立ヲ强調シ其援助ヲ需ムルコトヲ公言シ乍ラ南京政府ニ向ツテハ反對ノコトヲ云ヒ居レリ斯ル無責任ノ態度ハ支那ノ內政ヲ知ルモノニハ首肯出來ルト共ニ別ニ不思議トモ思ハサルコトナリ。要スルニ北支ノ事態ハ大勢ニ依ツテ決スヘク大勢ニ逆ツテハ成功セス日本側ノ策動ノミ氣ニセラルルモ外部ヨリノ策動ハ幾分ノ原因ニハナルヘキモ主動的原因ニハナラス言論思想傳統ヲ異ニスル北方人土（士カ）ノ一般ノ動キカ大勢ヲ決スヘク餘リ之ニ逆行スルハ考物ト思ハル今日折角御申出ノ陸軍軍人ノ行動ニ付テハ取調ヲナシテモ差支ナシ。

丁代理大使

之ハ單ニ私談ナルカ、實際日本ノ軍人ハ思ヒ切ツタ事ヲ行ヒ北支諸運動ハ彼等カ動シタル譯ニ付何トカ緩和方御盡力ヲ得度シ商震氏ノ如キモ實ハ無力ノ有様ナリ

重光次官

北支ノ事態ハ元來貴國ノ內政問題ニテ外部ノ力ハ前申ス通リ大勢ニ關係アルモノニアラス右大勢ノ自然ノ發展ニ俟タサルヘカラス只北支ニ於テハ日本ハ重要ナル利害ヲ有ス廣田大臣ノ第二點カ卽チ是ナリ日滿支三國以內（マヽ）ノ調節ヲ北支ニ實現スル様努力ヲ希望ス

然ル處貴國政府ニ於テ日支親善提携ノ爲メ具体的ニ交渉ヲ進捗セシムル意向アリ而シテ右交渉ハ南京政府ノ贊意ヲ表セル廣田大臣ノ三原則ヲ具体化スルモノナルコトヲ承知セリ、又北方ニ付テモ蔣介石氏ハ一定ノ腹案アリト云ハルル處具体的ニ伺ヒ得ルヤ又一般交渉ノ方法ニ付テハ前回意見ヲ述ヘタルカ（十一月十八日會談要領電報濟）之ニ對シテ貴國政府ハ如何ニ考ヘ居ルヤ

丁代理大使

蔣介石氏ノ對北方腹案ハ何等內容ヲ承知セス一般問題ニ付

テ有吉大使ト前述ノ趣旨ニヨリ南京ニ於テ交渉スルノ用意アリ

重光次官

蔣大使ハ東京ニ於テ曩ニ滿洲事變惹起ノ原因トナレル當時ノ外交部長王正廷氏ノ條約廢棄ノ「プログラム」ト似タル案ヲ提出セラレ自分ハ窃ニ之ハ由々敷キ大事ナリ此有樣ニテハ將來兩國ノ間ニ何カ起ルカ解ラスト思ヘル位ナリ然ルニ南京政府ノ意向ハ右トハ異リ前回ニモ御説明ヲ受ケ今回モ御説明アリタル通リ日支親善提携ノ目的ノ爲メ南京政府ノ贊成セル廣田大臣ノ三原則ヲ基礎トシ之ヲ具体化スル交渉ヲ南京ニ於テ兩國當事者ノ間ニ直ニ開始スト云フ主旨ナルコト判明シ自分モ漸ク安心シ此交渉ヲ進メ行ケハ兩國ノ關係ハ或ハ打開出來得ヘシト考フルニ至レリ

丁代理大使

蔣大使ノ提出セル案ハ尚其儘ニナリ居レリ

重光次官

前回モ今回モ貴下ハ支那ノ代表トシテ熱心ニ右ト同樣ノコトヲ述ヘラレタルカ之ハ曩ニ蔣大使ノ説明セラレタル所ヲ飜シタルモノナル處何レヲ信シテ可ナルヤ。貴下ニハ前回モ詳細右ノ點ヲ通シ置キタルカ南京政府ニハ徹底シ居ラサルカ如シ

丁代理大使ハ前言ヲ取リ消ス

358

昭和10年11月(26)日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛(電報)

中国側に対し速に華北情勢収拾促進を迫るべき旨有吉大使宛意見具申

南京　発

本省　11月26日夜着

第一三〇八號(極秘、部外秘)

本官發支宛電報[1]

第一二八三號

大臣發閣下宛電報第三一四號ニ關シ

一、支那側ハ累次往電ノ通リ相當困リ拔キ泣ヲ入ルル程度ニ至リタルヤニ認メラルル一方蔣介石モ連日幹部ト凝議シ略肚ヲ決メ來レルヤノ感アル次第ハ大臣宛往電第一三〇〇號會談ノ際ハ唐有壬ノ私見ニシテ幹部ノ意見ヲ保障シ得ストテ申出テタル列擧ノ諸事項カ閣下發大臣宛電報第

九九六號ニ依レハ權限附與ノ形式ヲ別トシ內容自体ハ蔣ノ了解ヲ得タルモノトシテ傳ヘラレ居ル點ヨリ觀ルモ明カニシテ先ツ我方ノ條理アル主張ハ大体通シ得ル形勢トナレリト認メラル

二、然ルニ本官ノ聞及ヒ居ル所ニ依レハ天津軍、關東軍ハ何レモ檻禮隱シニ必死トナリ上海、南京武官ニ對シテハ此ノ上ノ閣下ノ蔣介石トノ會見差止方電報越シ居リ政府ニ對シテモ尻ヲ捲リ居ル程度ノ樣子ニテ冒頭電報ノ次第ハアルモ本官等北支出張當時ニ懸念シタル皇軍入關ノ惧全然無シトセス

三、[2]而シテ北方軍部ノ其ノ後打チツツアル手ハ殷汝耕將又失業政治家(大臣宛往電第一三〇六號)等ヲ利用スルノ外無キカ如ク宋哲元ハ二十五日以後最近ノ機會ニ於テ自治宣言ヲ爲スヘキ旨軍部側ニハ申出テ居ル趣ナルモ先ツ相手ニハ出來サルヘク殷ノ宣言ニ對シテモ本二十六日ノ漢字紙ハ賣國ノ賊殺スヘシ等ト書立テ居リ(往電第一二八二號)此ノ儘ニテハ北方ニ於ケル壓力ヲ外交上ニ利用シ得ル機會ハ漸次薄ラクモノト懸念セラル

四、以上ノ形勢ニ鑑ミ既ニ御考慮中トハ存スルモ速ニ蔣介石ニ對シ其ノ肚ヲ示ス樣御話相成ルコト機宜ニ適スルヤニ認メラル

[3]勿論蔣ニ對シテ閣下從來ノ御主張通リ其ノ北支對策ハ遲キニ過クル一點張リニテ押サルルト同時ニ蔣ニ於テ肚ヲ決メ泣付キ來ルニ於テハ何應欽ノ如キヲ(本官北支出張中得タル感想ニ依レハ多田司令官等關係軍部ノ約半數ハ何カ本氣ニテ乘込ムニ於テハ考ヘ得ヘシトノ意見ナルモノノ如シ)派遣シ之ニ中央ヨリ切離シテ自治ヲ行フト同樣ノ全權ヲ與ヘシメ差向キハ閣下發大臣宛電報第九九六號ノ三列擧ノ如キ諸事項ヲ先ツ解決スルノ約束ヲ爲サシメ右ニ依リ北支ノ形勢安定スルヲ待ツテ先般蔣カ閣下ニ與ヘタル言質ヲ辿リ徐々三原則ノ實行方法ニ移ルコトトスル「ライン」ヲ以テ進ミ依テ以テ此ノ潮時ヲ失セス北支ニ於テ自治以上ノ實質ヲ收ムルト共ニ對支關係ノ全局ニ亘リ有利ナル地歩ヲ固ムルコト此ノ際最機宜ニ適スル方策ナルヤニ存セラル(右陸軍武官トモ打合濟)

本電部外ニハ絶對極秘ニ御取扱ヲ請フ

大臣、北平、天津ヘ轉電セリ

359　昭和10年11月(26)日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛(電報)

宋哲元の冀察綏靖主任任命など華北時局に対する行政院会議の決議内容について

南京　発
本省　11月26日夜着

第一三〇九號(至急)

二十六日行政院會議ノ決議左ノ通

一、北平軍事分會ヲ廢止シ其ノ事務ハ南京軍事委員會ニ於テ之ヲ處理ス

二、何應欽ヲ行政院駐平主任ニ任ス

三、宋哲元ヲ翼察綏靖主任ニ任ス

四、殷汝耕ヲ免職シ其ノ逮捕處罰ヲ命ス

支、北平、在支各總領事、香港、厦門ヘ轉電セリ

360　昭和10年11月(26)日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛(電報)

華北時局に対する行政院会議の決議は誠意を欠く対応である旨唐有壬へ抗議について

南京　発
本省　11月26日夜着

第一三一〇號(至急、極秘)

往[1]電第一三〇九號ニ關シ

本廿六日唐有壬トノ會談要領左ノ通

一、本官ヨリ冒頭往電ノ決議ハ如何ニモ有吉大使ヨリ蔣介石ニモ繰返シ申入濟ナル我方ノ意見ヲ無視スルモノナルノミナラス何應欽ニ行政院駐平辨事長官等ノ名義ヲ附シ如何ニモ華北モ行政院ニ於テ直轄スルモノナル點ヲ表面ニ現ハサントシ居ルハ華北ノ特殊事情ニ基ク大勢ヲ無視スル措置ト言フヘク而モ殷汝耕ノ免職ト並ヘテ決議スルニ至ツテハ餘リニ誠意ヲ缺クモノナリト述ヘタル處唐ハ實ハ其ノ點ニ付充分考慮ヲ加ヘ大使ニ來寧ヲ願フ爲上海ニ於テ御願申上ケタル次第ナルカ蔣介石ハ北方其ノ他ヨリ一日モ早ク時局收拾ノ辨法ヲ講スル樣督促セラレ大使ノ御來寧ヲ待チ得ス餘儀ナク本日ノ決定トナリタル譯ナルカ此ノ點ニ付テハ昨夜張群ヨリ大使ニ又陳儀ヨリ磯谷武官ニ對シ篤ト御了解ヲ得ル手筈トナリ居リ

張[2]群ハ右話合ノ結果ニ依リ收拾ノ見込サヘ着カハ外交部

長トナルコトニ決定シ(唐ノ次長留任ヲ條件トスル由)張ニ於テ大使トノ間ニ先ツ三原則ノ話ヲ始ムル用意アル次第ナレハ右充分御了解ノ上援助アリタシト申出テタリ

二、依テ本官ヨリ開キ直リ全然私見ナルモ

(イ)何應欽ニハ自治政府ノ主席位ノ積リニテ全權ヲ委ネ而モ目下懸案トナリ居ル北支關係事項ハ逐次具體的ニ解決シ行ク約束ヲ爲シ結局總括的ニモ列擧事項ニ付テモ中央ト無關係ニ實狀ニ卽スル解決ヲ爲ス權能ヲ與フル決心ナリヤ

(ロ)三原則ニ付テハ蔣介石モ斷然贊成ニシテ對案モナク之ヲ實行スルノ決意アリト明言シタル處右ハ勿論日本ニ於テ重要視スル所ナルモ之カ實行方法ハ前記(イ)ノ如キ仕組カ中央ノ斷乎タル決意ニ依リ收拾解決ノ見込充分トナリタル上ニテ話合ヲ爲スヘキ筋合ノモノナルカ右ノ點充分了解濟ナリヤ

(ハ)[3]之ヲ要スルニ三原則ノ袖ニ隱レテ北支ヲ政務整理委員會當時ノ如ク糊塗シ行カントスル手ハ全然問題トナラサル處支那側ノ覺悟如何

ト述ヘタルニ唐ハ私見トシテハ右ノ通ニ解シ差支ナシト存スルモ事重大ニモアリ更ニ蔣介石ニモ念ヲ押シタル上ニテ御答スヘシト答ヘタリ

三、本官ヨリ右ニ對シ蔣ノ答如何ニセヨ只今全然私見トシテ述ヘタル右樣ノ決意支那側ニ無ケレハコソ本日ノ決議ノ如ク先走リテ支那側丈ケノ面子ヲ立テントスルモノト解セラルルカ如キ措置ニ出テタル譯ニテ遺憾ニ堪ヘスト更ニ突込ミタルニ唐ハ實ハ打明ケテ言ヘハ餘リ速急ニシテ冒險的ナル措置ニハ相違ナキコト自分等モ承知ノ上ニテ爲シタルコトナルカ之レ以外解決收拾ノ途ナシト認メラレタルニ依リ已ムヲ得サルニ出テタル手續ナリトテ百方辯解ニ努メ居タリ

支、北平、天津ヘ轉電セリ

361　昭和10年11月27日　広田外務大臣より在中国有吉大使宛(電報)

華北情勢は中国の内政問題であるので対中三原則交渉はこれと区別して具体的実現に向け蔣介石らと至急折衝方訓令

本省　11月27日後4時発

第三一六號（至急、極秘）
貴電第九九六號ニ關シ
支那側ハ北支問題交渉ノ爲メト稱シ自治問題ト三大原則ニ含マルル北支地方ニ關スル我方ノ要望トヲワザト混同セシメツツ所謂中央派遣大官ト我方代表者トノ交渉等ニ依リ自治問題ヲ破壞セントスル魂膽ナルヤニ認メラルルニ付我方ニ於テハ右ノ點ニ留意シ主義トシテ內政問題タル自治問題ニ關スル交渉ニ引込マレサル樣此ノ上トモ警戒ノ要アリ就テハ累次ノ往電及左記ノ次第ヲ体シ至急機會ヲ逸セス蔣介石等南京政府ニ折衝セラレ先方ノ承認セル三大原則實現ニ關シ先方ノ具体案ヲ開示セシムル爲具体的進捗ヲ期セラレ度シ

一、自治問題ト三大原則ニ關スル日支交渉ハ全然別個ノ問題ニシテ截然區別スルヲ要ス蓋シ自治問題ハ元來支那ノ內政問題ナリ《往電第三一三號申進メノ通我方ノ要望スル所ハ北支ノ平安カ保タレ且同地方ニ於ケル日滿支ノ關係カ圓滑ニ行クコトニ存スル次第ニシテ固ヨリ我方ニ於テハ北支自治等同地方ノ政治機構ニ關スル支那側ノ遣方カ前記我方ノ要望ニ副ハスト認メラルル場合ニハ隨時忠告乃至警告ヲ與フルコトアルヘキモ（現ニ我方ニ於テハ蔣介石ノ腹案ノ如ク今更大官ヲ派遣シテ現地ノ實權者ト交渉セシムルモ時期既ニ遲ク却テ事態ヲ紛糾セシムルニ非スヤ又政務整理委員會乃至軍事分會マガヒノ新機構ヲ設クルハ事態ヲ複雜化スルノミニ非スヤ等ノ懸念ヲ有シ從ツテ此ノ際南京側ニ於テ北支實權者ニ或程度委ス方可ナルニ非ルカト考ヘ居ル次第ニテ此ノ邊既ニ貴大使ニ於テ支那側ニ忠告セラレタル譯ナリ）何レノ途本件ハ支那側ノ處理スヘキ問題ナリ》之ニ反シ三大原則ハ當然日支間ニ交渉セラルヘキ問題ナリ

二、三大原則ニ關スル日支交渉ハ假令北支ニ關スルモノト雖此ノ際北支地方ニ於テ之ヲ行フコトハ（貴電第九九六號一ノ末段參照）前記一、支那側（△アヤマリ）懸引ニ乘セラルルノミナラス却テ事態ヲ紛糾セシムルノ虞アルニ付本件交渉ハ少クトモ差當リハ南京ニテ行フコトト致度

北平、天津、南京ニ轉電セリ
貴電第九九六號ト共ニ滿ニ轉電セリ

（欄外記入）

（欄外記入）
△「前記一」ノ一ハ發電後氣附キタルカ一ノ字ハ不要ナリ（本電中ニアル、一、二ノ一ニハ非ス）　太田

362　昭和10年11月27日　在中国有吉大使より広田外務大臣宛（電報）

中国側華北収拾策への応酬振り訓令は明瞭を欠くため再度応酬振り請訓

上海　発
本省　11月27日夜着

第一〇〇七號（至急、極秘）
一、(1)北支自治問題ニ關シ當方ニ於テハ同問題カ兩國關係ノ全体及國際關係ニ及ホス機微ナル影響並ニ蔣介石ノ出方等ニ鑑ミ此ノ際我方トシテハ自治ノ促進ニ手加減ヲ加ヘ蔣介石ヲシテ北支收拾案ヲ提出セシメ其ノ內容並ニ之カ實行ニ對スル蔣ノ決心及誠意ヲ檢討シタル上滿足スヘキモノナルニ於テハ彼ヲシテ暫ク北支時局ヲ收拾セシムルト共ニ兩國關係ノ全面的改善ニ付努力セシメ右蔣ノ提案又ハ之カ實行ノ結果カ不滿足ナルニ於テハ改メテ自治ヲ促進スルコト適當ト認メ居リ南京發往電第一二九五號ヲ以テ右ノ次第請訓セル處貴電第三一三號御回訓ノ趣旨必スシモ明確ナラス卽チ右貴電ニ依リ本使トシテハ「蔣介石ノ提案ハ時期遲キニ過キ且ツ之ヲ以テ北支ノ事態ヲ複雜ナラシムル惧アリ我方トシテハ北支ノ平安カ保タレ同地方ニ於ケル三國關係カ圓滿ニ行クコトニ重キヲ置クモノナリ」トノ趣旨ニテ應酬シ彼ノ提案ノ內容ニ深入リスルヲ得サル次第ニテ右ハ貴電第三〇五號ノ趣旨ヲ体シ本使蔣介石トノ會見以來執リ來リ居ル態度ナルカ右ニ依レハ我方トシテハ北支收拾ノ爲ニハ蔣ノ提案如何ニ拘ラス之ヲ採納スルコト無ク單ニ彼ヲシテ自治ヲ默認セシメ爾餘ノ兩國關係改善方ニ就テノミ彼ヲシテ三原則ヲ實行セシムルノ御趣旨ナルヤニモ認メラル

二、(2)然ルニ蔣介石ニ於テハ三大原則ヲ認メ北支收拾ヲ含ム兩國ノ全面的關係ヲ改善スル決意アルコトヲ言明スルト共ニ自治ヲ認メ難キ旨ヲ强調シ居ル次第ナレハ本使トシテ前記後段ノ趣旨ニ依ル交渉ヲ之レ以上進メ難キ事情ハ前記南京發往電ノ外往電第九九五號ニ依リ御承知ノコトト存セラルルニ拘ラス貴電第三一三號ノ五ニ於テハ此ノ際

蔣トノ間ニ三大原則ニ關シ具體的ノ話ヲ進捗セシムヘキ旨御訓令アリ又貴電第三一四號ニ依レハ北支ニ於ケル工作ハ當方ニ於ケル蔣介石トノ折衝ヲ援助スル意味合ニテ進行セシメラルル樣陸軍側ト打合濟ノ上御手配中ノ趣ト承知セラレ右等ニ依レハ當方トシテハ前記一ノ方針ニテ蔣トノ交渉ヲ進メ差支無キモノトモ存セラル

三、尙最近陸軍武官カ中央ヨリ接到セル電報ニ依レハ本使蔣介石ノ交渉ハ單ニ蔣ニ於テ北支自治ニ對シ彈壓ヲ加ヘ事態ヲ紛糾セシメサル樣警告ヲ與フルヲ目的トシ自治問題ノ解決自身ヲ目的トスルモノニアラサル旨ヲ說明シ居ルモ同時ニ本使ニ於テ兩國關係ノ改善方ニ付北支自治ノ機會ヲ捉ヘテ蔣トノ間ニ折衝スルヲ適當ト認メ居ル趣ヲモ說示シ居リ右ニ依ルモ當方トシテ前記一、及二、ノ方針ノ何レニ依ルヘキヤ明瞭ヲ缺ク嫌アリ(武官ニ於テモ自分トシテハ前記一、ノ方針ニ依ルコト必要ナリト考ヘ其ノ旨中央ニ電報濟ナルカ右陸軍電報ノ解釋必スシモ明瞭ナラサルヤニ認メ居レリ)

四、[3]自治問題ニ對スル中央ノ御方針ニ付テハ前記ノ如ク貴電ノ趣旨明瞭ヲ缺クヤニ存セラルル處累次ノ電報ニテ申進ノ如ク本使ニ於テハ此ノ際ノ解決策トシテハ前記一、ノ方針ニテ進ムコト最モ適當ナリト考ヘ居ル次第ナルニ付右ニテ差支無キヤ折返シ御回示アリ度ク尙其ノ後先方ヨリハ蔣提案ノ內容ヲ漸次明確ニ通シ來リ居リ之ニ對シ我方トシテハ之ヲ我方ノ滿足スヘキモノトスル樣充分ノ註文ヲ附ケル必要アリト認メ居ル矢先南京發閣下宛電報第一三〇九號何應欽任命發表並ニ之ニ對スル往電第一〇〇八號當方及須磨總領事ノ抗議的申入ノ次第モアリ具體案ニ對スル我方ノ意見至急御決定ノ上併セテ御回示ヲ請フ北平、天津、南京ヘ轉電セリ

363 昭和10年11月(27)日 在中国有吉大使より広田外務大臣宛(電報)

我が方に相談なく何応欽の華北派遣を決定したことを張群に抗議について

上海 発
本省 11月27日夜着

第一〇〇八號(至急、極秘)

[1]往電第九九六號及南京發閣下宛電報第一三一〇號ニ關シ

廿六日張群、蔣介石ノ旨ヲ受ケタル趣ヲ以テ本使ヲ來訪シ一、張ハ蔣介石トノ會見ニ對スル本使ノ感想如何ト述ヘタルニ付本使ハ蔣ノ態度ニ付テハ大體ニ好印象ヲ得タルモ北支ノ自治運動ニ對スル觀察點ノ相違シ居ルハ遺憾ナリトテ重ネテ本運動ニ對スル北支民衆ノ希望ノ點及日本側カ使嗾シ居レリトノ誤解ノ點ニ對シ其ノ認識不足ノ次第ヲ說示シタルニ

二、張ハ實ハ昨日南京ニテ蔣トノ打合セノ結果行政院派遣ノ大官ハ何應欽ニ決定シ軍事分會ノ廢止ト共ニ本日既ニ發表セラレタル筈ナリ(南京發往電第一三〇九號)ト述ヘタルニ付本使ハ右ハ誠ニ意外トスル所ナリトテ前回蔣ノ申出及冒頭往電第九九六號唐有壬申越等ノ經緯ヨリ見テ尠クトモ蔣ヨリ本計畫ニ對スル具體的相談アルモノト豫期シ一兩日中ニ更ニ赴寧シ蔣ノ意見ヲ徵セント考ヘ居タル次第ヲ述ヘ

尙[2]斯ノ如ク支那側カ既往話合ノ經過ヲ無視シ危機ト認メラルル北支ノ問題ニ對シ我方ノ了解ヲ得ルコトナク高飛車ニ一方的實施ヲ爲ス結果ハ我方乃至北支民衆ヲシテ蔣カ北支民意ノ壓迫及黃郛時代ト同樣又復請訓外交ニ依リ事態ヲ糊塗セント企圖シ居ルモノナリトノ疑念ヲ抱カシメ却テ益々事態ヲ惡化セシメ收拾ノ餘地ナキニ至ル惧ナキヤヲ憂フル旨說示シ本使ニ於テ極メテ之ヲ遺憾トスル旨告ケタルニ

三、張ハ頗ル當惑ノ色ヲ示シ南京發往電第一三一〇號唐有壬ノ言譯(北方ノ時局收拾ノ急務ナル國內的事情)ト略同樣ノ辯解ヲ繰返シタル上更ニ張ハ蔣介石ハ今回ノ北支問題ノ收拾如何ヲ以テ日支國交ヲ左右スル重大ナル危機ナリト認メ非常ナル決意ヲ以テ之カ圓滿解決ト日本側トノ交渉開始ヲ希望シ居リ

[3]近ク改組セントスル政府ノ組織ニ付テモ日本側ノ滿足ヲ買ヒ得ルモノト考ヘ居ル次第ニテ總ユル努力ヲ拂ヒ居ル次第ニ付前顯手續ノ順序ハ轉倒シタルモ日本側ニ於テ支那ノ內政的苦衷モ諒察セラレ此ノ際北支關係及三原則ニ對スル日本側ノ具體的希望ヲ提示セラレ速ニ交渉ニ入リ得ル樣盡力ヲ願ヒ度シト懇請セルカ

四、本使ハ事茲ニ至ツテハ一時成行ヲ見送ルノ外ナカルヘシト答ヘ尙此ノ上事態惡化スルコトアルモ其ノ責任ハ一ニ支那側ニ歸スヘキ(ママ)モノナリトノ趣旨ヲ告ケ置ケリ

尙陳儀モ二十七日本使ヲ來訪シ何應欽ノ速急任命ノ事情ヲ述ヘ頻リニ我方ノ了解ヲ願ヒ度シト懇請シタルカ本使ハ前顯張ニ對スルト略同樣應酬シ置ケリ

北平、天津、南京ヘ轉電セリ

364　昭和10年11月㉘日　在天津川越総領事より広田外務大臣宛（電報）

華北時局収拾に関する私案具申

天津　発

本省　11月28日前着

第三六二號（至急、極秘）

南京發閣下宛電報第一三〇〇號ニ關シ

北支工作ハ裏面的政治工作ニ依リ之カ遂行ヲ期シ實力ノ發動ハ極力之ヲ避クル樣努メ來レル次第ナル處河北省實力者ノ態度決定ハ仲々容易ナラサルモノアリ爲ニ近來民衆運動滋生ノ傾向ニアル次第ナルモ是等運動カ果シテ所期ノ目的ヲ達成シ得ヘキヤ頗ル疑ハシキモノアルノミナラス此ノ種運動ハ動モスレハ最惡ノ事態ニ陷ルノ危險アリ斯クテ政治工作ニシテ行詰リヲ見ンカ茲ニ支發閣下宛電報第九九五號ノ二、ノ如キ容易ナラサル事態ニ落チ行クノ惧アリ而シテ刻下ノ情勢ハ漸次政治工作ニ行詰リヲ來サントシ勢ノ趨ク所或ハ實力發動ノ已ムヲ得サル破目ニ立至ルコトナキヲ保セス依テ南京側ヲシテ速ニ右ノ緊迫セル局面ヲ緩和スヘキ措置ニ出テシムルノ必要アリ

而シテ冒頭電報ノ唐有壬ノ提示ニ依ル時局解決案ハ實際問題トシテ何應欽ヲシテ之ヲ實行セシメントスル點現在ノ當地空氣ヨリシテ到底容認ノ限リニアラサル一方

此[2]ノ種中央ノ分派機關ハ政整會同樣遷延糊塗機關化スヘキニ依リ輕々ニ之ヲ取上ケ得サルモ飜テ南京側カ之ニ依リテ行ハント稱スル內容其ノモノハ必スシモ我方北支工作ノ大目的ニ背馳スルモノトハ斷スヘカラサルモノアルニ付茲ニ唐有壬ノ提案ニ對シ我方カ必要ナル修正ヲ加フル形式ノ下ニ南京側ニ對シ左記ノ如キ案ヲ卽時實行セシメ以テ危局ヲ收拾スル樣說得セハ如何ト存セラル右御參考迄

一、南京側大官ノ北支派遣ハ之ヲ取止メ速ニ河北省主席ニ對シ下記事項ヲ日本ノ協力ノ下ニ決意實行スルノ全權ヲ附與スルコト

(イ)鐵道ノ敷設

(ロ)鑛山ノ開發

(ハ)港灣及水路ノ築造改善

(ニ)農畜產物ノ改良增產施設

(ホ)其ノ他ノ地方開發上必要ナル經濟施設

二、河北省ニ於ケル歲入ハ河北省政府ヲシテ管理セシメ省政府ハ前項施設ニ要スル經費トシテ每年少クトモ三千萬元ヲ支出スルコト

三、河北省政權ノ統一化ノ爲宋哲元ヲ河北省主席兼全省保安總司令ニ任命スルコト

四、第一項ノ事業又ハ施設中他ノ華北四省ニ關係アルモノハ便宜關係各省トノ共管ト爲サシメ經費ハ關係各省ヲシテ協議ノ上之ヲ分擔セシム

（轉電先脫？）

365　昭和10年11月28日　在満州国南大使より広田外務大臣宛（電報）

華北自治宣言発表まで有吉大使による蔣介石への折衝見合せ方意見具申

新京　11月28日後発

本省　11月28日夜着

第九九二號（至急、極秘）

閣下發支宛電報第三一六號ニ關シ

北支方面ヨリ軍ニ達セル諸情報ヲ綜合スルニ冒頭貴電前段ノ通リ支那側ハ自治問題ト三大原則トヲ故意ニ混同セシメ以テ自治問題ヲ破壞セントノ魂膽ナル如ク北支將領ニ於テモ右支那側中央ノ策動ニ乘セラレ中央ニ於ケル日支交涉ノ結果ニ依リ態度ヲ決セントスル傾向多分ニ看取セラレ其ノ爲北支ノ事態ハ一層紛糾ヲ來スヘシト思考セラルルニ付テハ有吉大使ト蔣介石トノ交涉ハ閣下發支宛電報第三一三號三、ノ宋哲元等ニ於テ自治宣言ヲ發シ一應見極メ着キタル後ニ於テ爲スコト適當ト認メラル

尙右自治宣言ハ宋等ニ於テ中央ノ交涉ニ期待シ得サルコト明カトナルニ於テハ茲數日中ニ發セラルルモノト存ス

支、天津、北平、南京ヘ轉電セリ

366　昭和10年11月㉘日　在中国有吉大使より広田外務大臣宛（電報）

華北情勢にも鑑み蔣介石との折衝は暫時見合せの意向について

上海　発
本省　11月28日夜着

第一〇一八號（至急、極秘）
貴電[1]第三一六號ニ關シ
一、本使ニ於テモ蔣ト折衝ノ爲速ニ赴寧方ヲ考慮シ居タル矢先南京側ハ突然何應欽ノ任命ヲ發表シ右ニ關シ本使ヨリ往電第一〇〇八號ノ如ク張群ヲ通シ抗議的申入ヲ爲シ蔣介石ノ考慮ヲ促シ又往電第一〇一一號陸軍武官ヨリ陳儀ニ警告セル次第アリ（海軍武官モ同樣陳儀ト話合ヒタル由）陳儀ハ是等我方ノ意嚮ヲ齎シ蔣介石ニ請訓ノ爲二十七日夜赴寧セル趣ニテ近ク蔣介石ヨリ何等申出アルヘキ筈ナレハ其ノ上ニテ折衝ヲ進ムルコト交渉上適當ト考ヘラルル次第ナルカ恰モ昨日着滬ノ松井大將ハ滿洲國及北支ノ旅行中軍側ノ意嚮ヲ充分確メ來リタル趣ニテ其ノ話ニ依レハ關東軍トシテハ數日中ニ宋哲元ヲシテ輕度ノ自治ヲ宣言セシムルコトニ手配濟ニテ右實現ノ上ハ夫レ以上自治ヲ進ムル意嚮ナキ趣（天津軍モ全然同意見ノ由）ノ由ナルカ右ノ事情アリトセハ
本使[2]ニ於テ今直ニ蔣ト會見ノ爲赴寧スル場合ニハ宋ニ於テ本使蔣介石ノ交渉ニ望ヲ懸ケ其ノ決心ヲ鈍ラスヤモ測リ難ク之カ爲北方ノ工作ニ支障ヲ來シ却テ事態ヲ紛糾セシムル惧アルヤニモ考ヘラレ旁本使赴寧ハ一兩日後ノコトト致度キ考ナリ
二、往電第一〇〇七號稟請ニ付テハ大体冒頭貴電ニ依リ貴方ノ御趣旨ヲ推察シ得ルヤニ存セラル卽チ當方トシテハ右貴電一ノ趣旨ノ建前ヲ持スルト共ニ同電二ノ趣旨ニ依リ三原則實行方ノ話合ニ於テ北支ニ適用セラルルモノヲモ含メテ蔣介石ノ決心ノ程度ヲ確メ進ンテ之カ具体案ニ關スル蔣ノ意見ヲ開陳セシムル趣旨ニテ折衝シ度キ考ニシテ右ハ大体ニ於テ前記往電一前段ノ趣旨ト合致スルモノト存シ居レリ此ノ點右往電ト併セテ御參照アリタシ
北平、天津、南京ヘ轉電セリ

367　昭和10年11月28日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛（電報）

孔祥熙が日本の華北工作を非難し中国側収拾策の容認を要望について

南京　11月28日後発
本省　11月28日夜着

第一三一九號
往電第一三一〇號ニ關シ
廿七日夜求ニ依リ孔祥熙ニ面會セル處孔ハ先ツ日本ハ中部及南部支那ヲ棄テ北支丈ケニ立籠ラントスル積リナリヤ果シテ然ラハ支那ハ何事ヲモ犧牲トシテ之ニ對抗スルノ外無シト頗ル昂奮シテ北支情勢ニ關スル「ヴアージヨン」ヲ述ヘタルニ依リ本官ヨリ支那ハ又モ安價ナル愛國論ヤ理窟ニ依リテ大局ヲ紛糾セシメントスル譯ナリヤ今ノ話ハ恰モ約三年前宋子文カ承德ニ赴キ爲シタル愚論ヲ思ハシムルノミニシテ支那內政ノ當然ノ趨向トシテ起レル北支自治ノ運動ヲ默殺セントノ徒勞ヲ意味スト鋭ク酬ヒタルニ孔ハ稍落着キ來リ日本ハ支那ニ於テ如何ニセハ好シト云フ譯ナリヤト本音ヲ吐キ來リタルニ付本官ヨリ北支ノコトハ全然支那內政ニシテ日本ノ彼是言フ所ニアラサルモ自然ノ形勢ニ反スル强硬手段例ヘハ殷汝耕ノ逮捕ノ如キ手段ヲ執ルニ於テハ自然同方面ノ攪亂ヲ助長シ已ム無ク我方ニ於テ何等カノ措置ヲ執ルノ外無キニ至ルヘシ又昨廿六日ノ行政院會議ノ決議ハ蔣介石ニ於テ有吉大使ヨリ申入濟ナル我方ノ意嚮ヲ眞向ヨリ無視シタルモノニテ遺憾ニ堪ヘスト冒頭往電二唐有壬ニ對スルト同樣ノコトヲ說示セルニ孔ハ何應欽ニ全權ヲ與フルト云フカ如キハ觀念上ノ遊戲ニシテ假令蔣介石カ辨事長官タルモ支那領土タル同方面ト外國卽チ日本及滿洲トノ關係ヲ規律スルニハ一々中央ノ指令ニ依ルヲ要スヘク日本側ノ主張ハ北支ヲ獨立セシメントスルモノト言フノ外ナシトテ此ノ儘ニテハ解決ノ方法ニ窮スル處直ニ先ツ何應欽ヲ北上セシメ差支無キ樣了解アリタシト言ヘルニ付本官ヨリ北上ハ勝手ナルモ今ノ儘ニテハ何ノ效果モ無カルヘシト答ヘ要スルニ前記ノ諸點ニ對スル支那側ノ對策ヲ決メタル上ニテ話合フコトトスヘシトテ打切リタリ
支、北平、天津ヘ轉電セリ

368　昭和10年11月28日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛（電報）

中国側の華北収拾策は論外であり名実ともに国民政府と無関係の機関設立の覚悟で対応す

るよう唐有壬へ申入れについて

南　京　11月28日後発
本　省　11月28日夜着

第一三二三號(極秘)
往電[1]第一三一〇號ニ關シ
二十八日唐有壬ハ本官ニ對シ冒頭往電ニ關シ蔣介石トモ種々相談セルカ日本側ヨリ確タル御話ヲ受ケタル上ニテ考フルノ外ナシトノコトニ結着セリ實ハ支那ハ統一シ居ラサルハ御承知ノ通ナルカ例ヘハ西南ノ如キハ表面獨立ノ形ナルモ法律、稅制、外交及行政上ノ任命等ニ至ル迄中央ノ統制ニ服シ居リ唯陳濟棠カ個人的ニ中央トノ關係ヲ無視シ居ルニ止マル譯ナレハ北支ノ特殊事態ト言ハルルモ西南以上ノコトトハ成リ難カルヘシト言ヘルニ付本官ヨリ日本トシテハ何レ(內政)問題故如何ニ結着スルモ自由ナルカ滿洲國トノ接壤關係ヨリ必然生シタル事態ヲ無視スル如何ナル制度モ却テ事態ヲ惡化セシムルニ止マルヘキ點ヲ主張シ居ル次第ナレハ今更西南地方ト比較シ居ルニ於テハ殆ト見込ナカルヘシト酬ヒタルニ
唐[2]ハ然ラハ張學良時代ノ北支ノ通ニテハ如何ト切出セルニ付右時代ノ北支ト現在ノ夫レトノ間ニハ非常ナル差異アルヘク要スルニ唯現狀ヲ糊塗セントスル間ニ合セ案ヲ考ヘ居ル丈ケニテハ問題ノ解決トハナラス日本ハ暫ク事態ノ推移ヲ見送ルノ外無シト言ヘルニ唐ハ蔣介石モ今ハ理窟ヲ捨テテ當面ノ難局ヲ切拔クル方法ヲ考ヘ居ル譯ナルカ何應欽ニ與フヘシト主張セラルル全權トハ如何ナル範圍ノモノナリヤト言ヘルニ付本官ハ全權ハ實ハ黃郛モ之ヲ與ヘラレタルカ如キ体裁ナリシカアノ不首尾ナレハ何ニ於テ名實共ニ行政院トハ全然關係無ク北支ノ事態ニ卽スル施設ヲ爲ス積リニテ北上シ例ヘハ何ニシテ自治必要ナリトノ意見ナラハ中央ハ之ヲモ認ムル位ノ覺悟ナルヲ要スト述ヘタルニ唐ハ蔣介石モ殷汝耕逮捕ノ決議實行ノ爲ニハ宋哲元ニ命令シ居ルノミニテ別ニ實力ヲ有スルモノヲ送ラントスルカ如キ計畫ハ全然無キニ付話合ヲ纏ムル迄ハ豐台ノ占領ノ如キ事態ヲ避ケ冷靜ニ時局ヲ保持スル樣特ニ御願致度シト述ヘタリ
支、北平、天津ヘ轉電セリ

369　昭和10年11月28日　在中国武藤大使館一等書記官より広田外務大臣宛(電報)

宋哲元の遷延策により軍の華北工作難渋について

北　平　11月28日後発
本　省　11月28日夜着

第四〇九號※
韓復榘、商震共ニ北支自治ニ參加ノ意思ナシト見ルノ外ナキ今日軍側ニ於テハ宋哲元一人ヲシテ單獨ニ自治ヲ宣言セシムルコトニ最後ノ努力ヲ試ミツツアル處宋ハ軍側ニ對シテハ必ス自治ヲ宣言スヘシト言明シ居ル趣ナルモ過般來遷延策ノミヲ講シ居ル彼ノ遣口ニ鑑ミ右ハ疑ナキ能ハス現ニ何應欽ノ北上ヲ促シタルモノハ實ハ宋哲元ナリ(雷壽榮內話)トノ聞込サヘアリ少クトモ宋ハ何應欽ノ北上ヲ歡迎シ何着平ノ上ハ何ヲシテ難局ノ矢面ニ立タシメ自分ハ過般來獲得セル地盤ノ擴張ニ努ムル魂膽ニアラスヤトノ觀測モ行ハレ居リ最近軍側ニ於テモ宋ノ眞意ニ付テハ相當疑念ヲ抱クニ至レル實狀ナリ
從テ宋哲元カ曲リナリニモ自治ヲ宣言スレハ軍部對宋哲元ノ關係ハ一應救ハルヘク北支政局ハ之ニ依リ一應收拾セラルヘキモ若シ右實現セサル場合ハ軍ノ一部ニ於テハ宋哲元膺懲ノ態度ニ出ツルヤモ計リ難キ氣配アルヤニ看取セラレ既ニ當地ニハ往電第四〇五號ノ通リ相當ニ兵數集中セラレ居リ他面支那側民衆運動及一邦人ノ策動等小規模乍ラ行ハレ居ル際トテ何等不慮ノ事端發生ノ危險ナシトセス事態相當緊張シ居ルヤニ見受ケラル當地最近ノ情勢御參考迄

370　昭和10年11月29日　広田外務大臣より在中国有吉大使宛(電報)

華北情勢および対中三原則交渉に関する対処振り訓令

本　省　11月29日発

第三一七號(極秘、至急)
貴電第一〇〇七號及第一〇一八號ニ關シ
往電第三一六號ニ依リ我方方針既ニ御諒得相成タルコトト存スルモ念ノ爲左記申進ス
一、右往電ノ通北支自治問題ト三大原則ニ關スル日支交渉トハ性質上全然別個ノ問題ナルト共ニ支那側カ北支收拾策ニ付我方ト話合フトノ口實ノ下ニ其ノ實右話合ヲ利用シ自治問題ヲ瓦壞(解カ)セシメムトスル懸引ニ出テ居ル疑深キニモ顧ミ我方ニ於テハ(一)自治等北支政治機構ノ件ハ支那側

ニテ處理スヘキ問題ナリトテ交渉ニハ應セス而モ「忠告乃至警告」ハナサザルヲ得ストノ態度ヲ以テ南京側ノ對策ニ何彼ト難僻(辟カ)ヲ付ケ(南京發本大臣宛電報第一三〇九號ニ關シテハ研究ノ上更ニ申進スルコトアルヘキモ差當リ同電二何應欽任命ノ件ニ關聯シ此ノ際大官ヲ北支ニ派遣スルカ如キハ却テ事態ヲ紛糾セシムル虞アリ我方ノ贊同シ得サル所ニシテ寧ロ現地ニ於ケル實權者ニ或程度委カス方可然旨南京側ニ言明セラレ度)結局北支ニ於ケル或程度ノ自治ヲ認メシムル樣誘導スルト共ニ(南京側カ北支自治承認以上ニ同地方ニ於ケル平和ノ確保及日滿支圓滿關係ノ促進ニ資スル措置ヲ執レハ別問題ナルモ天津發本大臣宛電報第三六二號等ニモ顧ミ斯ノ如キハ殆ト望ミ難キノミナラス南京側ニテ何等北支ノ現狀ニ「ミート」スルノ誠意ナクシテ唯タ自治運動ヲ瓦壞(解カ)セシメムトスル懸引ニ出テ居ルノ疑深キコト前記ノ通)(二)三大原則ニ異議ナシトノ蔣介石ノ言質ヲ楯トシテ其ノ具体的實行ヲ迫リ右(一)及(二)兩々相應シテ我目的ノ達成ヲ期セムトスル次第ナリ

二、前記ノ如ク南京側ニ於テ自治運動瓦壞(解カ)ヲ策シ居ルヤニ認メラレ殊ニ蔣介石ニ於テ自治ヲ認メ難キ旨强調シ居ル次第モアリ右我方ノ工作ハ固ヨリ相當困難ノ事業ナルモ南京側ニ於テ速ニ北支ノ實情ニ逼(副カ)フ措置ヲ執ラス又三大原則ノ具体的實現ヲモ計ラサルニ於テハ北支ノ事態ハ益々惡化スヘキコト及日支關係ノ改善モ望ミ難キコト等ヲ蔣介石等南京側ヲシテ悟ラシメ彼等ヲ我目的ノ達成ニ向ツテ誘導スルコト肝要ナリ

南京、天津、北平ニ轉電セリ

冒頭貴電及天津來電第三六二號ト共ニ滿ニ轉電セリ

371　昭和10年11月29日　広田外務大臣より在英国藤井臨時代理大使宛(電報)

華北問題において九国条約に反する行動をとらない旨を日本政府が表明するよう英国政府より要請について

本省　11月29日発

第二二四號

二十七日英國代理大使重光次官ヲ來訪シ本國政府ノ訓令ニ依ルトテ「英國政府ハ北支ノ行政權分離ヲ企圖セル日本當

局(Authorities)ノ行動ニ關シ矛盾シ居ルモ不穩ナル各種ノ報道ニ接シ甚シク懸念シ居ル處日本政府ノ政策ニ關スル腹臓ナキ聲明(frank statement)及九國條約所定ノ原則ニ抵觸スルカ如キ何等ノ行動ヲ取リ居ラス又取ルノ意嚮ナキ旨ノ保障(assurances)ヲ與ヘラルルニ於テハ最モ感謝スル所ナリ」ト申入レタルヲ以テ其ノ際次官ヨリ英國政府ノ申入ノ根據トナレル情報ノ如何ナルモノナルヤ等ニ付テ質問ヲ試ミタル上英國政府カ先ツ日本政府ノ有スル北支情報ニ付テ質問ヲナスコトナク不正確ナル情報ニ基キ斯ノ如キ申入ヲナシタルコトヲ遺憾トシ次テ北支ノ事情ニ付テ曩ニ米國代理大使ニナシタル說明ノ趣旨ヲ以テ應酬シ尙北支分離運動ニ直接ノ刺戟ヲ與ヘタルハ支那ノ新貨幣制度ニ依リテ銀貨ノ中央集中ヲ企圖シ北支ニ於ケル經濟組織ノ破壞セラレントセルコトニアル處英國政府ノ主要人物「リースロス」氏ハ右貨幣制度ヲ熱心ニ支持シ今日モ大膽ニ意見ヲ發表シ支那內政問題ニ介入シ居ルハ北支ノ問題ヲ一層紛糾セシメ日支間ノ空氣改善ニ惡影響ヲ及ホスモノナリトテ右狀況ニ付反省ヲ促シタル趣ナリ。最後ニ右英國申入ニ對スル回答トシテ一應左ノ通リ答ヘ置ケル趣ナリ

(Autonomy movement in North China is essentially Chinese. Japan as the most interested Power is watching its development closely.)

在歐各大使及壽府ニ暗送アリタシ

支、北平、南京、天津、滿、米ニ轉電シ米ヨリ伯ニ轉電セシメタリ

372　昭和10年11月30日　在中国武藤大使館一等書記官より広田外務大臣宛(電報)

宋哲元が国民政府中央に対し華北民衆の自治要望を伝える電報発出について

別電　十一月三十日発在中国武藤大使館一等書記官より広田外務大臣宛第四一四号

右電報

北平　11月30日後発

本省　11月30日夜着

第※四一三號

高橋武官ヨリノ內報ニ依レハ宋哲元ハ自治實行ノ手始トシテ中央ニ對シ一ノ通電ヲ發スルコトニ決シ三十日蔣介石、

孔祥熙及何應欽ニ對シ大要別電第四一四號ノ通打電セル趣ナリ

（別　電）

北　平　11月30日後発
本　省　11月30日夜着

※第四一四號

當方面ノ情況益々切迫シ議論粉々（紛カ）トシテ自治又ハ自決ヲ主張スルモノアリ之ヲ抑遏スルコトハ既ニ不可能ナルト共ニ空言ヲ以テ局面ヲ維持スルコト亦困難ニシテ今ヤ其ノ力ヲ以テ施スニ術ナキニ至レリ此ノ際民衆ノ要望ニ副ヒ民心ヲ安定セシムル適切ナル方法ヲ講スルニアラサレハ外患内憂恐ルヘキモノアリ云々

373　昭和10年11月30日　在中国武藤大使館一等書記官より広田外務大臣宛（電報）

宋哲元一派による華北政務委員会設立計画に関する情報について

北　平　11月30日後発
本　省　11月30日夜着

※第四一五號

往電第四一三號ニ關シ

確カナル筋ヨリノ聞込ニ依レハ宋哲元ハ自治實行ノ意思ハアルモ殷汝耕ノ自治宣言ノ場合ノ如ク南京側ヨリ逆賊扱サルルコトヲ惧レ居リ從テ何トカシテ南京側トモ連絡ヲ保チツツ或種ノ自治ヲ行フコトヲ希望シ居ルカ爲種々工夫ヲ運ラシツツアリ其ノ手始トシテ往電第四一四號ノ通電ヲ發シタルモノナル趣ノ處右通電ニ對シ南京側カ自治ヲ認メサルヘキハ想像ニ難カラス其ノ爲第二段ノ工作トシテ蕭振瀛、秦德純、程克等ノ一味ヲ率ヒ人民ノ要望押ヘ切レストテ一齊ニ辭職シ之ト前後シテ民衆運動勃發スルヲ待チ宋一派ニ於テ華北政務委員會ナルモノ（自治ノ文字ヲ避クルハ成ルヘク南京側トノ了解ニ便ナラシメンカ爲ナルヘシトノコトナリ）ヲ組織シ華北政局收拾ニ乘出スヘキ手筈ナリトノコトナリ（商振（震カ）ハ暫ク之ヲ除外シ將來ノ情勢ニ應シ參加ヲ勸誘スル趣）

宋哲元ノ眞意ニ付テハ尚疑問ノ餘地無シトセス從テ本件カ

果シテ筋書通ニ運フヤ否ヤハ今後ノ經過ヲ見ル外無キ趣ナルモ右聞込ノ儘不取敢御參考迄

尚本件ハ機微ナル關係アルニ付部外ニ對シ絶對ニ極秘トセラレ度シ

374　昭和10年12月1日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛（電報）

中国側が華北収拾策の具体的措置案提示について

別　電　十二月一日発在南京須磨総領事より広田外務大臣宛第一三三八号

右措置案

南　京　12月1日前発
本　省　12月1日前着

第一三三七號（極秘）

本官發支宛電報[1]

第一三一一號

貴電第三三四號ニ關シ

本三十日求ニ依リ唐有壬（殷同同席）ニ面會（陸（軍）武官同席）シタルニ

一、先ツ唐及殷ヨリ交々張群及陳儀カ上海ニ於テ閣下並ニ磯谷武官ニ會談セルモ閣下ニハ御來寧ノ樣子モ無ク武官ハ北支問題ニ付殆ト辨法無キヤノ印象ヲ與ヘラレタル爲今ノ儘ニテハ中央政府ノ責任問題トナルヘキ形勢アル一方宋哲元ヨリハ日本側ノ壓迫ニ依リ此ノ儘ニテハ自治宣言ノコトトモナルヘキ實情ヲ訴ヘ至急中央責任者ヲ北上セシムル樣矢繼早ニ電請アリ茲三日間蔣介石以下關係幹部寄々凝議中ナリシカ本日各院長及日本關係者ニ對シ蔣ヨリ懇々時局收拾ノ爲大局ニ着眼スヘキ旨ヲ諭シ漸ク別電第一三一一號ノ如キ北支對策ヲ得タルニ付今夜何應欽、陳儀、熊式輝及殷同出發北上ニ決定セリト述ヘタリ

二、依テ本官ヨリ右對策ノ當否ハ暫ク措クトシテ既ニ閣下及本官ヨリ張群及唐有壬ニ行政院會談ノ決議其ノモノカ我方ニ於テ此ノ種辨法ハ遲キニ失スト述ヘ置キタル意嚮ヲ無視シ（雨宮武官ヨリ磯谷武官ニ於テ右決議ハ北支情勢ヲ益々紛糾セシムヘキ旨申出テ置キタル趣述ヘタリ）全然效果無キモノナルニ付今突如トシテ之ヲ實行セントスルハ益益我方ヲ無視スル仕業ニシテ不快ヲ覺ユルノ外無キカ又實際ヨリ言フモ今行キタリトテ多田司令官又ハ[2]

土肥原少將ニ於テ恐ラク話相手トナラサルヘク其ノ邊ハ殷同ニ於テ實情萬事承知ナルヘキニ此ノ決定アリタルハ遺憾ナリト述ヘタルニ(雨宮武官ヨリ少ク共二、三日間ヲ置キ多田司令官ニ於テ納得ノ行ク樣打合セ置クノ要アリト述ヘタリ)殷ハ成ル程非常ナル困難アルハ承知ナルモ北支對策ハ思切リタル支那側ノ大決斷ナレハ大體聞入レラルヘシトノ自信ヲ有スト述ヘ唐ハ何應欽ハ辨事長官トシテ赴クニアラス北支ノ實情視察ノ爲宋哲元ノ電請ニ應シ北上スル旨繰返シタルニ付本官ヨリ名目ハ何レニセヨ實質ハ遲蒔ノ方法ヲ行フニ等シク又宋哲元ハ中央政府ニハ如何ナル電請アリシヤ知レサルモ日本側ニハ全然異ル意思ヲ表示シ居リ(雨宮武官ヨリ宋ハ日本側ニ對シテハ何應欽ノ北上ハ實力ヲ以テ阻止スヘシト述ヘ居ル旨補足セリ)

此[3]ノ形勢ニシテ中央ヨリ派員センカ宋ノ言分ハ兎モ角決シテ日支間ノ感情ヲ融和スル所以ニアラスト述ヘ冒頭貴電ノ通リ大使モ二日ニハ來寧ノ筈故旁出發ハ見合ハスコト然ルヘシト說示シタルニ

三、先方ハ閣下ノ來寧ヲ全然豫想セスシテ決定ニ至リシモ何シロ蔣介石トノ御會談以前ニモ何事カ出來スヘキ形勢切迫ノ折柄ナレハ殷同ハ兎モ角一同出發シ何應欽丈ケハ暫ク保定ニ留マルコトニシテハ如何ト申出テタルモ雨宮武官ヨリモ何レニセヨ本日ノ出發ハ逆ノ效果アルヘキ旨說示シ本官ヨリハ特ニ單ナル通告ナラハ兎モ角相談ノ趣旨ナラハ少クトモ大使來寧ノ頃迄差控フルコト然ルヘシ(唐ヨリ都合着カハ三日以前ニテモ會見方如何ト述ヘタルニ依リ本官ヨリ二日中ニ蔣ニ會見方取計アルモ可ナルヘキ旨答ヘ置キタリ)ト强ク述ヘタル結果殷同ニ於テ蔣介石等ト相談スルコトトナリタリ

大臣、北平、天津、滿ヘ轉電セリ

(別　電)

南　京　12月1日前発

本　省　12月1日前着

第※一三三八號

本官發支宛電報

第一三一二號

日本側各方面ノ趣旨ヲ容レ先ツ河北省ニ對シ實質上自治ト

異ラサル施政ヲ實現スヘク結局大体西南ニ於ケル政治分會樣ノモノヲ設クルコトトナル又之ヲ他ノ地域ニ及ホスヘキヤ否ヤハ實情ヲ見タル上ノコトトスヘシ

(一)剿共事業ハ漸次進捗シタルモ共匪ハ甘肅方面ニ逃竄シ軈テ內蒙方面ニモ及フヘキ危險無シトセサルニ付北支ニ於ケル赤化防衛ハ共同ニ之ヲ行フコト(共同トハ日本トノ合作ヲ意味スルモノナリト說明シ居レリ)

(二)新幣制ハ北支ニ不適當ナル點モアルニ付之ニハ適宜ノ修正ヲ加フルコト

(三)關內外ニ於ケル人民間ノ經濟關係ヲ圓滿ナラシムルコト(本項ハ三原則ノ第一二該當スルモノナリト說明セリ)

(四)特殊事態ニ適應セシムル爲北支財政ニ對シ相當ナル支配權ヲ行フノ權限ヲ與フルコト

(五)對外諸懸案ニ對シ合理的ナル現地解決ヲ爲スヘキコト

(六)右ニ基キテ人材ヲ登用シ理想的政治ヲ行フコト(國民黨ノミニ依ル政治ハ人材ノ登用ヲ偏頗ナラシムル嫌アレハ北支ニ於ケル人物本位ノ政治ヲ實現スル趣旨ナリト說明セリ)

375　昭和10年12月2日　広田外務大臣より在中国武藤大使館一等書記官、在天津川越総領事、在済南西田総領事宛(電報)

国民政府が華北時局収拾のため派遣する何応欽ら一行との接触は一切禁止方訓令

本　省　12月2日発

合◎第八九五號(至急、極秘)

南京側ニテハ北支時局拾收ノ爲何應欽、陳儀、熊式輝及殷同等ヲ同地方ニ派遣スルコトトナリ何レモ三十日夜南京ヲ出發セル趣ナルカ(尤モ何應欽ハ差當リ保定ニテ待機セシムル由)右計畫ニ對シ豫テ我方ハ此ノ際之等ノモノヲ北支ニ派遣スルハ却テ事態ヲ紛糾セシムルノ虞アリ有害無益ナリトノ趣旨ニテ派遣中止方ヲ南京側ニ勸告シ來レル經緯モアルニ付自然此等要人ヨリ面會ヲ求メ來ルモ謝絕シ其ノ他此等要人北支滯在中ノ申出ニ對シテハ一切取合ハレサル樣致度シ

陸海軍側ヨリモ出先ニ對シ同趣旨電訓ノ筈

本電軍側ト打合濟

本電宛先　北平　天津　濟南

濟南ヨリ青島ニ轉電アリ度
支、南京、滿ニ轉電セリ

376　昭和10年12月2日　在中国有吉大使より広田外務大臣宛（電報）

中国側提示の華北措置案に対する我が方対処方針につき請訓

上海　12月2日前発
本省　12月2日前着

第一〇四二號（至急、極秘）
南京宛往電第三三四號ニ關シ
南京發本使宛電報第一三一二號支那側ノ案ハ蔣介石ニ於テ北支ノ事態ヲ認識シ之カ收拾ニ對シ相當ノ決意ト誠意トヲ有スルニ至リタル結果ト認メラレ我方トシテハ主義上之ヲ認メ之ニ對シ必要ノ修正ヲ加ヘシメタル上其ノ實行振ヲ監視スルト共ニ自治ノ進行ヲ暫ク停止スルコト然ルヘシト存セラルル處（陸軍武官ハ右ノ趣旨ニ加ヘ出來得レハ南京側ヨリ右支那側案ノ内容ヲ有スル自治ノ宣言ヲ爲サシムルコトヲ適當ト認メ右ノ趣中央ニ具申スルト共ニ雨宮輔佐官ヲシテ支那側ニ傳ヘシメ居ル旨ヲ述ヘ居タリ）本使ニ於テ蔣介石ト會見ノ節ハ右ニ關スル政府ノ大体ノ御方針ニテモ承知セサル限リ從來ノ御訓令ノミニテハ應酬ヲ爲シ得サル次第ナルノミナラス本日海軍武官カ接到セル北平駐在輔佐官ノ電報ニ依レハ本使蔣介石トノ會見ハ其ノ目的北支問題ノ解決ニアラストスルモ宋哲元ヲシテ既ニ決定セル自治宣言ノ態度ヲ鈍ラス惧アリ其ノ場合ニハ北平駐在陸軍ト宋哲元軍トノ間ニ不祥事勃發ノ危險アル趣ナルニモ鑑ミ（陸軍武官ニモ在北平輔佐官ヨリ同様ノ電報アリタル由）一日夜赴寧ハ取止メタリ就テハ前記支那側ノ案ニ對スル大体ノ御意響折返シ御回示ヲ請フ
北平、南京、天津、滿ヘ轉電セリ

377　昭和10年12月2日　在中国有吉大使より広田外務大臣宛（電報）

中国側提示の華北措置案を容認して時局収拾に当るべき旨意見具申

上海　12月2日後発
本省　12月2日夜着

第一〇四五號（大至急、極秘）
往電[1]第一〇四二號ニ關シ
一、北方ニ於テ計畫中ノ宋哲元ヲ中心トスル自治ノ内容ハ當方ニ全然不明ナルモ貴電第三一三號及往電第一〇一八號松井大將ノ話等ニ依リ判斷スルニ南京發閣下（宋使カ）宛電報第一三一二號南京側ノ豫定セル案ノ範圍ヲ出テサルモノト存セラルル處果シテ然ラハ問題トナルハ
(一)自治ノ名目ヲ取ルカ政治分會ノ形トスルカ及
(二)之カ實行者トシテ中央派遣ノ何應欽ヲ認ムルカ又ハ宋哲元ヲシテ從來ノ自治ノ建前ニ於テ之ヲ實行セシムルカ
ノ二點ニ過キサルモノト存セラル然ルニ右ノ内(一)自治ノ名目ニ付テハ冒頭往電ノ次第ハアルモ北方陸軍側ニ於テハ現ニ宋哲元ヲシテ自治ノ名ヲ避ケ北支防共委員會ノ名ヲ以テ實質的ニ輕度ノ自治ヲ行ハシムルコトニ誘導シ居ル趣ナレハ南京側提案ノ内容ニ異存ナキ限リ強ヒテ自治ノ名目ヲ付ケシムルノ必要ナキヤニ考ヘラル
(二)[2]ノ點ニ就テハ宋哲元ノ人物手腕及從來ノ遣口等ニ鑑ミ之ヲシテ實行ノ局ニ當ラシムルモ充分ノ成績ヲ擧ケ難キヤニ存セラルルノミナラス我方ニ於テ之ヲ固執スル場合ニハ南京側トノ話合ハ決裂ノ外ナク恐ラク實力ニ訴ヘテ之カ實現ヲ計ラサルヘカラサルノ破目ニ立至ルヘク此ノ場合兩國關係ノ全面的惡化ヲ招來スヘキコト往電第九九五號ノ通ナル外南京側カ既ニ此ノ程度迄讓歩シ居ルニ拘ラス右ノ如キ事態ヲ惹起スルコトアラハ我方トシテハ機微ナル國際關係上極メテ不利ナル立場ニ陷ルコトヲ覺悟セサルヘカラス之ニ反シ我方ニ於テ南京側提案ヲ容レ蔣介石ヲシテ北支ニ於テ我方ノ要望ニ副フカ如キ政治ヲ行ハシムルコトトセハ之ヲ契機トシ彼ヲシテ兩國關係ノ全面的改善ニ乘出サシメ得ルコトモ可能ナルヘク三原則ニ依ル我方策實現ノ前途相當有望ナルモノアリト思考ス
二、[3]加之南京側カ今回思切ツテ（一語脱）ヲ讓歩シ而モ何應欽、陳儀、張群、熊式輝、殷同、唐有壬等ノ日本ヲ了解スル要路者カ一致奮起シ此ノ案ニ依リ時局收拾ニ乘出シタルハ彼等トシテハ恐ラク之ヲ以テ最後ノ奉公ナリトノ決心ヲ固メタル結果ナルヘク（何應欽ハ側近者ヲ介シ陸軍武官ニ對シ今回北ニ赴ク上ハ事ノ成功ト否トニ拘ラス歸京出來サルヘシト述ヘタル趣ナリ）我方ニ於テ從來ノ行懸

ニ拘泥シ之ヲ忌避スルコトアラハ彼等全部ノ立場ヲ失ハシメ政府部内ニ於ケル彼等ノ勢力ヲ失墜セシメ黄郛、袁良等ト同様消極的立場ニ陥ラシムヘク之カ爲將來兩國關係ノ收拾ニ乘出ス者ナキニ至ル危險アルヘシ

三、(4) 尚陸軍武官ハ本日天津軍ヨリ同軍トシテハ支那側今回ノ提案ニ對シ强硬ニ反對ナル旨ノ電報ニ接シ之ニ對シ支那側案ヲ承認スルコトカ兩國全面的關係ノ改善上必要ナル旨同答セル趣ナルカ右天津軍ノ電報中ニハ本使赴寧カ北方工作ニ害アル旨ヲ高調シ居リ武官ヨリハ之ヲ反駁セル趣ナリ(右事情ノ外本使トシテハ冒頭往電政府ノ大体ノ方針ヲ承知スル迄ハ蔣ト會見スルモ左シタル效果ナシト考ヘ三日會見ノ豫定ヲ暫ク延期セリ尤モ諸般ノ情勢ニ鑑ミ本件我方態度ハ急速決定ノ要アルコト勿論ナルニ付前記ノ次第ヲモ御考慮ノ上何分ノ儀大至急御回電ヲ請フ)

北平、天津、南京、滿ヘ轉電セリ

378　昭和10年12月2日　在中国武藤大使館一等書記官より広田外務大臣宛(電報)

何応欽北上決定後の宋哲元の態度について

北　平　12月2日後発
本　省　12月2日夜着

第※四一九號

往電第四一五號ニ關シ

何應欽北上ノ報ト共ニ宋哲元ハ一日某方面ニ對シ往電第四一五號所報ノ所謂第二段ノ工作以下ノ手筈ハ當分之カ實行ヲ見合セ度キ旨申出テタルヲ以テ某方面ニ於テ宋ノ不誠意ヲ難詰シタル處宋ハ何應欽カ北平ニ乘込ム場合

(一)自分ハ一時北平ヲ避ケ何トハ面會セサルヘキコト及

(二)宋ノ部下カ何ニ買收セラルルコトヲ嚴ニ阻止スヘキコト及

(三)民衆ノ自治運動ヲ激成セシムヘキコト

ヲ言明スルト共ニ自分ハ決シテ自治ヲ實行セスト云フニアラス唯暫ク猶豫ヲ願ヒ度キナリト陳辯シタル趣ナリ

宋カ自ラ何應欽ノ北上ヲ求メ乍ラ一方何北上ヲ口實ニ漸次其ノ態度ヲ曖昧ニセントスルハ結局自己ノ責任ニ於テ自治ヲ實行スルコトヲ回避セントスル肚ナルヤニ認メラレ或ル一部ニ於テハ面子ノ問題モアリ此ノ際相當强硬ナル手段ヲ以テ宋ヲ壓迫スル必要アリトノ意見ヲ有スル模様ナル處强硬手段ハ好マシカラサルノミナラス今トナリテハ如何程ノ效果ヲ收メ得ヘキヤ疑問ナルヘク結局現下ノ情勢ニ於テハ大体南京側ノ北支對策要領(南京發閣下(ママ)宛電報第一三一二號)ノ骨子ヲ容ルルト共ニ宋哲元ヲシテ北支政權ノ首腦者タラシムルカ如キ方式ヲ見出スコトニ依リ(斯クスレハ某方面ノ面子モ立ツヘシ)事態收拾セラレ得ヘキニアラスヤト觀測セラル

御參考迄

379　昭和10年12月2日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛(電報)

中国側提示の華北措置案を支那駐屯軍が内心歓迎しているとの観測について

南　京　12月2日後発
本　省　12月2日夜着

第※一三四五號

本官發支宛電報第一三一九號

本官發大臣宛電報第一三三九號ニ關シ

一、本官ノ知リ得タル所ニ依レハ北支ニ於ケル工作ハ先ツ手ヲ盡シ切リ何等拔道ヲ見出サントシ居タル矢先ニ往電第一三一二號支那側對策ニ接シ多田司令官ヨリハ雨宮武官ニ對シ御協力ニ依リ御同慶ニ堪ヘス右對策ハ之ヲ容認セサルヲ得スト電報越シ居リ表面ハ兎モ角實ハ曙光ヲ認メタルヤノ空氣ト察セラレ自然御懸念ノ如キ此ノ上ノ突發事件ハ先ツ無カルヘシト存セラル

二、又之ヲ帝國政府ノ立場トシテ考フレハ飽迄北方ニ於ケル軍側ノ顔ヲ立テ行クコトハ今後ノ爲ニモ必要ナレハ今次支那側對策ハ表面ハ如何ニモ何應欽カ我方軍部ニ泣付キ且ツ北方ノ實情ヲ見テ之ニ卽スル方策トシテ中央ト打合セノ上決定シタルモノト爲シ北支我方當局ハ先ツ此ノ位ナラハ眞面目ニ之ヲ實施スルニ於テハ或ハ形勢ヲ平安ナラシムヘシト思考シ暫ク靜觀スヘシ位ノコトニ取扱フコト軍人ノ心理ニモ亦帝國將來ノ方策ニモ合スルモノト存セラル(昨一日磯谷武官ノ旨ヲ受ケ來寧セル市田少佐ハ雨宮武官ト共ニ昨夜唐有壬ニ對シ大臣宛貴電第一〇四二號陸軍案ノ趣旨ヲ申入レタルモ宣言ノコトハ餘リ明示セス又唐有壬モ何レ其ノ旨何應欽ニ申送リ實情ニ適スルヤ否ヤヲ見タル後處理シ度シト答ヘタル趣ナリ)

380　昭和10年12月2日　在中国有吉大使より広田外務大臣宛（電報）

中国側提示の華北措置案に支那駐屯軍が強硬に反対しているとの情報について

上海　12月2日後発
本省　12月2日夜着

第※一〇四七號
本使發南京宛電報
第三四〇號
貴電第一三一九號ニ關シ
十二月一日磯谷武官宛天津軍來電ニ依レハ唐有壬申出ノ六項ノ提案ヲ以テ蔣介石ニ誠意アリト認ムル能ハス何應欽等ノ派遣ニ依リ誤魔化サントスルモノナリトテ右提案ニ強硬反對ノ意嚮ヲ申來リ居ル一方二日天津聯合ノ秘密來電トシテ松本ノ内報（極秘）ニ依レハ天津軍ニテ程克ヲ強制シ一日夜聲許リノ自治ヲ發表セシメタルカ北平ニアル土肥原、高橋カ妥協氣分ニテ宋哲元ノ宣言ナキ爲軍ノ北支工作上重大ノ危機ニ面シ來レリトノ趣旨ヲ申越シ居ル趣ニモアリ旁冒頭電中多田司令官トアルハ高橋武官ノ誤ニアラスヤト思考セラル爲念

381　昭和10年12月2日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛（電報）

華北措置案を現地情勢に応じて修正する用意があるとの蔣介石意向を唐有壬内報について

南京　12月2日後発
本省　12月2日夜着

第※一三四八號
本官[1]發支宛電報
第一三二三號
往電第一三一一號ニ關シ
本二日求ニ依リ唐有壬ト會見セル要領左ノ通
一、唐ヨリ蔣介石ニ於テ閣下カ御來寧ヲ見合セラレタルハ何應欽カ本官ノ意見ニ反シ北上セル爲ニアラスヤト懸念シ右ハ北方ノ情勢カ切迫セル爲已ムヲ得サルニ出テタル措置ナル旨ヲ繰返シ閣下ニ傳達方命令アリタリト語レルニ依リ本官ヨリ大使ノ來寧見合セハ別ニ都合ニ依ルモノニシテ日本側ノ態度ハ從來ト變ル所ナシト應酬シ置キタリ

二、更ニ唐ヨリ陳儀ヲシテ天津ニ直行セシメ出來得レハ多田司令官ト先ツ非公式ニ話ヲ進メシメ頃合ヒヲ見テ何應欽、熊式輝ハ太原保定ヲ經テ赴津ノ筈ニテ
同[2]一行ニ於テ實狀ヲ詳細見タル上ニテ先般ノ對策（往電第一三一二號）ヲ更ニ具体的ニ決定スルコトモアリ得ヘク差向キ例ヘハ殷汝耕ニ對スル措置ノ如キハ現地ニ副フ適當ノ方法ニテ穏便ニ且ツ殷ノ面子モ損セサル解決ヲ遂クル筈ナリト述ヘ
三、更ニ蔣介石ニ於テモ右實際上ノ措置決定ヲ見ルニ於テハ或ハ一旦決議セル辨事長官ノ名義ハ勿論場合ニ依リテハ何應欽ノ北方滞在モ見合スコトトナルヤモ知レスト考ヘ居ル程ナリ（何ハ三十日出發二時間前ニ漸ク北上ヲ承諾セル始末ニテ自身ハ北上ヲ避ケ度ク自然何ノ行政院長代理說モ出テ居ル譯ナリト附言セリ往電第一三四七號參照）ト語レルニ付本官ヨリ其ノ點ハ實狀ニ卽スル樣計フコト必要ニテ場合ニ依リテハ例ヘハ宋哲元ヲシテ收拾セシムルモ得策ナルヘキ旨述ヘ置キタリ

382　昭和10年12月3日　広田外務大臣より在中国有吉大使宛（電報）

中国側華北措置案への対処方針回訓

本省　12月3日発

第三一九號（至急、極秘）
貴電第一〇四二號ニ關シ
一、南京發支宛第一三一二號南京側ノ案ハ未タ不徹底ノ誹ヲ免レスト雖蔣介石從來ノ態度ニ對比スレハ不滿足乍ラモ一段ノ進歩タルコトハ之ヲ認メ得ヘク我方ニ於テハ之ヲ利用シ南京側カ益々我方ノ目的ニ添ヒ來ル樣此ノ上トモ工作スルコト肝要ナリ
二、但シ前記南京發支宛電報ノ内容中㈠乃至㈤ハ我方トシテ主義上大体異存ナキモ尚全體トシテ充分檢討ノ要アル處差當リ最モ問題トナルハ同電前文及㈥ナリ蓋シ支那側ニテハ實質上自治ト異ラサル施政ヲ實現ストカ政治分會樣ノモノヲ設クトカ北支ニ於ケル人物本位ノ政治ヲ實現ストカ云ヒツツ其ノ實矢張リ從來ノ政整會ノ如キモノヲ作ラムトスル策略ニ出テ居ル疑深キ處右樣ノ機構ヲ設クルコトハ累次申進メノ通リ北支ノ現狀ニ適應セス却テ事態

ノ紛糾ヲ増ス虞アルニ付我方トシテハ従來通「北支ノ實權者ニ或程度委スコト可然」トノ態度ニテ之ニ臨ミ南京側カ今次ノ決意ニ一歩ヲ進メ前記南京電報(一)乃至(五)ノ内容ヲ北支實權者ヲシテ實施セシメ(同電(一)(三)(五)又ハ該實權者ニ對シ實行スル(同電(二)(四)コトトナル様誘導スルコトヲ要ス(尚前記(一)(三)(五)ハ我方ト交渉スヘキ事項ナルニ對シ前文及(二)(四)竝(六)ハ主義上支那側ノ内政問題ナルモ我方ハ忠告乃至警告ヲ與フルコトアルヘシトノ建前ニテ支那側ヲ我方ノ目的ニ逼(副カ)フ様誘導シ行クヘキ事項ナリ、此ノ點御氣付ノコトト存スルモ爲念)

三、敍上考慮ノ下ニ軍側ト我方當面ノ工作ニ付左記ノ通打合セタリ

(イ)北支ニ於テハ引續キ從來ノ通ノ(過度ニ急ナラサル)「テンポ」ニテ宋哲元等ノ自治運動ヲ指導スルコト(此ノ點陸軍ヨリ出先ニ改メテ電報ノ筈)

(ロ)何應欽等北支ニ來ルモ我方出先ハ一切面會ヲ拒絶シ之ト取合ハサルコト(委細往電合第八九五號ノ通)

(ハ)南京側ニ對シテハ前記一及二ノ趣旨ヲ体シ『南京側今次ノ決意ハ我方トシテハ未タ充分滿足ナラサルモ兎ニ角右決意ヲナシタルハ一段ノ進歩ト認ム、從テ該決意ノ具体的實現ニ付テハ更ニ話合ヲナスニ吝ナラス、但シ今次決意實行ノ爲政整會議(ママ)ノ新機關ヲ設クルコトハ北支ノ事態ニ「ミート」スル所以ニ非ス、右實行ハ北支實權者ニ委ス方可然、又何應欽等ノ北支派遣ハ徒ニ現地ノ事態ヲ紛糾セシムルノミナルニ付至急召還方可然』ト云フカ如キ態度ニテ臨ミ結局南京側カ今次決意ノ具体的實現ニ付現實ニ誠意ヲ示シ來ルト共ニ之カ實行ヲ北支實權者ニ委スコトトナル様誘導スルコト

(ニ)尤モ此ノ際貴大使ノ赴寧ニ付テハ自治宣言ニ關スル宋哲元以下ノ決意ヲ鈍ラス惧アリトノ軍側出先ノ意嚮モアルニ付冒頭貴電ノ通リ今暫ラク北支ニ於ケル形勢ノ推移ヲ見定ムルコト但シ須磨領(總カ)領事ニ對シ南京側ヨリ何等申出アリ又ハ唐有壬等赴滬ノ上貴大使等ニ對シ本件ニ關スル我方ノ意嚮ヲ質ス等先方ヨリ「アップローチ」シ來ル場合其ノ他必要ニ應シ前記(ハ)趣旨ニ依リ可然南京側ヲ指導スルコト(尚貴大使赴寧ノ件ニ關シ万一剿匪等ノ爲蔣介石ニ於テ急遽離京スルカ如キコトトナル場合ニハ前記ノ次第ハアルモ蔣離京前貴大使ニ於

テ同人ニ面會ノ上蔣自身ノ今次決意ニ關スル言質ヲ取付ケ置クコト肝要ナルニ付此點ハ御含置アリ度)

四、就テハ敍上ノ趣旨御含ミノ上今後トモ北支ノ形勢及南京側ノ動向等注視セラレ善處方御配慮相成度シ

本電陸海軍ト打合スミ

南京、北平、天津、滿ニ轉電セリ

383　昭和10年12月3日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛(電報)

中国側提示の華北措置案による時局解決を磯谷武官らが支持について

南　京　12月3日後発
本　省　12月3日後着

第一三五二號※

本官發支宛電報

第一三二八號

貴電第三四〇號ニ關シ

天津軍來電ハ雨宮武官宛ニシテ問題ノ六項ハ陸軍側ノ趣旨ニモ合致シ容認シテ可ナルカ如キモ北支ノ情勢ヲ豫定ノ如キ所ニ落着カシメタル上考慮スルコト然ルヘシト爲シ各項ニ付輕キ「コメント」ヲ附シ居リ要スルニ支那側ノ提案其ノモノニハ反對ニアラサルモ現下ノ情勢ヲ阻止シ得ス且ツ阻止スルハ不可ナリトノ見地ヨリ先ツ軍側ノ工作上面子ノ立ツコトヲ前提トシテ考ヘ居ルモノト讀マレタリ尤モ關東軍ハ右提案ヲ頭カラ問題トセス反對ナル旨電報シ居ル越(趣カ)ナルモ磯谷、雨宮兩武官ハ支那側ノ意嚮判明ノ上ハ職ヲ賭シテモ前記提案ノ「ライン」ニ依ル解決ニ邁進セントスル決意ヲ固メ右本部ニモ電報セル經緯アリ詳細ニ付テハ支那側ノ意嚮ト共ニ本官本三日赴滬ノ上委細申上クヘキモ不取敢

384　昭和10年12月3日　在天津川越総領事より広田外務大臣宛(電報)

多田司令官が殷同らと会見し中国側措置案による時局収拾を拒絶について

天　津　12月3日後発
本　省　12月3日夜着

第三六九號※

支發閣下宛電報第一〇四五號ニ關シ(1)

一、二日午前殷同多田司令官ヲ來訪シ南京發閣下宛電報第一三一二號ノ案ヲ提出シ同日午後更ニ陳儀同伴來訪了解ニ努メタルモ多田司令官ハ之ヲ拒絶セル趣ナリ

二、當方面ノ實際ノ狀勢ヲ觀察スルニ駐屯軍側ニテハ飽迄往電第三六四號ノ段取ヲ急速ニ進行セシメントスルノ氣勢ニアル一方宋哲元側ハ何應欽等ノ北上ニ依リ大分南京側ニ對シテ妥協ノ傾ヲ示シ來レルモノト認メラルル處右何、宋ノ接洽ニ依リ北支ノ狀勢カ緩和安定ヲ見ルモノト判斷スルハ甚シキ錯誤ニシテ其ノ結果ハ最恐ルヘキ危機ニ一歩一歩踏込ムモノト判斷セサルヲ得ス

往電第三六二號試案卽チ

(イ)河北省主席ニ對シ鐵道、鑛山、港灣、水路、農業施設其ノ他經濟開發事業實行ノ全權ヲ南京ヨリ附與シ

(ロ)河北省ニ於ケル歳入ヲ省政府ニテ管理セシメ年三、四千萬元ヲ右經濟施設ニ當テシメ

(ハ)宋哲元ヲ省主席兼保安司令ニ任スル

ノ案ニ付テハ未タ軍側トモ何等話合ヒタル次第ニアラサルヲ以テ右ノ案ヲ以テ時局ヲ收拾シ得ルモノト斷定スルコトハ困難ナルモ本官ノ觀ル所ニ依レハ南京ヲシテ右案ヲ急速ニ實現セシムレハ曲リナリニモ收マリヲ着ケ得ルモノト思考セラル要點ハ宋ヲ此ノ際河北省主席ニ任命スルニアリ宋ノ人物手腕如何ハ此ノ際問題トスヘキニアラサル上南京側トシテハ既ニ同人ヲ冀察綏靖主任ニ任命スル程ナレハ之ヲ省主席ニ任スルニ何等障碍ナキ譯合ナル上前記試案ハ獨立又ハ自治等ノ形ヲ執ラス唯實質的ニ經濟施設ノ全權ヲ與フルト云フ丈ケナルニ付少クモ南京側ニ取リテハ最實行シ易キ案ト認メラルル(尙右案ノ一ツノ取柄ハ將來韓復榘ヲ之ニ倣ハシムル可能性アルコトナリ)ニ付至急御考慮相煩度シ

385

昭和10年12月4日　在中国武藤大使館一等書記官より広田外務大臣宛(電報)

中国側の華北措置案や宋哲元の態度に関する土肥原特務機関長の内話について

北　平　12月4日後発

本　省　12月5日前着

第※四二七號

四日土肥原少將ニ面會セルカ其ノ內話要領左ノ通

一、宋哲元ハ元來自治實行ノ考ナルモ南京側トノ紛糾ヲ避ケンコトヲ欲シ北支ノ自治要望ハ自分ニテハ到底押ヘ切レサル旨ヲ南京側ニ印象付ケ以テ南京側ヲシテ宋ノ自治實行ヲ已ムヲ得スト觀念セシムル作戰ニ出テタルモノナル處何應欽來平シタルニ付テハ宋ハ何ニ對シ時局收拾ノ困難ナル事情ヲ訴ヘ何ヲシテ匙ヲ投出サシメ且ツ宋ヲシテ自治ヲ實行セシムルノ外ナキヲ認メシムル方策ヲ講シツツアリ自分(土肥原)トシテモ何ハ結局何等爲スコトヲ得サラシメテ之ヲ追返ス積リナリ

二、自分ハ南京側提案(南京發支宛電報第一三一二號)ニ對シ日本カ好意的考慮ヲ加フルカ如キ態度ヲ示スコトニハ反對ナリ何トナレハ右ハ宋哲元ノ決心ヲ鈍ラスノミナラス南京側ヨリ出テタル案ナル以上落着ク所ハ結局曩ニ失敗セル黃郛政權ト大差ナキモノナルヘケレハナリ又宋ハ北支政權者トシテ適當ナリヤ否ヤハ問題ニアラス今トナリテハ日本ノ面子ノ問題ナルヲ以テ自分ハ飽迄宋哲元ヲシテ實行セシムル考ナリ

三、(本官ヨリ宋哲元ハ結局自治實行ノ誠意無キモノトシテ之ヲ膺懲スヘシトノ論天津軍邊ニ行ハレ居ルヤノ噂アル處如何ト尋ネタルニ對シ)宋カ自治ヲ實行セスト見ルハ當ラス支那人ノ爲スコトニ付テハ氣長ニ構ヘル必要アリ自分ハ宋ハ必ス實行スルモノト見居レリ但シ實行セシムルニハ相當鞭撻スル必要アリ依テ自分ハ宋ノ言明セル自治實行ニ關スル手筈(往電第四一五號)ノ實施ヲ强要シ先ツ宋一派ニ一齊辭職ノ卽時斷行ヲ迫ル積リナリ如何ニ鞭撻シテモ遂ニ實行セストアレハ其ノ時コソ宋ハ人ヲ欺キタルモノナレハ膺懲ノ必要アリ然シ眞逆自治ヲ實行セスト云フ理由ヲ以テ軍事行動ヲ起ス譯ニハ行カサルヲ以テ其ノ時ハ別ニ何等カ適當ノ名目ヲ作ルコト必要ナルヘシ

386

昭和10年12月5日　在天津川越総領事より広田外務大臣宛(電報)

宋哲元に対する河北省の全権付与が唯一の時局収拾策である旨意見具申

天　津　12月5日後発

本　省　12月5日後着

第※三七四號

宋哲元ハ四日支那新聞記者團ニ對シ自分ハ中央ノ命ニ絶對

ニ服從スヘク何部長カ北平ニ常駐シ責任ヲ以テ一切ヲ處理セラルルニ於テハ自分ハ其ノ領導ノ下ニ努力スヘク綏靖主任ニモ亦就任スヘシト語リタル趣當地漢字紙ニ掲載セラレ居ル處右事實トセハ何應欽等ノ策動效ヲ奏セルモノナルヘキモ之ヲ以テ北支時局安定スヘシト見ルハ大ナル錯誤ニシテ愈宋哲元ニシテ自治宣言發出ヲ肯セサルニ至ラハ當方ノ豫テ最モ懸念シ居レル最悪ノ事態ニ陥ルヘキ危險益々切迫スルモノト見サルヲ得ス而シテ之ヲ救フヘキ方策トシテハ南京ヲシテ此ノ際河北省ノ全權ヲ宋ニ與ヘ(宋以外ノ者ニテハ絶對不可ナリ)何應欽以下南京側要人ヲ急速南下セシムルコト最モ有效ナリト認メラルルニ付此ノ際兎モ角モ宋ニ河北省ノ全權ヲ與フルコト時局收拾ノ唯一ノ方法ニシテ然モ急速實行ヲ要スルコトヲ大使及南京總領事ニ於テ南京側ニ強ク「インプレス」セラレンコト切望ニ堪ヘス

387　昭和10年12月5日　在中国有吉大使より広田外務大臣宛(電報)

華北時局の収拾に関し唐有壬と意見交換について

上海　12月5日夜発
本省　12月5日夜着

第一〇五九號(極秘)

貴[1]電第三一九號ニ關シ(北支問題及三大原則ニ關スル件)

一、四日唐有壬來訪本使ヨリ支那側ニ於テ從來我方ヨリ蔣介石、張群等ニ說示セル點ヲ無視シテ突然何應欽ヲ北上セシメタル爲北方ノ事態ヲ益々紛糾セシメタルハ極メテ遺憾ナリト述ヘ唐ヨリ南京發本使宛電報第一三二三號等ト同趣旨ノ辯明ヲ繰返シタル上(右別電對策六項ニ對シテハ關係各部ヨリ種々意見出テ殊ニ新幣制ノ修正ニ付テハ孔部長ヨリ强ク反對セルカ右ハ北支事態ノ悪化ト直接關係アルモノナリトテ蔣介石ニ於テ押シテ採用セル事情モアリ右決定ニ手間取リ何ノ出發ニ先立チ日本側ノ了解ヲ得ル暇ナカリシ旨說明シ居タリ)何應欽ノ北上ハ辦事處長官トシテ職能ヲ行フ爲ニアラス各方面ト接洽シ北支ノ實情ヲ視察シテ本件對策ノ實行方ヲ攻究スル爲ナレハ日本側ニテ之ニ反對セラレサル樣願ヒ度シト述ヘタリ

二、[2]本使ヨリ今回ノ對策六項ニ就テハ細目ハ別トシ其ノ大綱ニハ大体異存ナク蔣介石カ之ニ依リ北支事態ヲ收拾セント決心セラレタルコトハ兩國ノ爲結構ナルカ唯其ノ手續ニ於テ前述ノ如ク遺憾ノ點アリシ爲北方ニ於テハ右ノ決定ハ北方事態ノ急迫ニ餘儀ナクセラレタル彌縫策ニシテ事態落着ケハ從來ノ政整會時代ノ遣口ニ復歸スルモノトノ疑惑ヲ抱キ之カ爲何應欽ニ反對スルニ至レルモノニシテ右ハ無理カラヌコトト思ハルルニ付事態收拾ノ爲ニハ此ノ疑惑ヲ解クコト必要ナリ之カ爲ニハ第一ニ蔣委員長ニ於テ今回ノ對策實行ニ付充分ノ決心ト誠意ヲ有スルコトヲ明示セラルルト共ニ北方ニ於テ信頼シ得ル者(北方ノ實權者ナラハ信頼シ得ルト思ハルト說明セリ)ヲシテ之カ實行ノ局ニ當ラシムルコト必要ナリ此ノ意味ヨリシテ何應欽ノ北上カ前記ノ如キ目的ナラハ格別之ヲシテ無理ニ對策ヲ實行セシメントスルハ徒ニ事態ヲ紛糾セシムルノミナルヘシト述ヘタルニ唐ハ對策實行者ハ充分ノ手腕、能力ヲ必要トスル處宋哲元ニテハ能力ニ於テ缺クル所アリ人選ニハ困リ居リ何應欽ニ於テ實地攻究ノ結果ヲモ參照シ決定スルコトトナルヘシト述ヘ本使ヨリ前記諸點ニ就テハ蔣委員長ニ於テモ充分ノ考慮ヲ運ラサレタル上何應欽等カ右ノ趣旨ニ從ヒ充分善處スル樣隨時指示セラルルヲ肝要ト思フ旨ヲ注意シ置キタリ

北平、天津、南京、滿ヘ轉電セリ

388　昭和10年12月5日　在中国武藤大使館一等書記官より広田外務大臣宛(電報)

宋哲元が姿を隠したことに関する高橋武官補佐官および土肥原特務機関長の内話について

北平　12月5日夜発
本省　12月5日夜着

第※四三〇號

宋哲元ハ五日午前私邸ヲ出テ何レカニ姿ヲ消シタリト稱セラルル處右ニ關シ高橋武官ノ内話ニ依レハ宋ハ時局ノ重大ナルニ鑑ミ到底其ノ職ニ堪ヘ難シトテ何應欽ニ辭職(多分平津衛戍司令ノ職ナルヘシ)ヲ申出テ其ノ儘何レカニ赴キタルモノニシテ尚土肥原少將ハ右宋ノ離平ハ所謂自治工作ノ第二段ニ入リタルモノニシテ宋一派ノ一齊辭職ニ先立チ先ツ自ラ辭職セルモノナリト内密ノ含ヲ以テ說明セリ尤モ何應欽到達以來宋ヲ交ヘ連日要人ノ會談密議行ハレ居ルニ鑑ミ宋カ右ノ如キ態度ニ出テタル眞意俄ニ推測ヲ許ササル

モノアルモ右不取敢

389　昭和10年12月6日　在中国有吉大使より広田外務大臣宛（電報）

華北分離工作は成功の見込みなく現地軍は体面保持に腐心との陸軍武官観測について

上海　12月6日前発
本省　12月6日前着

第一〇六四號（大至急、極秘、館長符號扱）

貴電第三一九號ノ三ニ依レハ貴方ニ於テハ陸軍側ノ自治工作ハ實力ヲ用フル等無理ヲセストモ漸次進行シテ相當ノ時期ニ完成スルモノトノ御考ナルヤニ存セラルル處當方陸軍武官ニ於テハ右工作ハ到底成功ノ見込ナク北支軍側ニテハ其ノ面子ヲ保ツ樣如何ニ收拾スヘキヤニ困リ居リ内心ハ當方ニ於テ蔣介石トノ間ニ今回提案ノ「ライン」ニテ北支收拾策ヲ速ニ協定センコトヲ希望シ居ルモノト觀測スル旨内話シ居ル處他方本使南京トノ交渉ニ對スル天津軍ノ反對ノ外（往電第一〇四五號ノ三參照）同武官ハ關東軍ヨリモ其ノ後當方面武官ノ南京側ニ對スル工作ハ自治完成ヲ阻害スルモノナレハ之ヲ休止スヘキ旨强硬ニ電報シ來リ居ル趣（之ニ對シ武官ヨリ强ク反駁セル趣ナリ）ヲ語リ居リ

又南京發本使宛電報第一三一九號多田司令官ノ電報ハ前記天津軍ノ武官ニ對スル反對電報ト照合シ或ハ同軍乃至關東軍内部ニモ意見ノ相違アルニアラスヤト推セラルル節アリ旁當方トシテハ軍側ニ於テ果シテ無理ヲセスニ自治ヲ完成シ得ヘシトノ確信ヲ有スルモノナリヤヲ疑ヒ居ル處前記ノ點ニ付貴方乃至中央ニ於テハ如何樣ニ觀察セラルル次第ナリヤ右御觀測如何ニ依リテハ北平發閣下宛電報第四二七號及天津發閣下宛電報第三七四號ノ點ハ相當憂慮スヘキモノト存セラレ從テ本使南京側トノ差當リノ交渉方針ニ手加減ヲ加ヘル必要アリトモ考ヘラルルニ付右等ニ對スル貴見本使含迄ニ御回示ヲ請フ

北平、天津、南京ヘ轉電セリ

390　昭和10年12月6日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛（電報）

華北時局收拾に当っては何応欽帰還と宋哲元への全権一任が先決の旨唐有壬へ提議について

南京　12月6日夜発
本省　12月6日夜着

第※一三六一號

支宛貴電第三一九號ニ關シ

本六日唐有壬ハ本官ニ對シ昨日ノ一中全會ニ於テ張群愈外交部長ニ決定シ行政院長（往電第一三六〇號）ノ決定ヲ俟チ正式發表ノコトトナルヘキカ從來ノ外交政策カ蔣介石、汪兆銘ノ合作ニテ汪限リノモノニアラサル趣旨ヲ更ニ徹底セシムル必要モアリ張就任ノ後モ暫クハ自分ニ於テ從來通リ次長タルヘキ了解ナル處北支問題纏マラサル限リ何事モ手ニ着キ（難キ次カ）次第ナルヲ以テ外交部ニ於ケル自分最後ノ御奉公トシテ之カ解決ノ爲支那側ノ誠意ヲ徹底サセ度キ所存ニテ今朝モ本官ト會見前特ニ張群ト縷々打合セタル譯ナルカ如何ニセハ萬全ノ方法アルヘキヤ御指示ヲ請フト申出テタルニ付本官ヨリ

㈠客月三十日强ク説示シタル通リ（支宛往電第一三一一號）何應欽ノ北上カ何ノ效果モ無キコト事實ニ於テ立證セラレタル今日一日モ早ク實情報告ノ爲歸寧ヲ電命スルコト必要ナリ

㈡北支ハ元來實權ヲ有スルモノニシテ初メテ收拾シ得ヘク何應欽ハ勿論蔣介石ニ於テ今采配セントスルモ見込ナキニ付テハ此ノ際宋哲元ニ一切ヲ委セルコトニ速ニ決定スルコト必要ナリ

㈢以上ノ建前ニテ宋カ施政ヲ行フノ要訣ハ例ヘハ往電第一三一二號ノ六項ノ如キモノナルカ之カ細目ニ就テノ相談ハ前二項ノ實行ヲ見タル上ノコトトセサレハ徒勞ニ歸スヘシ

㈣㈠及㈡ノ各項ハ大至急（例ヘハ今明日中ニモ）之ヲ實行スルニアラサレハ是亦時期ヲ失スル惧充分ナレハ先ツ誠意ヲ披瀝スト云フニ於テハ此ノ邊ヨリ手初ニ本官等ノ與ヘラレ居ル最近ノ不愉快（往電第一三〇九號行政院會議ノ決議、何等（カ）ノ北上等ヲ仄カセリ）ヲ除クコト必要ナリト申聞ケタルニ唐ハ再三繰返シ右ノ意嚮ヲ書留メタル上充分了解セルニ付右「ライン」ニテ奮闘スヘシト述ヘタリ

尚本官會見後直ニ唐ト會見セル陸軍武官トハ茲暫クハ冒頭貴電二ノ點ニハ觸レサル樣充分打合セ置キタリ

391　昭和10年12月6日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛（電報）

何応欽帰還と宋哲元への時局一任を実行する旨唐有壬内報について

南京　12月6日夜発
本省　12月6日夜着

第一三六四號（至急、極秘）
往電第一三六一號ニ關シ
求ニ依リ六日午後唐有壬ト會見セル處唐ハ只今何應欽ヨリ西山ニ赴キ密議中ノ宋哲元ニ對シ北支時局ノ收拾ハ一切宋ニ於テ爲スコト然ルヘキ旨話シタルニ宋ハ然ラハ引受クヘキモ何分ニモ困難ナル問題故責任ハ自分（宋）ニ於テ取ルトシテ何モ暫ク滞在指圖願度シト申出テタルモ何ハ其ノ北上ノ任務終了シタルニ付早速歸寧スヘキ旨答ヘタルニ宋モ結局納得シ昨夜蕭振瀛ヲ不取敢天津ニ派シ日本側ニ右ノ趣旨ヲ傳ヘシメタルカ右結果ヲ待チ何ハ歸寧シ度シト電報接到セルニ依リ早速相談ノ上右ハ今朝ノ本官トノ話合ニモ合スル譯故折返シ中央ヨリ右「ライン」ニテ至急歸寧方電命スルコトトナレリト述ヘタルニ付本官ヨリ宋ニハ對策六項ニ依ル施政權限ヲ與フル譯ナルヘシト念ヲ押セルニ唐ハ右對策ハ何應欽宛ニ與ヘタルモノナレハ今直ニ之ヲ宋ニハ移シ難カルヘキモ何レ何歸寧ノ上ハ詳細報告ヲ徴シタル後結局御話ノ如クスルコトトナルヘシト答ヘタルニ付本官ヨリ右權限ノ點ハ重大要點ナレハ何レ細目等ニ付テハ更ニ御相談ニ應スルトシテ兎モ角右六項ノ「ライン」ニ依ル廣汎ナル權限附與方是非共機ヲ失セス取計フ樣繰返シ申入レ置キタリ
支、北平、天津ヘ轉電セリ

392　昭和10年12月7日　在中国有吉大使より広田外務大臣宛（電報）

宋哲元への全権一任は蔣介石の最終譲歩点であり至急時局収拾を図るべき旨意見具申

上海　12月7日夜発
本省　12月7日夜着

第※一〇七三號
天津發閣下宛電報第三八〇號ニ關シ
南京側ニ於テハ愈宋哲元ニ權限ヲ附與スルコトニ決定スル

意響ナルカ如ク認メラルルコト南京發閣下宛電報第一三六四號ノ通ナルカ右ハ當方面ニ於ケル累次ノ説得及急迫セル北支ノ事態ニ鑑ミ蔣介石ニ於テ決意セル最後ノ讓歩點ナリト認メラルル處出先軍側ニ於テ果シテ右ニテ滿足スルヤ或ハ飽ク迄南京側ノ權限附與ヲ否認シ宋ノ自主的自治ヲ主張スヘキヤハ冒頭電報ノ次第ハアルモ頗ル疑問ニシテ（本日提（掲カ）載ノ北支ヨリノ新聞電報ハ軍側カ右後者ノ態度ヲ執ルヤニ傳ヘ居リ喜多大佐携行ノ中央ノ方針ニ關スル六日東京發電通ハ宣傳ノ意味ハ別トスルモ同趣旨ナリ）出先ニ於テ萬一此ノ上慾ヲ出シ右ノ如キ態度ヲ執ルニ於テハ南京側ハ手ヲ引クノ外無ク宋トシテモ中央ト絶縁セル自治ノ宣言ニハ躊躇スヘキ惧モアリ勢ヒ遂ニ實力行使ノ已ム無キニ至ルヘシト考ヘラル就テハ軍側出先ニ於テ冒頭電ノ趣旨ニ從ヒ南京側最後ノ讓歩點ヲ認メ和平的ニ時局ヲ收拾スル樣至急取纒方此ノ上トモ御配慮ヲ請フ

393　昭和10年12月7日　在中国有吉大使より広田外務大臣宛（電報）

何応欽に予定していたと同様の全権を宋哲元に対し付与するよう唐有壬へ要求について

上海　12月7日夜発
本省　12月7日夜着

第※一〇七七號
七日唐有壬來訪シ(1)
一、唐ハ何應欽ハ元々北方ノ實情ヲ見ニ行キタル次第ナルカ用向モ一通リ終了セルニ付近ク歸寧スル豫定ナリトテ南京發閣下宛電報第一三六四號ト略同樣ノ話ヲ爲シタルニ付本使ヨリ然ラハ何ニ與ヘントセル六項ノ權限ヲ宋哲元ニ與フルコトニ決定シタル次第ナリヤト質シタルニ
二、唐ハ其ノ點ハ未タ決定シ居ラス實ハ宋哲元其ノ他北方要人ノ間ニモ色々ノ意見アリ省主席ニ全權ヲ委任スヘシト爲スモノ政治分會樣ノモノヲ設クヘシト主張スルモノ或ハ省主席ノ下ニ委員會ヲ組織シ外交、内政、財政等專任ノ擔當者（例ヘハ王克敏ニ財政ヲ擔任セシムト云フカ如キ）ヲ設クヘシ等ノ説モ出テ居リ又最近ニテハ自治等ノ名目ハ問題ニアラス實質上ノ調整カ重要點ナル模樣ナルニ付差當リ宋哲元ニ後事ヲ一任シ何ヲ歸寧セシメ報告ヲ得タル上具体的事項ノ決定ヲ爲ス豫定ナリト答ヘ尚右ニ

關シ本使ノ意見ヲ求メタルニ付

三、[2]本使ハ何ノ引揚ハ結構ナルモ唯今後宋哲元ニ任ストノミニテ如何ナル權限ヲ附與スヘキヤヲ示サスシテ何カ歸寧スルトセハ政府ハ何ナラハ全部ノ權限ヲ與フルモ宋ナラハ一部ノミシカ與ヘ得スト云フ態度ニ見エ宋自身ノ不滿モ生スヘク(唐ハ北方要人中權限爭モ起リ居ル由語レルニ付)又特殊情勢ノ裡ニ置カレタル北方ノ民心ニ重ネテ不安ヲ與ヘ且ツ日本側ニモ疑惑ヲ生セシムルコトトナリ其ノ結果何ノ引揚後ニ於テ更ニ各種ノ運動起リ事態ヲ惡化セシムルコトトナルヘク此ノ點憂慮ニ堪ヘスト述ヘ從テ前顯六項ニ對シテモ其ノ儘滿足ヲ表シ得サル點アルモ兎ニ角何ニ對シ豫定セルト同樣右六項ノ權限ヲ宋ニ與ヘタル上何ノ引揚ヲ實施スルコト然ルヘキ旨說示シタルニ唐ハ之ヲ諒トシ右貴大使ノ意見トシテ早速張群ニ電報シ蔣介石ニ報告スル樣取計フヘシト答ヘタリ

394　昭和10年12月7日　在中国武藤大使館一等書記官より広田外務大臣宛(電報)

宋哲元への全権付与は何応欽に予定していた

以上の広範な権限を想定している旨の土肥原特務機関長意向について

北平　12月7日夜発
本省　12月7日夜着

第※四三一號

南京發閣下宛電報第一三六四號ニ關シ

高橋武官ノ内話ニ依レハ何應欽ハ宋哲元ヲ立ツル以外ニ途ナシト認メ南京側ヘ請訓セルニ對シ南京側ニテハ宋ノ主張ヲ容認シ差支ナキ旨六日何ニ對シ回訓來リ右ハ宋哲元側ヨリ土肥原少將ニ内報アリタルヲ以テ同少將ハ七日宋哲元ニ對シ「華北人ニ依ル華北ノ自治」ナル原則ヲ沒却セサルコト肝要ナル旨念ヲ押シ置キタル趣ナリ

土肥原少將ハ豫テヨリ右原則ヲ以テ宋哲元ヲ内面指導シ居リ從テ土肥原、宋哲元間ニ了解セラレ居ル自治ノ内容ナルモノハ人事、軍事、財政、經濟、外交等ノ各部門ニ亘リ苟モ地方的ニ處理シ得ル事柄ハ悉ク之ヲ地方ニ委ネシムト云フニアリテ其ノ範圍ハ極メテ廣キモノニナリ居ルヲ以テ南京側提案ノ六項カ所謂自治ノ全部ナリトスルカ如キ態度ヲ南京側ニ示スコトハ今後ノ工作上差支ヲ生スヘキニ付此ノ

點留意ヲ要スヘキ旨高橋武官ヲ通シ同少將ヨリ特ニ申越アリタリ爲念

395　昭和10年12月8日　在中国武藤大使館一等書記官より広田外務大臣宛(電報)

宋哲元を首班とする冀察政務委員会の設立構想に関する土肥原特務機関長らの内話について

北平　12月8日夜発
本省　12月8日夜着

第※四三二號

八日土肥原少將及專田參謀ニ面會シタル處其ノ内話要領左ノ通

一、新政權ノ名稱ハ冀察政務委員會トシ宋哲元ヲ委員長トシ人事、財政、交通、學校等ノ各般ニ亙リ自治ヲ實施ス軍事ハ冀察綏靖主任(卽チ宋哲元)ヲシテ之ニ當ラシメ宋ハ行政及軍政ノ首班トナル次第ナリ(軍事ハ從來ヨリ實質的ニハ殆ト自治ニ等シキモ唯經費中中央ヨリ支出セラレタルモノヲ今後ハ該委員會ヨリ支出ス)停戰地區ハ特別區トシテ該委員會ニ屬セシム尙新政權ニハ權威アル邦人顧問ヲ置ク計畫ナリ

二、目下問題トシテ殘リ居ルハ何應欽ハ該委員會ヲ行政院ノ隸下ニ立タシメント考ヘ居ル點ニシテ右ニ付七日宋哲元側ヨリ土肥原氏ヘ承諾ヲ求メ來レルヲ以テ土肥原氏ハ行政院ノ筋ヲ引クコトニハ反對ヲ表明シ該委員會ハ之ヲ支那ノ宗主權ノ下ニ立タシムヘキナリト主張シ置キタル由ナリ尤モ此ノ點ニ付テハ土肥原氏ヨリ關東軍ノ意嚮ヲ照會中ナリ

三、宋哲元從來ノ態度ニ鑑ミ彼ヲ束縛スル爲ニハ梅津、何應欽協定ノ如キ措置ヲ講シ置ク必要アルコトヲ認メ土肥原、宋哲元間ニ一ノ協定ヲ結フ筈ニテ何應欽ハ四、五日中ニ右協定ノ成立ヲ俟テ南下スルコトトナルヘシ

四、現在ノ狀態ニ於テハ宋哲元獨リ腹ヲ壞セシコトトナリタルモ自治斷行ノ爲メニハ一ノ方便トシテ已ムヲ得サル所ナルヘク尙各般ノ細目ハ委員會成立後トナルヘク稅關ノ接收ノ如キハ徐ニ着手スルコトトナルヘシ

396　昭和10年12月9日　在中国有吉大使より広田外務大臣宛(電報)

宋哲元へ付与される権限に関し我が方が要望すべき範囲につき請訓

上海　12月9日夜発
本省　12月9日夜着

第※一〇七九號

南[1]京發本使宛電報第一三四六號ニ關シ

當方トシテハ南京側提示ノ北支收拾策ニ對シ貴電第三一九號ノ御趣旨ニ從ヒ暫ク六項目ノ内容ニ深入リスルコトヲ避ケ先ツ宋哲元ヲシテ自治ヲ實行セシムル様説得ニ努メ來リタル結果蔣介石ニ於テモ漸ク之ヲ認ムルコトニ決定スル意嚮ナリト存セラレタルヲ以テ當方トシテハ引續キ宋ヲシテ實行セシムヘキ自治ノ權限ハ蔣介石カ初メニ豫定セル六項目タルコト必要ニシテ今ニ至リ之ヲ縮少シ又ハ之カ附與ヲ躊躇スルカ如キコト無キ様南京側ニ極力説得シ居リ之カ爲必要ニ應シ近ク本使直接蔣介石ヲ説得スル積リナリ（本使トシテハ南京側ヲシテ宋ニ對シ右ノ權限ヲ附與セシムルニハ何應欽南下以前ニ於テ彼ヲシテ宋及之ヲ介シ軍出先側ト話合ヲ爲サシメ同時ニ當方ニ於テ南京側ヲ説得スルコト必要ナリト考ヘ居ル次第ナリ）

而[2]シテ南京側カ宋哲元ヲシテ大体六項目ノ實質的自治ヲ實行セシムルナラハ我方ノ目的ニ副フモノナリトノ點ハ前記貴電及貴電第三一三號ノ三輕度ノ自治カ大体西南政權ノ程度ニ出テストノ點其ノ他ノ貴電ノ趣旨ニ依リ明瞭ナルノミナラス往電第一〇四二號等陸軍武官ノ南京側ニ對スル接觸等ニ鑑ミ軍側ニ於テモ素ヨリ異存ナキモノト考ヘラレ其ノ心組ヲ以テ南京側ヲ指導シ來リ居ル次第ナル處北平發閣下宛電報第四三一號及第四三二號ニ依レハ軍出先ニ於テハ更ニ廣汎ナル自主的自治ヲ目的トシ居ルモノトモ存セラルル筋アリ果シテ然リトセハ當方ニ於ケル南京側トノ折衝ハ從來ノ經緯ニ鑑ミ根本ヨリ覆ルコトトナリ收拾スヘカラサル事態ニ立至ルヘキ惧アリ旁自治ノ範圍ハ前記ノ如ク考ヘ差支ナキヤ本使含迄ニ折返シ御回示ヲ請フ

397　昭和10年12月10日　広田外務大臣より在中国有吉大使宛（電報）

宋哲元への付与を要望すべき権限の範囲および国民政府との折衝時期につき訓令

本省　12月10日発

第三二六號（極秘）

貴電第一〇七九號ニ關シ

一、六項目ハ漠然タル辭句ヲ用ヒタル包括的ノモノニシテ其ノ運用如何ニ依リ實質的ニ相當度ノ進ミタル自治タラシメ得ヘキモノナル處元來我方ノ意向ハ成ル可クナラハ相當度ノ進ミタル北支自治ヲ希望スルモ唯タ右目的達成ノ爲餘リ無理ナル手段ヲ執ルコトハ之ヲ避ケ度止ムヲ得サレハ差當リ西南程度ニテモ我慢スル外致方ナカルヘシト云フニ在リ從テ南京側納得ノ上ニテ前記希望ヲ滿シ得レハ之ニ越シタルコトナキ次第ナリ然ルニ北支自治ノ内容ニ付テハ目下何應欽宋哲元（延イテ北支軍部）間ニ折角折衝中ニテ右折衝ノ結果結局カ何ニ於テ相當、度ノ進ミタル自治案ヲ携ヘ南下スルニ至ルヘキヤニ推セラルル現在ノ狀勢ナリ仍テ貴大使等南方ニ於テハ引續キ六項目ノ内容ニ深入スルコトナク往電第三一九號ノ趣旨ニ依リ「六項目ハ我方トシテハ未タ充分滿足ナラサルモ右六項目ノ程度ニテモ南京側カ決意ヲナシタルハ一進歩ナルニ付此ノ決意ヲ飜スコトナク兎ニ角之ヲ北支實權者ヲシテ實施セシムルコト肝要ニシテ此ノ際南京側カ術策ヲ弄シ六項目ノ實施ヲ回避スルカ如キ結果トナリ又北支自治ノ内容ヲ有名無實タラシムルカ如キ結果トナルコトアラムカ事態ハ再ヒ惡化スルニ至ルヘシ」ト云フカ如キ警告的態度ヲ以テ（貴大使ハ上海ニ於テ又南京ニ於テハ須磨總領事ニ於テ）適宜南京側ニ説示セラレ以テ前記何應欽、宋哲元間ノ折衝ヲ此ノ上トモ我方ニ有利ニ進展セシムルニ資セラレ度尚此ノ際貴方ニ於テ右様ノ態度ヲ執ラルルモ從來南京側トノ折衝ノ經緯ト何等矛盾スル所ナカルヘシ

二、貴大使ノ南京行ノ時期ニ關シテハ前記ノ如ク何應欽カ宋哲元ト折衝ノ結果相當突キ進ミタル案ヲ携ヘ南下スル際直ニ機ヲ逸セス赴寧セラレ南京側ヲシテ該案ヲ承認セシムル様最後ノ止メヲ刺サルルコト最モ事宜ニ適スルモノト認ム但シ北支ニ於ケル折衝カ右様ノ進行ヲ爲ササル等ノ場合ニハ貴見ノ如ク貴大使ニ於テ何應欽南下前赴寧ノ上南京側ヲ説得セラルル必要生スヘキヤニ思考スルモ何レノ途今暫ク成行ヲ見ルコト肝要ト存ス

北平、天津、南京へ轉電セリ

398　昭和10年12月10日　広田外務大臣より在中国有吉大使宛(電報)

宋哲元への権限付与に関し過大な要求を慎しむことで陸海軍側と意見一致について

本　省　12月10日発

第三二七號(極祕、部外祕)

貴電第一〇八〇號ニ關シ

七日陸海軍側ト打合ノ際此ノ上慾ヲ出シ再ヒ事態ヲ荒ラクルノ不可ナル事ニ意見一致シ其ノ結果貴電第一〇七三號ト入違ヒニ往電合第九一四號ヲ發電セル次第ナリ尤モ南京側ニテ宋哲元ニ權限ヲ附與スル意向ナルカ如ク認メラルルハ南京發本大臣宛電報第一三六四號等ノ通ナルカ南京側ニテハマダマダ懸引アルラシク(現ニ貴電第一〇七七號ニ依レハ唐有壬ハ何應欽ニ與ヘムトセル六項ノ權限ヲ宋哲元ニ與フルヤ否ヤハ未タ決定シ居ラス等申シ居レリ)一方北方ニ於テハ目下宋哲元ニ於テ其ノ獲得スヘキ權限ヲ成ル可ク廣範ナルモノタラシムヘク何應欽トノ間ニ折角折衝中ナルニ付(右權限カ成ル可ク廣範ナルモノトナルコト我方ノ希望ニ合スルハ往電第三二六號一前段ノ通)差當リ北支軍部カ南京側ノ妥協案位ニテハ仲々滿足セサル態度ヲ示シ居ルハ我方トシテ得策ト認メラル但シ右態度ハ問題ノ解決ヲ此ノ上トモ我方ニ有利ナラシメムトスル我方ノ手段ニ過ギズ從テ遮二無二此ノ態度ヲ持續スル結果折角纏ラムトスル事態ヲ再ヒ打壞スカ如キコトトナラシメサルヲ要スルハ勿論ニシテ右ニ付テハ前記ノ如ク外務陸海軍中央部トモ意見一致シ居ルノミナラス出先軍部ニ於テモ其ノ點ハ心得居ル筈ナルモ萬遺憾ナキ爲メ中央軍部ヨリ喜多大佐ヲ北支ニ出張セシメ當方ヨリモ上村事務官ヲ派遣シタル次第ナリ

北平、南京、天津ニ轉電セリ

399　昭和10年12月11日　在滿州国南大使より広田外務大臣宛(電報)

宋哲元への全権付与による時局収拾を関東軍了承について

新　京　12月11日夜発

本　省　12月11日夜着

第一〇二八號(極秘、部外秘)

谷參事官ヨリ

一、九日南大使ニ對シ北支問題ニ關スル內地朝野各方面ノ動向ヲ委曲報告スルト共ニ閣下ヨリノ御傳言並ニ今回ノ北支工作ニ關スル關東軍ノ努力ニ對シ深甚ナル謝意ヲ傳達セル處同大使ハ關東軍ニ於テモ北支現地ヨリノ報告其ノ他ノ情勢ニ鑑ミ東京中央部ノ意見通リ一應北支ノ事態ヲ收拾スルコト然ルヘキ旨部下ニ申聞ケ置ケリト語ラレタリ

二、次テ西尾參謀長及板垣副長ニ對シ夫々前記大使ニ對スルト同樣ノ趣旨ヲ述ヘタル處右兩將軍ヨリモ前項ト同樣ノ回答ヲ得タリ

從テ關東軍ニ於テモ一應北平發大臣宛電報第四三二號ノ二ノ新政權ヲ行政院ノ隷下ニ立タシムル案ニテモ致方無シトシ同政權ヲシテ帝國ニ有利ナル政策ヲ實施セシムルト共ニ南京政府ノ今後ノ措置振ヲ嚴重監視スルコトニ決セルモノト認メラル

三、右樣ノ狀況ニテ今ヤ滿支各方面ニ於ケル帝國文武機關ノ間見解ノ一致ヲ見タル次第ナルヲ以テ此ノ上ハ豫テ御決定ノ對支國策ノ遂行ヲ促進スル趣旨ニ依リ南京政府ヲシテ三原則ノ具體化ニ應セシムル一方南京政府ノ六項對策ヲ利用シ北支新政權ヲシテ帝國ニ有利ナル具體的政策ヲ實行セシムルコト急務ト存スル處之カ爲ニハ滿鐵其ノ他我方實業家ノ經濟的進出ヲ促ス外政府ニ於テモ關係各省協力一致シ殊ニ大藏省方面ニ於テ充分ノ理解ヲ以テ技術的援助ハ勿邦(論カ)或程度ノ財政犧牲ヲモ忍ヒ以テ北支政權並ニ關東軍、天津軍(等)我方實力行使者ヲ失望セシメサル樣善處セラレンコト切望ニ堪ヘス

四、將又日支關係ノ紛糾カ今日ノ程度ニ止マルニ於テハ支那ノ幣制改革ハ曲リナリニモ成功ヲ收ムヘシトノ觀察ハ强チ不當ナラサルヘシト思考セラルルニ付テハ此ノ際支那ノ幣制改革ヲ妨(害)スルコト無ク寧ロ之ニ一大修正ヲ加ヘシメ殊ニ北支ニ於テハ其ノ特殊性ヲ濃厚ニシ本件ニ付テハ速ニ我指導的地位ヲ恢復スルコト時宜ニ適スト存セラル此ノ點ニ關シ最近平津地方ニ旅行シ多田司令官及川越總領事トモ熟議ヲ遂ケ且ツ關東軍ノ了解ヲモ取付ケタル星野司長ノ意見何等參考迄空送ス

400　昭和10年12月11日　在滿州国南大使より広田外務大臣宛(電報)

宋哲元への付与が望まれる金融・財政上の権限に関する星野満州国財政部総務司長の関東軍等への建策内容について

新　京　12月11日後発
本　省　12月12日前着

第一〇二九號(極秘、部外秘)
桑島東亜局長ヘ谷參事官ヨリ
往電第一〇二八號末段ニ關シ
星野司長ノ内話ニ依レハ同司長ハ北支ニ於ケル金融及財政問題ニ付新政權ハ左記權限ヲ附與セラルルコトヲ要スヘキ旨關東軍並ニ天津軍ニ對シ建策シ大体同意ヲ得タル趣ナリ

一、金融
(イ)華北所在金銀ノ區域外流出嚴禁
(ロ)北支ニ中央ト別個ノ發券銀行ヲ設立シ中央ノ銀行券ノ流通ヲ禁止ス
(ハ)華北金融管理委員會ヲ設ケ金融防衛ノ趣旨ニ依リ民間銀行ノ監督ヲ爲サシム

二、財政
(イ)新政權ハ其ノ固有ノ收入支出ヲ以テ獨立ノ歳計ヲ行フ
(ロ)右固有收入ハ關稅及鹽稅收入中徵收稅及外債負擔部分ヲ除去スルモノ、内國稅收入金全部並ニ關内鐵道收入益金トス
(ハ)關稅ヲ含ム租稅法規ノ改廢
(ニ)内外公債ノ發行權

本件ハ茲暫ク部外秘トセラレタシ

401　昭和10年12月12日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛(電報)

冀察政務委員会の権限は何応欽に予定していた範囲を下まわるとの唐有壬説明に対し強く抗議について

別　電　十二月十二日発在南京須磨総領事より広田外務大臣宛第一三九四号
右委員会の委員について

南　京　12月12日夜発
本　省　12月12日夜着

第※一三九三號
貴大臣發支宛第三二六號ニ關シ

一、本十二日唐有壬ハ本官ニ對シ昨日歸寧セル熊式輝ノ報告ヲ聽取セル上最高幹部ニ於テ冀察政務委員會ヲ別電第一三九四號ノ通リ決定(正式決定ハ一、三日後)セル次第ナリト述ヘタルニ付本官ヨリ熊式輝ノ報告ニ依リ南京側モ北支ニ自治ヲ希望スル事態アルコト及今ニ於テ適切ナル施設ヲ爲ササレハ取返シノ着カサル情勢ヲ招致スヘキコトヲ充分ニ了解セリト思考スル處同委員會ノ權限等決定セリヤト尋ネタルニ唐ハ昨夜深更ニ至ル迄合議ノ上本件委員會ノ組織大綱ニ付討議セルカ猶ホ北方ト打合スヘキ事項モアリ決定ニハ至ラサリシ次第ナルモ大体六項ヨリ範圍モ程度モ低度ナルモノトナルヘキ見込ナリト述ヘタルニ付

二、本官ヨリ右ハ一時ヲ糊塗スル術策ト云フノ外ナシ中央政府ハ六項ヲ示ス迄ニ局面ヲ了解セリト見ヘタルニモ拘ラス右ニテ其ノ意圖ヲ疑ハサルヲ得サルト同時ニ事態ヲ更ニ惡化セシムヘシト述ヘ

冒頭電報ノ趣旨ヲ敷衍力説セルニ唐ハ實ハ先般御話ノ關稅及鹽稅問題(天津宛往電第四三號)ニ付テモ相談セルカ現在ノ構成及組織ニ著シキ變改ヲ加フル措置ハ不可能ナリトノ結論ニ達シ居リ又六項モ打明ケ置キタル通リ中央カ何應欽ナラハ之レニテ采配シ得ヘシト見テ何ニ與ヘタル内訓ニ過キス之ヲ直ニ委員會ニ移シ得ヘキヤハ疑問ナリト答ヘタルニ付本官ヨリ夫レナラハ何應欽等ノ北上ハ實ハ中央ノ面子ヲ立テンカ爲ノ措置ナリトモ云フヘク誠意ノ認ムヘキモノナク委員會成立スルモ事態ハ惡化スヘシト指摘セルニ

三、唐ハ惡化スヘシトハ如何ナル意味ナルヤ蔣介石ニ於テモ此ノ點ヲ伺フ樣申シ居レリト述ヘタルニ付本官ヨリ財政、行政、其ノ他ニ付悶着ノ絶エサルヘキハ勿論ニテ南京側ノ氣分ハ北支ニ彷彿スル自治ノ氣運ヲ一蹴セントスルニ等シク事態カ全然逆轉シ委員會モ動キカ取レス遣リ直シトナルヘキコトヲ憂慮スト述ヘ此ノ點ニ就テハ更ニ考慮ヲ加ヘ何應欽ヨリ詳細ノ報告ヲ徵シ事實ニ卽スル事態ヲ作ルコト必要ナリト力説シ置キタリ

四、更ニ本官ヨリ大綱ナルモノハ何カ歸寧ノ上ニテ決定セラルヘキヤト問ヘルニ唐ハ今ノ所其ノ點決定シ居ラサルモ北支ノ事態ハ充分納得行キタル譯故此ノ上ハ南京ニ於テ妥結スルコト如何カト考ヘ居レリト答ヘタルニ付本官ヨ

リ是迄支那側ノ逃口上ニテ最少限度所謂六項目トシ而モ北支ノ事態ニ卽シ且ツ將來ノ惡化ヲ阻止シ得ル樣大英斷ヲ以テ名目ハ兎モ角實質上完全ナル自治ヲ許容スルコト肝要ナリト述ヘタルニ唐ハ右ノ趣旨ヲ日本政府ノ意嚮トシテ蔣介石等ニ取次キ然ルヘキヤト問ヘルニ付承諾シ置ケリ

（別　電）

南　京　12月12日夜発
本　省　12月12日夜着

第※一三九四號

冀察政務委員會委員ノ顔觸左ノ通

宋哲元（委員長）、萬福麟、王揖唐、劉哲、李延玉、賈德耀、胡毓坤、高凌霨、王克敏、蕭振瀛、秦德純、張自忠、程克、周作民、門致中、石敬亭、冷家驥以上十七名

402　昭和10年12月13日　広田外務大臣より在中国有吉大使宛（電報）

何応欽南下とともに南京に赴き冀察政務委員会の権限問題につき折衝方訓令

本　省　12月13日発

第◎三三〇號（至急、極秘）

往電第三二六號及南京發本大臣宛電報第一三九三號ニ關シ何應欽南下ノ際直ニ赴寧セラレ冒頭往電ノ趣旨ニ依リ少クトモ六項目（我方カ六項目ノミヲ以テ滿足スヘシト云フカ如キコトヲ「コンミツト」セラレサル樣致度）ヲ新委員會ヲシテ實施セシムルコトニ決セシムル樣極力御盡力相成度

御如才ナキコトト存スルモ念ノ爲

尙新委員會ノ權限問題ニ關スル何應欽宋哲元間交渉ノ結果ハ如何樣ニナリ居ルヤ貴方等ヘモ至急通報方陸軍中央ヨリ北支軍部ニ電報セリ

本電陸海軍ト打合セスミ

北平、天津、南京ニ轉電セリ

403　昭和10年12月16日　在中国武藤大使館一等書記官より広田外務大臣宛（電報）

重要事項の決定権が宋哲元に与えられなかったことに我が方軍側が強く反発について

北　平　12月16日夜発
本　省　12月16日夜着

第※四五三號

本官發支宛電報

第三六七號

往電第三六六號ニ關シ

十五日夜某方面ニ於テハ宋哲元側ニ對シ中央ヨリ到達シ居ルト稱セラルル組織大綱ナルモノヲ見セヨト迫リタル結果宋側ハ之ヲ呈示シタル趣ナルカ右ニ依レハ所謂權限附與等ノ事無ク却テ重要事項ニ付テハ總テ行政院ヘ請訓方ヲ命シ居ル始末ナルヲ以テ某方面ニ於テハ假ニ中央カ權限ヲ附與スルトシテモ大シタ權限ヲ與フル筈モ無ク現ニ陳儀ハ過般來平中何應欽ニナラハ相當ノ權限ヲ附與シ得ルモ宋哲元ニハ附與シ得ストノ中央ノ意嚮ヲ漏ラシ居リタル旨ノ聞込モアリ中央ノ措置ヲ賴リニシテハ冀察政務委員會ハ何事モ爲シ得サルニ等シキヲ以テ中央ノ措置ニ拘ハラス宋ヲシテ北支ノ特殊事態ニ適應スル諸般ノ施設ヲ着々實行セシムルコトヲ可トストノ意見ニテ結局冒頭往電三ノ方針ヲ以テ進ムノ外無シトノ意嚮ヲ漏ラシ居レリ

404　昭和10年12月17日　広田外務大臣より在南京須磨総領事宛（電報）

宋哲元による実権掌握をめざす軍側工作を考慮して権限問題折衝方有吉大使宛訓令

本　省　12月17日発

第◎二三〇號（極秘、至急）

有吉大使ヘ

支宛往電第三三〇號末段ニ關シ

北支陸軍ヨリ中央宛電報ニ依レハ南京側ハ權限問題ヲ有耶無耶ニ付シ去ラムトシ居ルモノト認メラルル處右事態ニ對シ宋哲元側ニテハ北支ノ事態ニ適應スル實際的措置ヲ執ル樣工作ヲ進メ行ク方針ナリトノコトナリ（委細貴地陸軍武官ニ就キ御承知相成度右中央ヨリ訓電濟）就テハ右北方ニ於ケル工作ヲ考慮ニ入レツツ累次申進メノ方針ニ依リ南京側ニ對シ最少限度六項目實施ノ權限ヲ委員會ニ與フルコト肝要ニシテ南京側カ術策ヲ弄シ之ヲ廻避スルカ如キコトアラムカ事態再ヒ惡化ノ虞アル旨ヲ充分强調セラレ以テ我目的ノ達成ニ努メラレ度

陸海軍ト打合濟

支、北平、天津ニ轉電セリ

405　昭和10年12月17日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛(電報)

冀察政務委員会の権限問題に関し何応欽と意見交換について

南　京　12月17日夜発
本　省　12月17日夜着

第※一四一九號
往電第一三九三號ニ關シ(1)

本十七日何應欽トノ會談要旨左ノ通

一、北支ニ於ケル日本軍部ノ意見一致シ居ラサルノミナラス出先ノ見解ニ對シ中央部ヨリノ指示ナキ模様ナレハ日本側意見ハ判然セサルモ宋哲元其ノ他ヨリ確メ得タル所ニ依レハ今回ノ事件コソハ全ク不可解ナル日本軍一部ノ工作ニ依リ發生セリト云フノ外ナク而モ自治運動ヲ問題ニシ居ルノミナラス例ヘハ九日日本軍用機五臺カ張北六縣ニ爆彈ヲ投スル等牽聯ナキ軍事行動ヲモ執リ居ル模様ニテ同方面ニ於ケル事態ノ收拾ハ相當困難ナルヤニ認メラルト昂奮ノ体ニテ詳細實情ヲ述ヘタル上

二、本官ノ問ニ對シ宋哲元ニ冀察政務委員會組織大綱様ノモノハ示シアルモ(北平發支宛電報第三六七號參照)右ハ權限ト云フ程ノモノナラスト答ヘタルニ付

本官ヨリ最少限度六項目ヲ下ラサル程度及範(圍々カ)ノ權限ヲ宋ニ附與シ而モ右權限ハ華北今後ノ情勢ニ順應スル様擴充シ行カルル筈ナルヘシト問ヘルニ何ハ所謂六項目ハ(初メハ知ラヌ風ヲ裝ヘリ)自分ノ受ケタル内訓ニテ政府カ(2)果シテ之ヲ今後モ基準トスヘキヤハ明カナラスト述ヘタリ依テ本官ヨリ果シテ右ノ如キ曖昧ナル仕組ナルニ於テハ形勢ハ又復逆轉惡化シ委員會存在以前ノ狀態ニ復スヘキ處此ノ點ヲ考ヘタル上ニテ前記權限ヲ定ムルノ要アルコトヲ忘ルヘカラスト指摘セルニ

三、何ハ今日ノ事件解決許リハ一ニ懸ツテ日本側ノ責任ニアル次第ナレハ日本側モ今一應再考セラレ度シト繰返セルヲ以テ本官ヨリ新政府成立ニモ拘ラス依然一時ヲ糊塗スルノ術策ヲ用ユレハ結果大局ヲ過ルコトトナルヘシト冒頭往電等ニ對スルト同様强調セルニ何ハ結局支那側ハ和平ヲ熱望スルモノナレハ種々具体問題ノ處理ニ伴ヒ自然

御趣旨ニ副フカ如キ事態ヲ作リ行クヘシト陳辯シ居タリ

406　昭和10年12月18日　在中国武藤大使館一等書記官より広田外務大臣宛(電報)

冀察政務委員会成立大会の模様について

北　平　12月18日夜発
本　省　12月18日夜着

第※四五九號

冀察政務委員會ノ成立大會ハ十八日午前外交大樓ニ於テ委員長宋哲元、委員萬福麟、劉哲、王揖唐、李延玉、胡毓坤、高凌霨、蕭振瀛、秦德純、張自忠、門致中、石敬亭、冷家驥出席(程克ハ病氣ノ爲、賈德耀ハ辭任申出中、王克敏、周作民ハ南方旅行中ニテ何レモ缺席)ノ上擧行セラレ各機關及民間團体代表等モ之ニ參加セルカ委員長ノ挨拶、委員代表ノ挨拶、商會代表ノ祝辭等ノミニテ簡單ニ終了シ直ニ各方面ニ向ツテ同委員會成立ノ通電ヲ發セリ尚成立大會終了後第一回委員會ヲ開キ常務委員トシテ王揖唐、劉哲、秦德純ノ三名ヲ互選シ毎週金曜日ニ定例委員會ヲ開クコトヲ申合ハセタルカ内部組織ニ付テハ確定セサル所アル由ニテ遂ニ發表ニ至ラス追テ宋哲元ハ其ノ挨拶中ニ自己ノ抱負トシテ

(一)人事及行政ニハ民意ヲ尊重スルコト
(二)廉潔政治ヲ以テ臨ミ特ニ金融界逼迫ノ現狀ニ鑑ミ經濟界ノ救濟ニ努力スルコト
(三)河北、察哈爾特殊ノ事態ニ顧ミ日支親善ヲ基調トシテ東洋ノ平和ヲ確保スルコトヲ述ヘ併セテ東洋道德ヲ發揚シテ共禍ヲ防遏シ不言實行ヲ以テ政治ノ改善ニ努ムヘキ旨高調セリ

407　昭和10年12月20日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛(電報)

張群外交部長は国交調整には熱意を示したが冀察政務委員会の権限問題に関する有吉大使申入れには拒絶の旨回答について

上　海　12月20日後発
本　省　12月21日前着

第一四三三號(極秘)
往電第一四一六號ニ關シ

有吉大使ヨリ

二十日張部長ト長時間會見シタルカ張ヨリ對日方針ニ關シ説明アリ兩國關係ノ根本的調節改善ニ努力シ度キ旨ヲ述ヘ相當熱意ヲ示シタルカ更ニ三原則ニ關シ日本側ヨリノ具體的提出ヲ求メ又華北問題ニ關シテハ本使ヨリ冀察政務委員會ニ少クトモ例ノ六項ノ權限ヲ與フル必要アル旨ヲ强調シタルモ張ハ之ニ應セス本使ヨリ貴電第二三〇號ノ趣旨ニ依リ强ク警告シ尚學生運動取締方ニ關シ申入ヲ爲シ置ケリ委細追電スヘキモ不取敢

支、北平、天津ニ轉電セリ

408　昭和10年12月28日　在福州中村(豊一)総領事より広田外務大臣宛(電報)

華北時局に関する陳儀福建省主席の内話について

福　州　12月28日夜発
本　省　12月28日夜着

※第一六七號

一、華北自治請願運動團ノ正体ナルモノハ何レモ日當ヲ給シ驅リ集メタル無賴漢ノ集團ニシテ素ヨリ自治ノ何タルヤヲ解セス華北ノ有識者ハ何レモ斯ル者カ政治ニ參與スルニ至ラハ如何ナル事態ヲ惹起スルヤモ知レスト惧レ中央ニ頻々トシテ善處方請願シ來リタルモノナリ恐ラク日本ノ中央ニ於テモ現場ノ眞相カ判明セハ斯ル運動ニ重キヲ置カルルコトナカルヘシ曾テ曹錕カ民意ヲ僞造シ大總統タラントセシコトアルモ今回ノ自治運動ハ夫レニモ優ル拙劣ナル手段トシテ識者ノ憂慮ニ堪ヘサル所ナリ

二、上海、北平方面ニ於テモ日本ノ要路者ト屢會見シタルモ必スシモ意見ノ一致ヲ見居ラス的確ニ日本ノ希望セラルル所カ那邊ニアルヤヲ捕捉スルニ苦ミタリ又首腦部ノ意思カ最前線ノ出先ニ徹底シ居ラサルヲ思ハシメタリ

三、(2)何應欽カ所謂六項ノ權限ヲ委ネラレ北上シタル當時ハ自治問題ハ北支五省ニ關聯シ蔣院長モ南京ニ腰ヲ落着ケ責任ノ衝ニ當ル決心着キ居ラサリシ爲何ニ廣汎ナル權限ヲ與ヘントシタルモノナルモ其ノ後自治問題ハ二省ノ問題ニ限ラレ蔣介石モ南京ニ於テ責任ノ衝ニ當ルコトトナリタル爲多少事態ニ變化ヲ見タル次第ナリ

支那側モ過去ニ於テ日本ノ要求ニ過度ノ杞憂ヲ懷キ問題ノ迅速解決ヲ計ラサリシハ(例ヘハ通車問題ノ如キ)確ニ失敗ナリシコトニ氣付キ居リ此ノ點ハ改ムルコトニ首腦者間ニ決定セリ

四、本官ヨリ累次ノ御來電ニ從ヒ現地ノ首腦者カ一々無責任ナル黨部ニ牽制セラレ中央ニ指揮ヲ仰クニ於テハ懸案ノ圓滿ナル解決ヲ爲シ得サルヘシト指摘シタルニ對シ陳ハ全然同感ノ意ヲ表シ黨部ノ爲ニ迷惑ヲ爲シ居ルハ日本ヨリモ直接行政ノ衝ニ當ル吾々ニシテ此ノ弊害ヲ痛感シ居リ蔣介石モ今般此ノ點ヲ改革スルコトニ決心シ現ニ各部長ノ人選ノ如キモ多數ノ黨外人ヲ任用シ居ルカ如キ其ノ證據ナリ是等ハ二、三年前ニハ想像タニモシ得サリシ所ナリ只徒ニ壓迫ヲ加フルニ於テハ他ニ惡影響ヲ來スヘキヲ以テ善處ニ腐心シ居ル次第ナリ暫ク事態ノ推移ヲ見ラレ度シト述ヘタリ

五、(3)宋哲元ニ對シテハ中央ハ充分信賴シ居リ委員會ノ選任ノ如キモ全然彼ニ一任シ今後ハ先ツ都合好ク運フヘシト期待シツツアリ

六、學生運動ハ初ヨリ黨部又ハC・C團ノ計畫スルモノニアラサルモ今日トナリテハ彼等カ之ヲ利用セントスル形勢モアルニ付充分警戒ヲ要ス差當リハ武力以外ノ手段ニテ善導シ居ルモ自分ハ南京ヨリ福建省ニ關スル限リ禁止方ヲ打電シ先ツ々々都合好ク行クヘシト豫想ス

尚福州市各方面ニテハ今般陳儀北上ノ結果華北ノ事態ノ惡化ヲ喰止メ得タリト思考シ歸福ノ際ノ如キ大歡迎ニテ元老薩鎭冰カ市民ヲ代表シ歡迎ノ辭ヲ朗讀スル等陳儀ハ相當權威ヲ高メタルモノト認メラル從テ此ノ方面ヨリ見レハ今後我方トノ折衝上ニモ一層好都合ニ運フヘシト思考ス